

平成23年度（第55回）  
岩手県教育研究発表会資料

特別支援教育

# 岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級 指導教室における自閉症のある児童生徒への 指導・支援状況に関する調査

平成24年2月14日  
岩手県立総合教育センター  
教育支援相談担当  
佐藤 一也  
佐々木 恵理子  
梅野 展和  
佐々木 一義  
最上 一郎  
古川 制子  
大谷 哲弘  
五安 城正敏

## I 自閉症のある児童生徒への指導・支援状況に関する調査の概要

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

この調査は、国立・県立特別支援学校（知的障がいのある児童生徒が在籍している学級）・特別支援学級（知的障がい，自閉症・情緒障がい）・通級指導教室（言語，難聴，LD等）を対象に，自閉症（アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がいを含む）のある児童生徒の実態や教育課程，指導・支援状況等を明らかにするためのものである。

#### (2) 調査対象

- ・国立・県立特別支援学校（知的障がい）学級担任
- ・小学校特別支援学級（知的障がい，自閉症・情緒障がい）学級担任
- ・小学校通級指導教室（言語，難聴，LD等）担当者
- ・中学校特別支援学級（知的障がい，自閉症・情緒障がい）学級担任
- ・中学校通級指導教室（言語，難聴，LD等）担当者

#### (3) 調査校

- ・国立・県立特別支援学校（知的障がい）11校
- ・特別支援学級（知的障がい，自閉症・情緒障がい），通級指導教室（言語，難聴，LD等）設置校

小学校：207校 中学校：117校

### 2 回収状況

小学校有効回答数	176校	（回収率 85%）
中学校有効回答数	80校	（回収率 68%）
特別支援学校有効回答数	11校	（回収率 100%）

### 3 調査内容

県内の自閉症のある児童生徒の実態や教育課程，指導・支援状況等に関する実態調査及び意識調査である。

### 4 調査方法

- (1) 調査用紙は，小・中学校へは総合教育センターより当該教育事務所，当該市町村教育委員会を通して配布した。国立・県立特別支援学校へは総合教育センターより直接配布した。
- (2) 回収については，各校から当センター教育支援相談担当への直接返送（メール）により行った。

### 5 調査期間

平成23年9月21日（水）～平成23年10月14日（金）当該調査校で調査を実施。

## Ⅱ 質問項目

	質 問 項 目
1	教職経験年数
2	特別支援学校教諭免許状保有状況
3	自立活動免許状保有状況
4	学級の様子：自閉症の診断（疑い含む）、知的発達、適応状況
5	学級において大切にしている指導内容
6	自閉症のある児童生徒に対して大切にしている指導内容
7	学級の教育課程編成上の考慮点 ※ 通級指導教室は除く
8	自立活動の必要性
9	自立活動として取り入れている指導形態
9-1 9-2 9-3	} 指導形態ごとの、自立活動として取り入れている指導内容
10	自立活動を取り入れた際に取り組んでいること
11	自立活動の目標や指導内容等の、個別の指導計画への位置付け
11-1-①	個別の指導計画への位置付け方法
11-1-②	個別の指導計画の活用方法
12	自閉症のある児童生徒の学校生活の充実、就労実現に向けての課題
13	自閉症のある児童生徒の指導・支援の充実に向けての課題

## 【分析と考察】

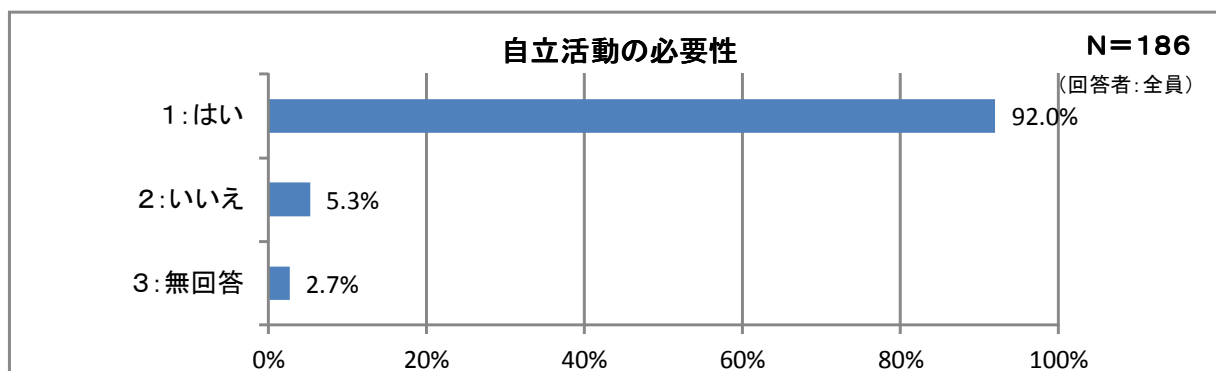
### 特別支援学校

## 【特別支援学校調査】

### 1 自立活動の基本的な考え方等の理解について

#### [自立活動の必要性]

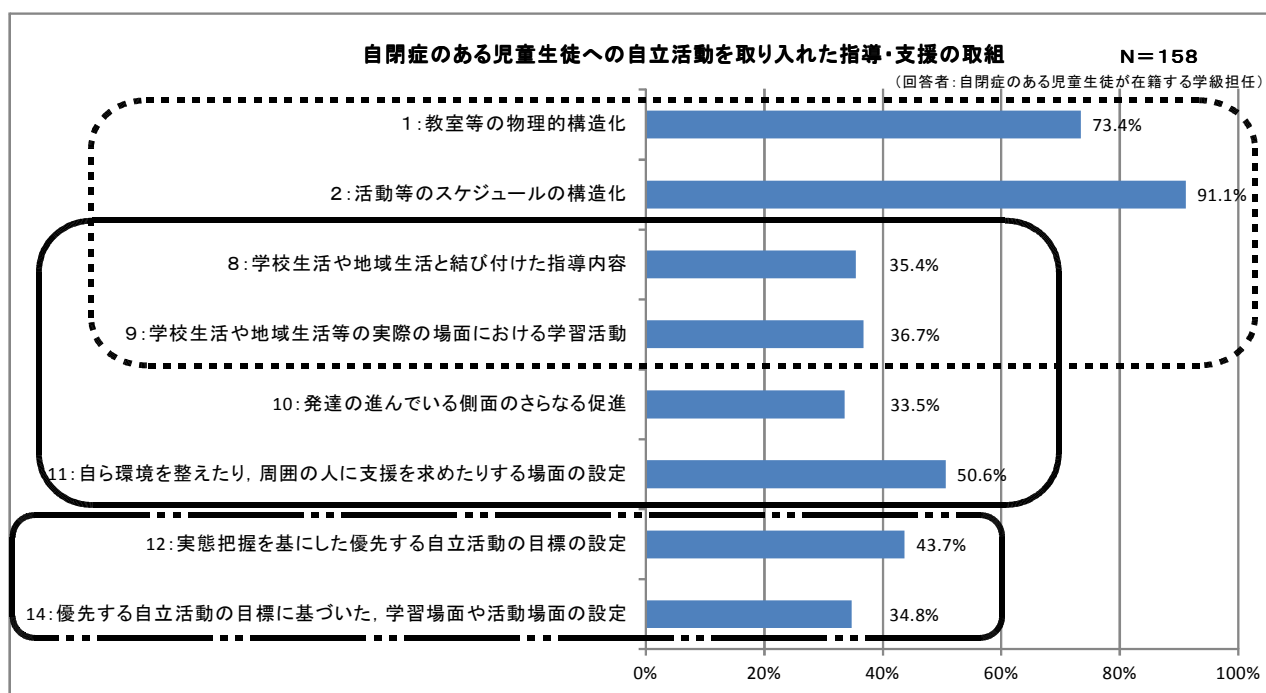
質問8 自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。



◆ 自立活動を必要だと思っている担任は、90%を超えている。


#### [自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 1, 2 から、教室等の物理的構造化や活動等のスケジュールの構造化に取り組んでいる学級は、いずれも70%を超えているのに対し、学校生活や地域生活に関する指導内容や学習活動を取り入れている学級は40%に満たない状況である。

◆ 特別支援学校学習指導要領では、指導内容を設定する際の配慮事項として、8, 9, 10, 11, 12, 14 の4項目を示している。これらの項目は、33.5~50.6%と低い割合の取組となっている。

◆ から、優先する自立活動の目標の設定及び学習場面等の設定に取り組んでいる学級は、半数に満たない状況である。

#### 〈分析と考察〉

今回の学習指導要領の改訂では、自立活動の目標において、従前の「障害に基づく種々の困難」を「障害による学習上又は生活上の困難」に改めた。これは、児童生徒の実態に応じ、日常生活や学習場面等の諸活動、つまり、生活と結び付いた諸活動において、その障がいによって生ずるつまづきや困難について明記したものである。しかしながら、調査の結果から、生活と結び付けた指導内容や学習活動に取り組んでいる学級は低い割合であった。ただし、構造化については、自閉症のある方へのエチケットであると言われてるように、県内の特別支援学校においても高い割合で取り組んでいる様子が明らかとなった。

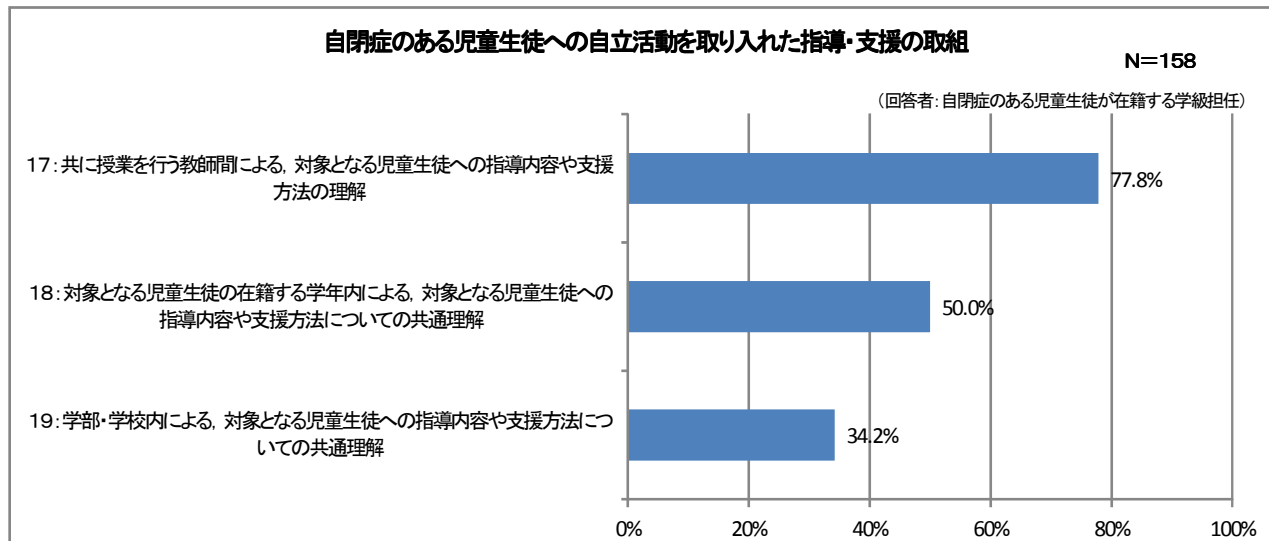
自立活動の指導に当たっては、具体的に指導内容を設定することとなる。その際の配慮事項として、特別支援学校学習指導要領には、主体的に取り組む指導内容等が示されている。しかしながら、調査の結果を見ると、これらのことに取り組んでいる学級は極めて低い割合であった。同様に、優先する自立活動の目標設定や学習場面や活動の設定も低い割合であった。

以上のことから、県内の特別支援学校においては、自閉症の理解が進み、障がいの特性を踏まえた構造化などの支援方法が充実してきているものと思われる。一方で、児童生徒の実態に応じた適切な指導内容の設定に当たっては、十分な取組とは言えない状況である。これは、自立活動の基本的な考え方やその内容を理解することの不十分さが要因の一つであるものと考え。また、実態把握から実際の指導へ結び付けるための指導計画の作成においても、学習指導要領に示されている指導計画の作成手順とは異なる手順で進められているということも要因ではないかと考える。

## 2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解について

[自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 共に授業を行う教師間での共通理解を行っている学級が77.8%であり、学年内、学部・学校内と共通理解の対象が広がるにしたがって割合は低くなっている。

### 〈分析と考察〉

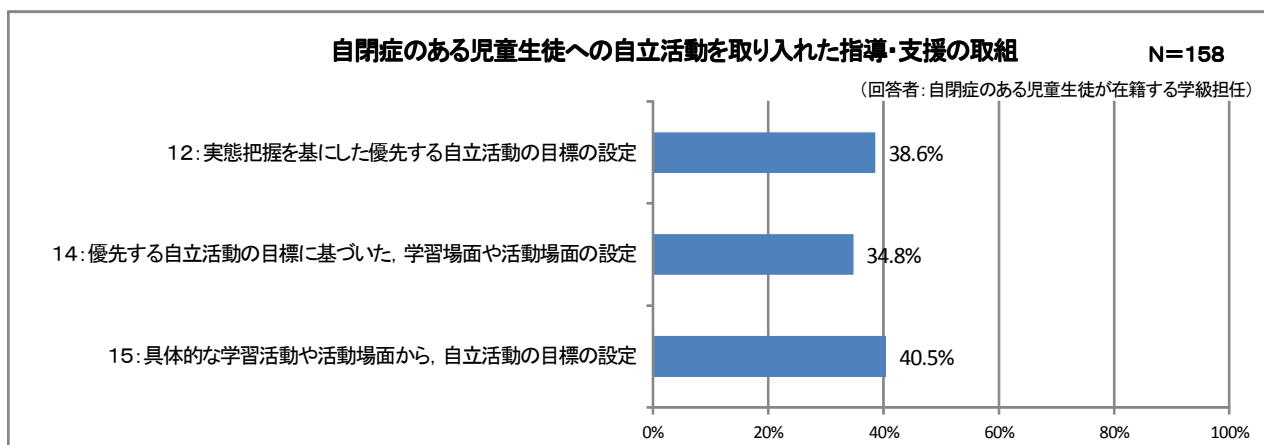
共に授業を行う教師間による、指導内容や支援方法の共通理解は、約7割の学級で取り組んでいる。チームティーチングで学習活動を進めることの多い特別支援学校において、児童生徒にとっても、担任にとっても一番身近な共に授業を行う教師との共通理解が約7割という現状は、決して高い割合ではなく好ましい結果とは言えない。共に授業を行う教師間においては、日常的な話題として、児童生徒への指導内容や支援方法があげられることが望ましいことである。

この結果の要因として、児童生徒の共通理解を行うための時間や場の設定・進め方の難しさや、共通理解のための方法が明確でないことなどが考えられる。これらの要因は、共通理解を図る対象が広がるほど増してくるものとも考えられる。また、日常的に授業における支援の最適化について話し合うことの少なさや、教師自身のコミュニケーション能力の向上の必要性などの要因も考えられる。

### 3 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定について

[自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

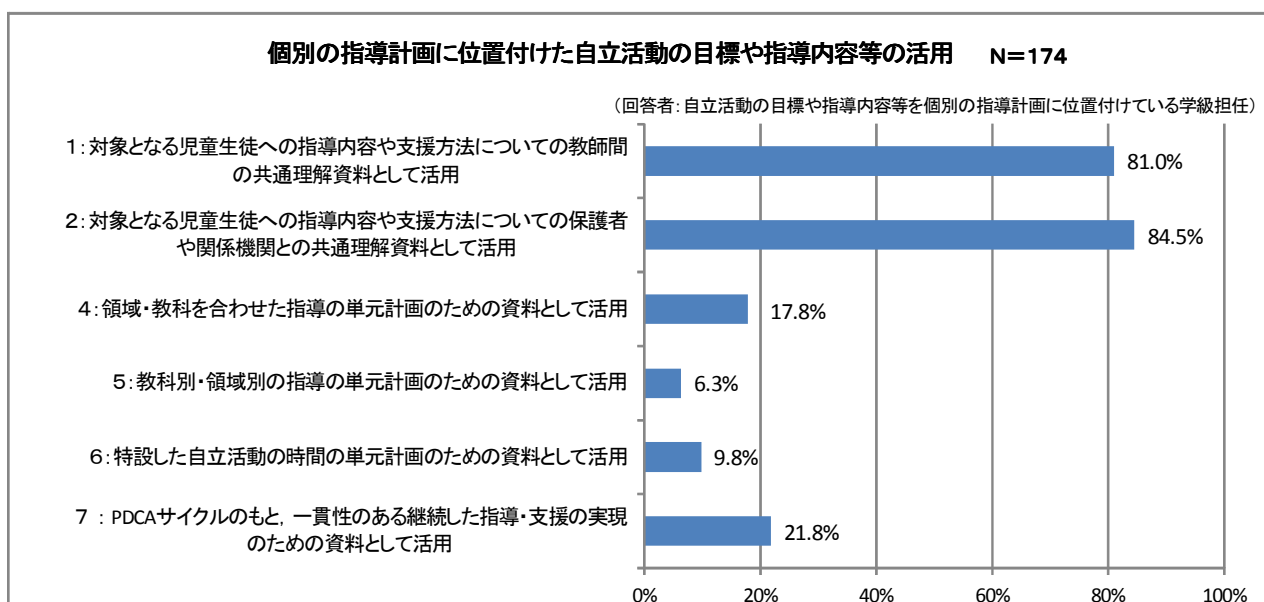
質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 実態把握から、優先する自立活動の目標の設定及び学習場面等の設定に取り組んでいる学級は、半数に満たない状況である。一方、具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標の設定に取り組んでいる学級も同程度の割合となっている。

[個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等どのように活用していますか。(複数選択可)



◆ 個別の指導計画を教師間の共通理解資料として活用している学級が80%以上であるのに対して、個別の指導計画をそれぞれの指導形態の単元計画のための資料として活用している学級は、20%にも満たない状況である。



### 〈分析と考察〉

自立活動の指導・支援を進めるに当たっては、教育的ニーズに即した目標を設定した上で、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を検討していくことが必要である。しかしながら、自立活動を取り入れた指導・支援の取組の結果を見ると、自立活動における優先する目標を設定して学習活動を行っている学級は半数にも満たない。さらに、具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標を設定している学級が同程度あるという現状も明らかとなった。このことから、児童生徒の実態に応じて優先する目標を明確に設定しないまま、その時々活動に応じて目標を設定しながら指導・支援を行っている学級が少なからず存在しているのではないかと考えられる。

また、それぞれの指導形態の単元計画に、個別の指導計画に位置付けている自立活動の目標や指導内容を活用している学級が低い割合であるという現状からも、教育的ニーズに即した目標を設定した上で、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を検討することが不十分な学級が多く存在していると考えられる。

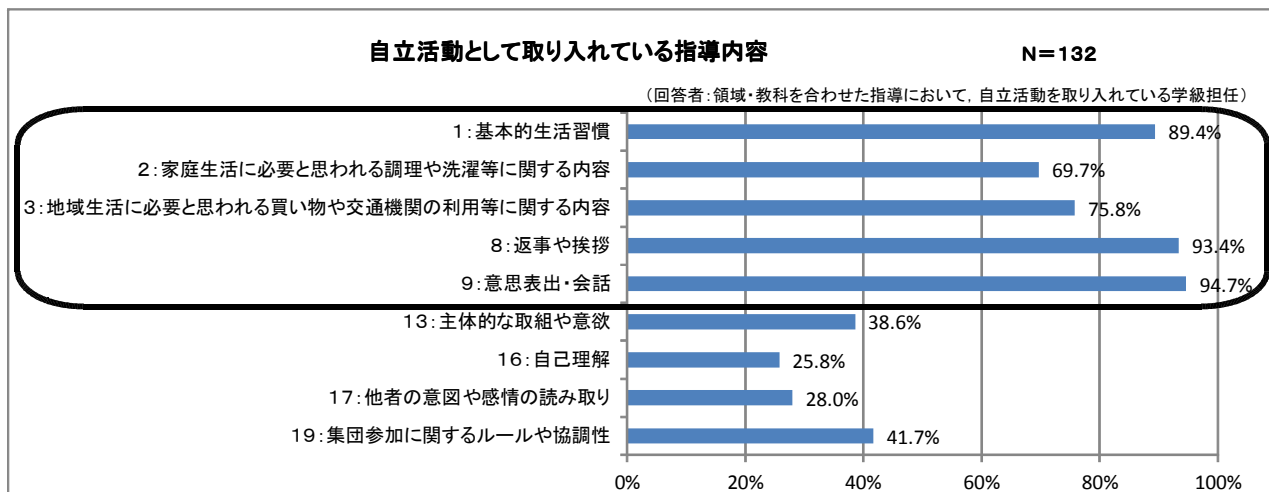
## 4 それぞれの指導形態のよさを生かした指導について

### 領域・教科を合わせた指導

#### [自立活動として取り入れている指導内容]

質問9-1 質問9で「1：領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。

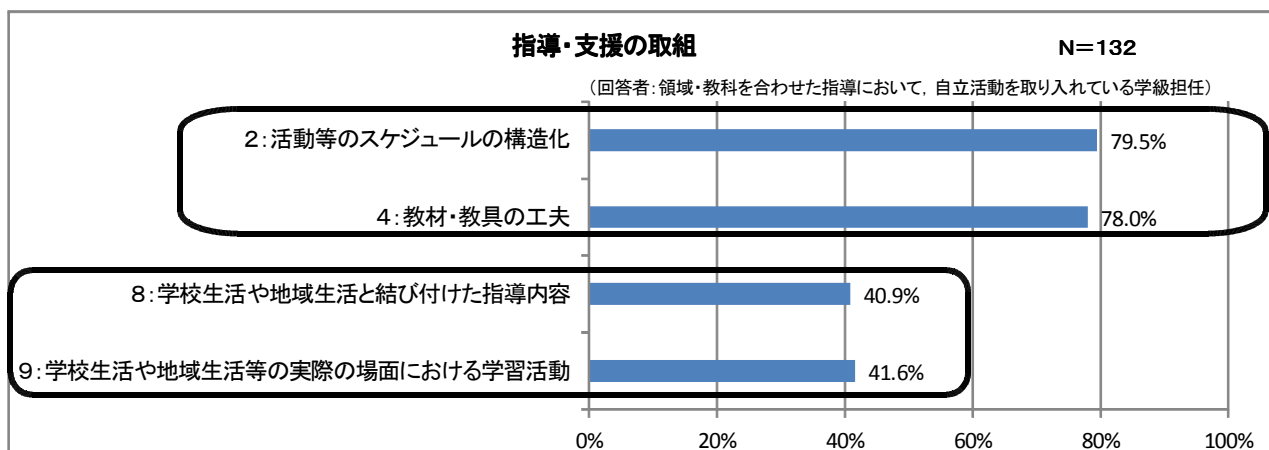
(複数選択可)



- ◆ 「返事や挨拶」、「意思表示・会話」、「基本的な生活習慣」を自立活動の指導内容として取り入れていると回答した学級の割合が、約90%となっている。また、家庭生活や地域生活に関する内容を指導内容として取り入れている学級も70%前後と、ほかの指導形態よりも約15~30%高い割合となっている。

#### [指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



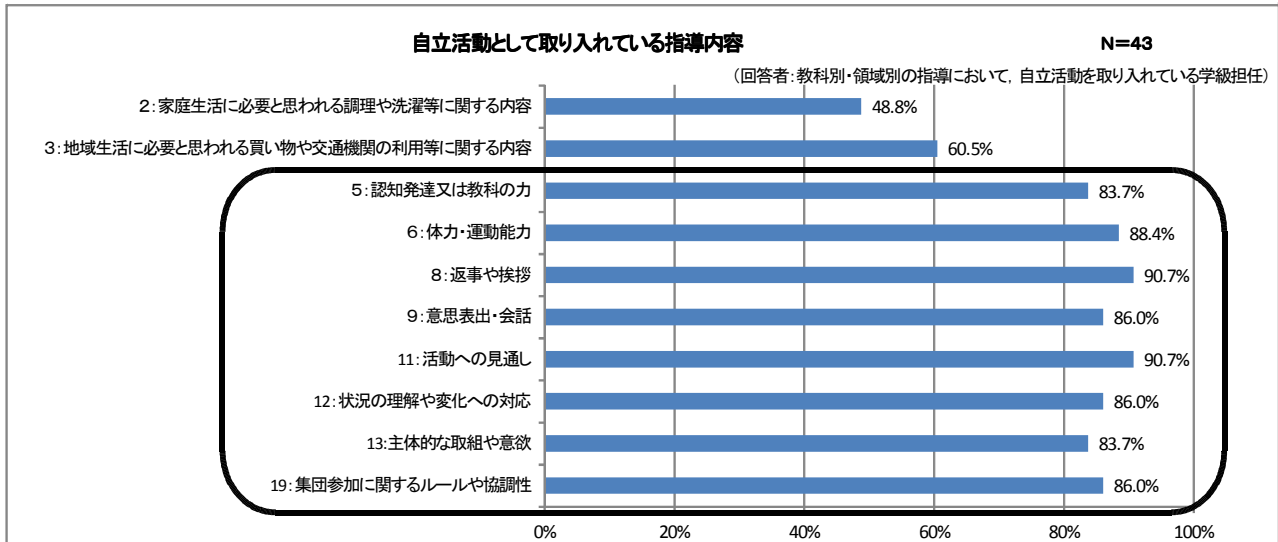
- ◆ 指導・支援の取組として、「活動等のスケジュールの構造化」、「教材・教具の工夫」を取り入れている学級は70%を超えているものの、学校生活や地域生活に関することは40%程度である。

## 教科別・領域別の指導

### [自立活動として取り入れている指導内容]

質問9-2 質問9で「2：教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。

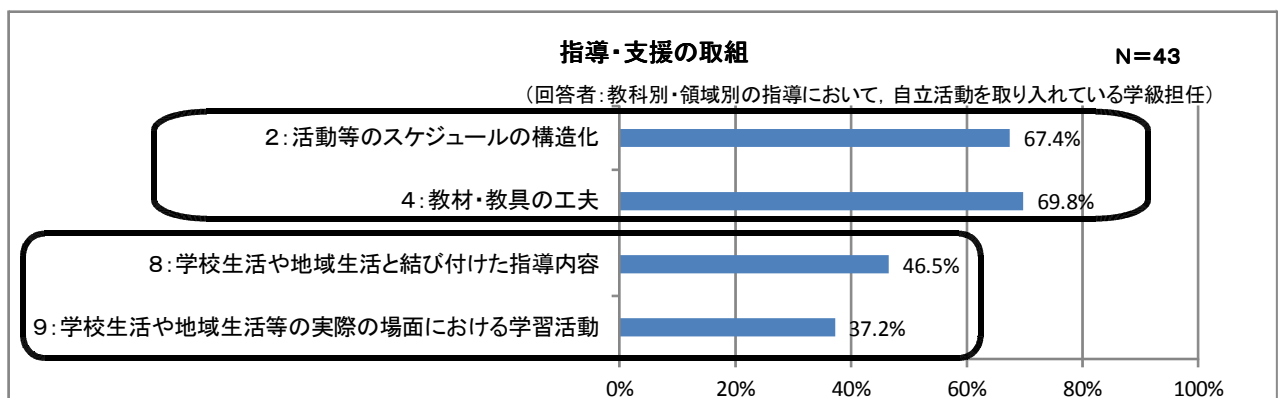
(複数選択可)



- ◆ 「返事や挨拶」、「活動への見通し」を自立活動の指導内容として取り入れていると回答した学級の割合が、90.7%となっている。そのほかに、「認知発達又は教科の力」、「体力・運動能力」、「意思表示・会話」、「状況の理解や変化への対応」、「主体的な取組や意欲」、「集団参加に関するルールや協調性」も80%を超える割合となっている。

### [指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)

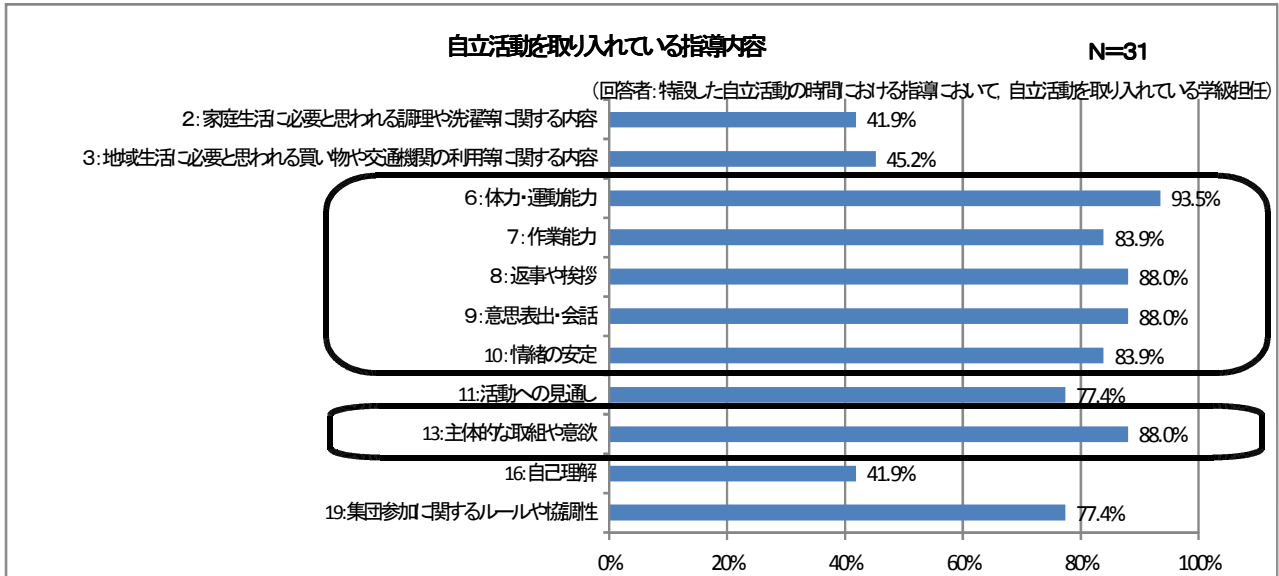


- ◆ 指導・支援の取組として、「活動等のスケジュールの構造化」、「教材・教具の工夫」を取り入れている学級は、70%近い割合となっているものの、学校生活や地域生活に関することは40%前後の割合である。

## 特設した自立活動の時間における指導

### [自立活動として取り入れている指導内容]

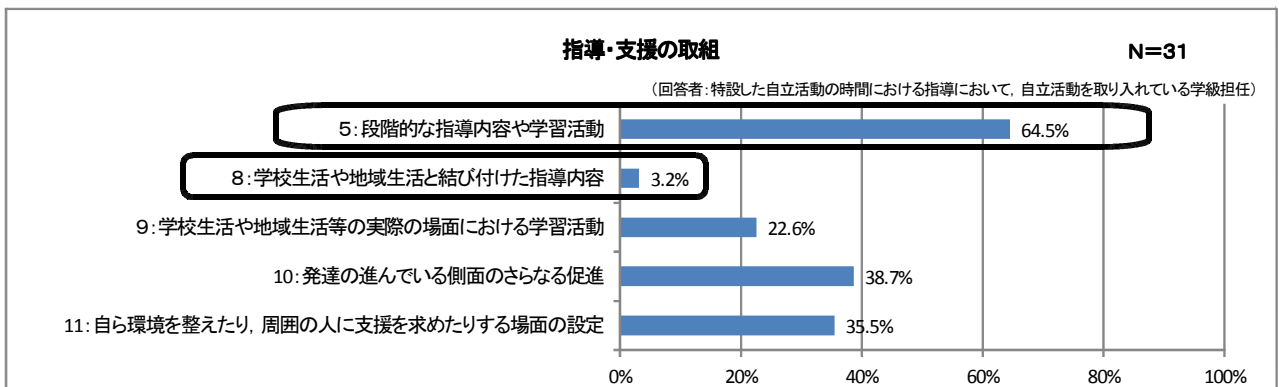
質問9-3 質問9で「3：特設した自立活動の指導として取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。(複数選択可)



- ◆ 「体力・運動能力」を自立活動の指導内容として取り入れていると回答した学級が、93.5%と一番高い割合になっている。そのほかに、「作業能力」、「返事や挨拶」、「意思表示・会話」、「情緒の安定」、「主体的な取組や意欲」も80%を超える割合となっている。

### [指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



- ◆ 指導・支援の取組として、「段階的な指導内容や学習活動」を取り入れている学級が一番多く、64.5%である。「学校生活や地域生活と結び付けた指導内容」は3.2%と、ほかの指導形態と比べて1/10程度の割合となっている。

### 〈分析と考察〉

どの指導形態の結果を見ても、「返事や挨拶」、「意思表示・会話」を指導内容として取り入れているという割合が高い。これは、自閉症のある児童生徒が抱える他者とのかかわりへの困難さに対応するためであるものと考えられる。一方では、学校生活や地域生活に関する指導・支援の取組が低い割合となっている。これは、児童生徒が取り組んでいる学習活動が、実際の生活と結び付かない状況下で行われていること、あるいは、取り組んだことが実際の生活になかなか結び付かないという現状を反映しているものと思われる。これらのこと以外について、それぞれの指導形態ごとに分析と考察を以下に示す。

領域・教科を合わせた指導は、実際の状況下で生活に結び付いた具体的な活動場面を設定しやすいことから、基本的な生活習慣を指導内容として取り入れている学級が多いものと考えられる。しかしながら、指導・支援の取組として、家庭生活や地域生活に関することを取り入れている学級は、ほかの指導形態と同様に約4割である。つまり、残り約6割もの学級では生活に結び付いた具体的な場面を生かしきれていない状況が明らかとなった。また、集団で活動することが多い領域・教科を合わせた指導であるものの、集団参加を指導内容として取り入れていない学級が多いことも明らかとなった。

教科別・領域別の指導では、「認知発達又は教科の力」について取り入れている学級が多い。これらの学級においては、自立活動の視点を取り入れながら、それぞれの教科等のねらいを達成することができるよう指導しているものと考えられる。一方、家庭生活や地域生活に関する指導内容を取り入れている学級は少ない。このことは、教科別・領域別の指導そのものが、生活的なねらいをもたせたり、生活と結び付けて取り組んだりするような学習活動につながっていないという表れではないかと考えられる。

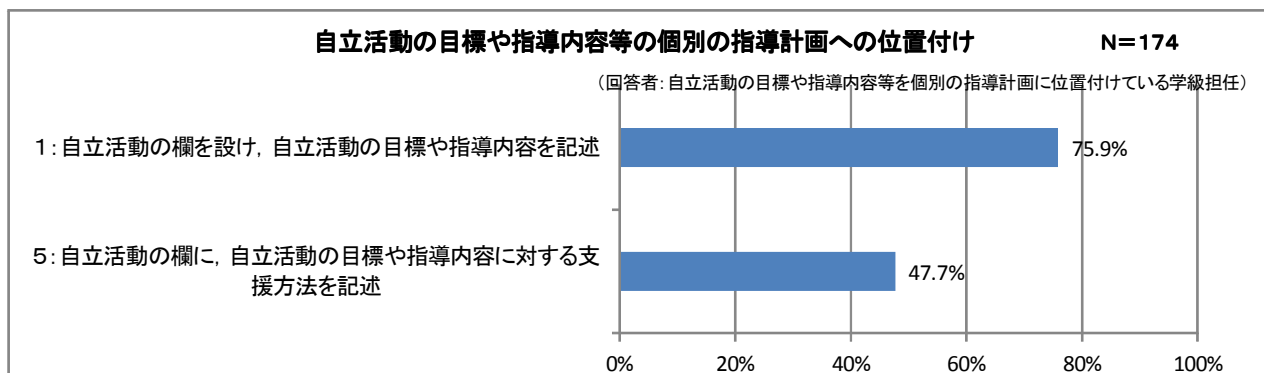
特設した自立活動の時間における指導では、9割を超える学級が、「体力・運動能力」に関する指導内容を取り入れている。これは、特設した自立活動の時間が、体育の時間と並行して日課表に設定されていたり、体育的行事の取組に関する指導内容を取り入れているなど、教科内体育や教科外体育と関連させながら取り組んでいるからではないかと考えられる。特設した自立活動の時間における指導は、ほかの指導形態よりも、家庭生活や地域生活に関する指導内容を取り入れている学級がさらに少なく、実際の場面における学習活動も低い割合になっている。一方では、「段階的な指導内容や学習活動」を取り入れているとする学級が一番多い。特設した自立活動の時間は、ほかの指導形態と比べると、一人一人に応じた指導内容や学習活動を設定しやすい指導形態であることから、教室等において、一人一人の発達段階等に基づくボトムアップの学習活動が行われているのではないかと考えられる。

以上のことから、それぞれの指導形態の特性をとらえながら、学校生活や地域生活と結び付けた指導内容や学習活動を取り入れたり、実際の場面を踏まえ、卒業後の社会での生活を想定したトップダウンの学習活動を展開したりするなどの指導・支援の改善が必要なのではないかと考える。

## 5 個別の指導計画の活用について

[自立活動の目標や指導内容等の個別の指導計画への位置付け]

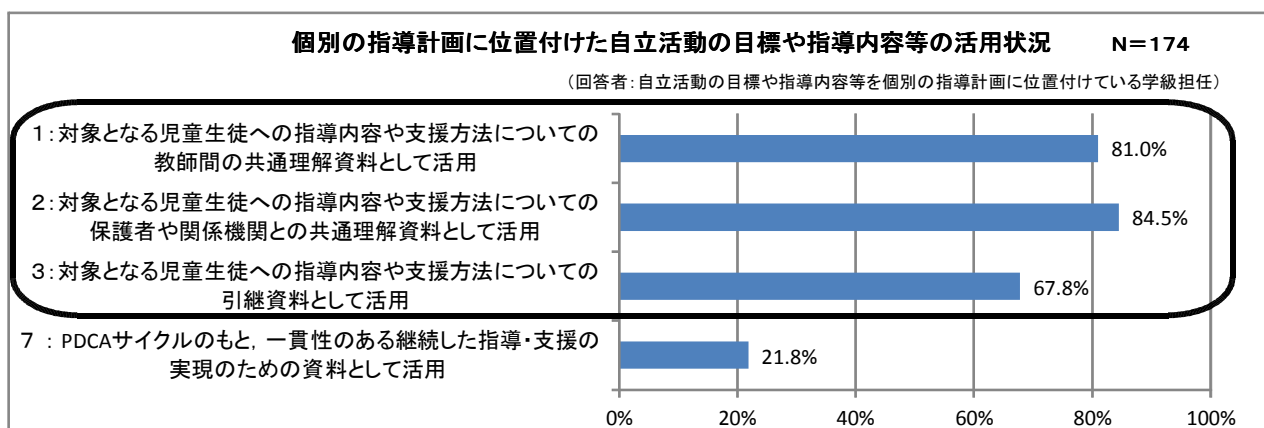
質問11-1-① 自立活動の目標や指導内容は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。  
(複数選択可)



◆ 「自立活動の欄を設け, 自立活動の目標や指導内容を記述」しているのが75.9%, 支援方法まで記述している学級は47.7%となっている。

[個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は, どのように活用していますか。(複数選択可)

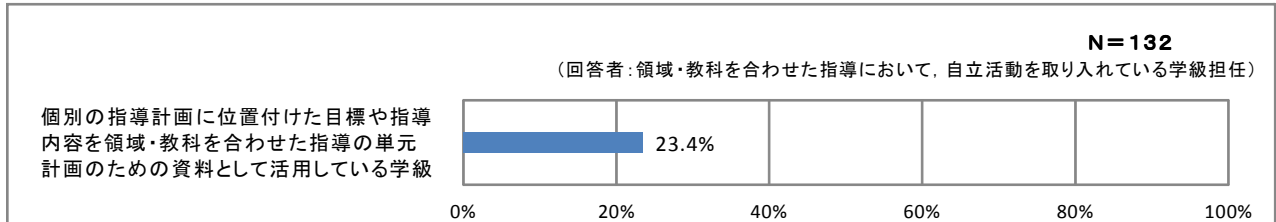


◆ 教師間や保護者, 関係機関の共通理解資料としての活用が80%を超えている。また, 引き継ぎ資料としての活用も67.8%と, 比較的高い割合になっている。

## [個別の指導計画の活用]

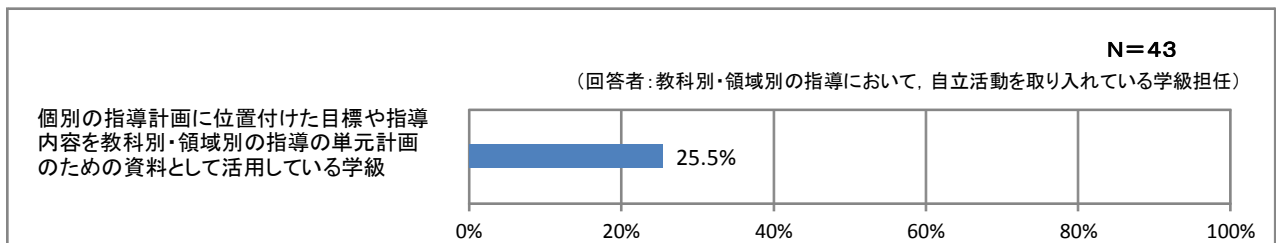
質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)

### 領域・教科を合わせた指導



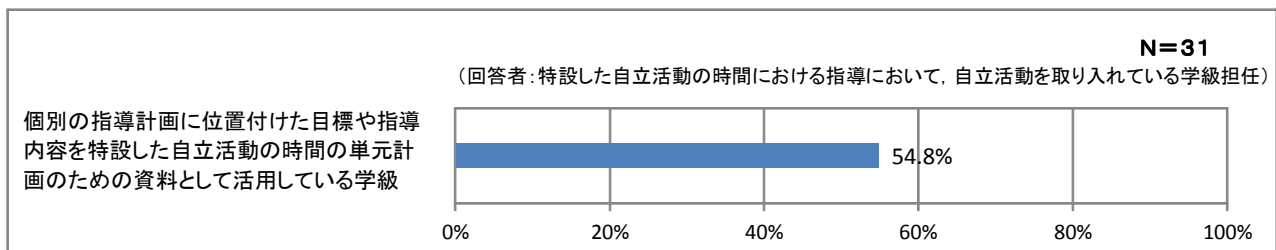
◆ 領域・教科を合わせた指導の単元計画に活用している学級は、23.4%と低い割合である。

### 教科別・領域別の指導



◆ 教科別・領域別の指導の単元計画に活用している学級は、25.5%と低い割合である。

### 特設した自立活動の時間における指導



◆ 特設した自立活動の時間の単元計画に活用している学級は、約半数の54.8%であり、他の指導形態に比べると2倍以上の割合である。

### 〈分析と考察〉

特別支援学校の多くの学級では、個別の指導計画を、自立活動の目標や指導内容を教師間や保護者との共通理解や引継資料として活用していることが明らかとなった。

個別の指導計画は、児童生徒の一人一人の具体的な目標や指導内容、支援方法を明確にし、日々の授業に生かすためのものであるが、それぞれの指導形態における単元計画の資料としての活用については、「特設した自立活動における指導」を行っている学級が5割、「領域・教科を合わせた指導」や「教科別・領域別の指導」において自立活動を取り入れている学級では、3割にも満たない状況である。また、「PDCAサイクルのもと、一貫性のある継続した指導・支援の実現のための資料として活用」していると回答した学級担任は、2割を若干超える割合であった。

今後は、目標や指導内容を設定するだけにとどまらず、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を個別の指導計画に盛り込んだり、常に支援方法を検討していったりするなど、PDCAサイクルのもと、一貫性のある継続した指導・支援の充実を図るための道具として活用されていくことが望まれる。



## 【分析と考察】

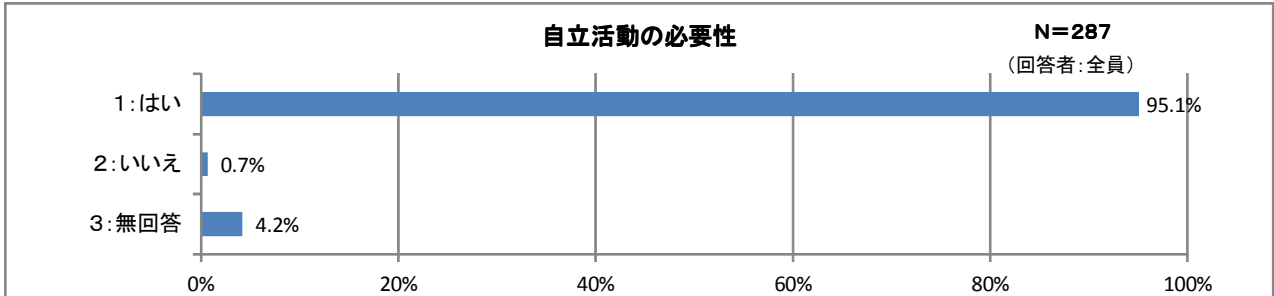
### 特別支援学級

## 【特別支援学級調査】

### 1 自立活動の基本的な考え方等の理解について

#### [自立活動の必要性]

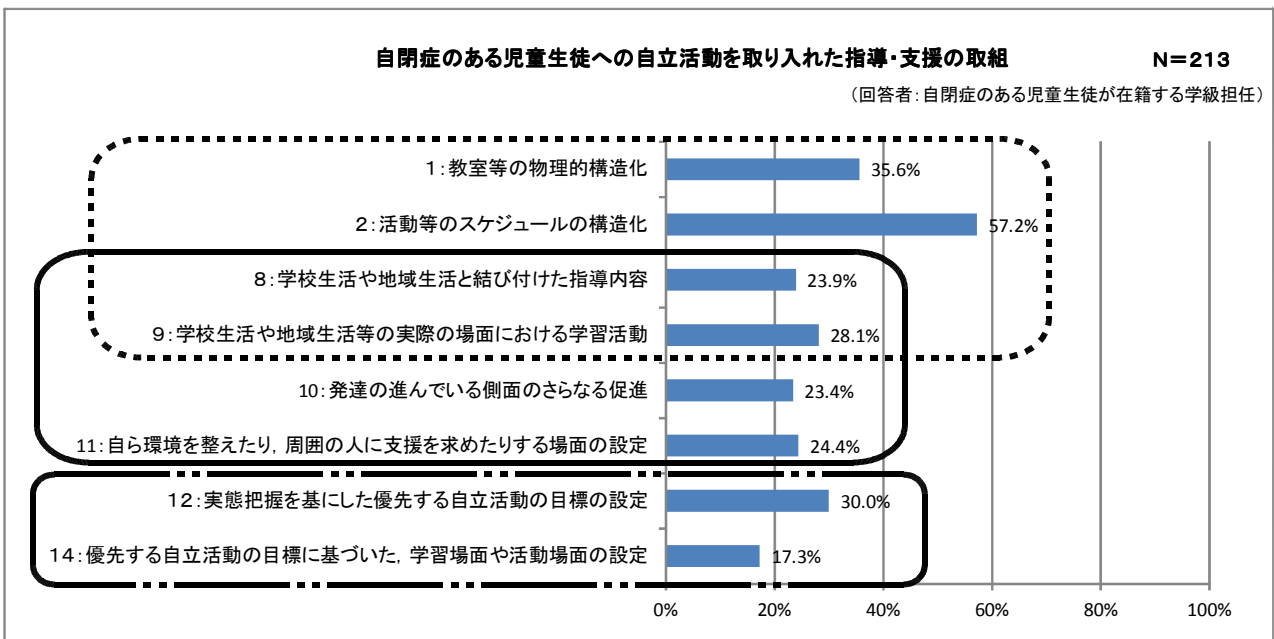
質問8 自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。



◆ 自立活動を必要だと思っている担任は、95.1%である。

#### [自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ [ ] を見ると、「活動等のスケジュールの構造化」は約半数の学級で取り組まれているものの、「教室等の物理的構造化」は35.6%となった。また、学校生活や地域生活に関する指導内容を取り入れ、学習活動に取り組んでいる学級は25%前後と低い割合である。

◆ [ ] を見ると、「発達の進んでいる側面のさらなる促進」等、自立活動の指導を進めるに当たっての配慮事項である項目については全般的に低く、25%前後の取組となっている。

◆ [ ] から、優先する自立活動の目標の設定については、30.0%となっており、目標に基づいた学習場面等の設定は17.3%である。

### 〈分析・考察〉

自立活動は、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとするものであることから、生活と結び付いた様々な活動において、その取組を進めていく教育活動である。ほとんどの教師は、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要であると考えているものの、実際に取り組んでいることとしては、スケジュールの構造化や教室等の物理的構造化など障がい特性に応じた環境調整でさえも、約半数程度である。一方で、生活と結び付いた指導内容や学習活動を取り入れている学級は、25%前後と低い割合になっている。

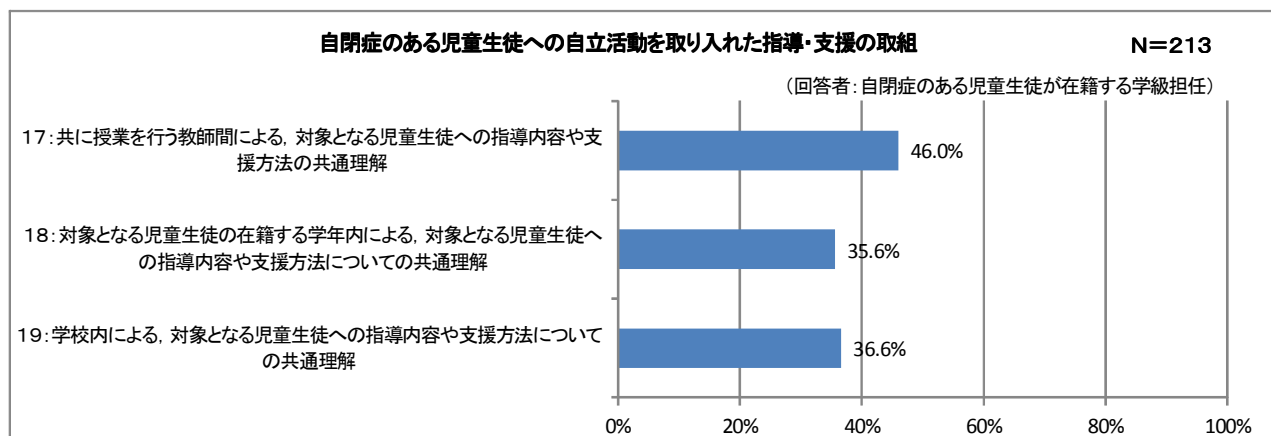
また、優先する自立活動の目標を設定したり、その目標に基づいた学習場面や活動場面を設定したりすることも低い割合となっている。さらに、学習指導要領には、自立活動の指導内容を設定する際、発達の進んでいる側面に着目した指導内容や自ら環境を整える指導内容等を設定することが、配慮事項として示されているものの、実際に取り組んでいる学級は2割程度と低い割合である。

以上のことから、特別支援学級担任は、自閉症のある児童生徒への指導・支援の困難さを抱え、自立活動を適切に取り入れたいと考えているものの、自閉症のある児童生徒の理解や、自立活動の基本的な考え方やその内容の理解が十分ではないため、実際の指導・支援に活かされていないのではないかと考えられる。

## 2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解について

[自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 共に授業を行う教師間での共通理解を行っている学級は46.0%であり、学年内、学校内の共通理解においては、36%前後と割合は低くなっている。また、特別支援学校と比較して、それぞれの割合の開きは最大で約31ポイントである。

[自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けた改善点、解決すべき点]

質問13 自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや、解決すべき点について自由にお書きください。

【表1】自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けた改善点、解決すべき点について記述された内容と人数

記述された内容	特別支援学校	小・中学校 特別支援学級	小・中学校 通級指導教室	合計
教員の専門性	7	18	4	29
人的・物的環境の整備	7	19	0	26
<b>教職員の共通理解</b>	4	<b>18</b>	3	25
周囲の理解による環境調整	4	7	8	19

◆ 「教職員の共通理解」の回答数は、特別支援学校や通級指導教室より多く記述されている。

### 〈分析と考察〉

自立活動の指導に当たっては、個々の児童生徒の障がいの状態や発達の段階等の的確な把握に基づき、指導目標や指導内容を明確にして学習活動を進める必要がある。そのためには、担任だけではなく、指導に当たるすべての教師間で指導内容や支援方法等について、共通理解を図りながら指導・支援を行っていくことが大切である。

調査結果を見ると、共に授業を行う教師間による共通理解を行っている学級は半数にも満たない状況にある。また、学年内での共通理解も35.6%にとどまっており、交流学級との共通理解を図りながら取組を進めている学級も少ないと考えられる。共に授業を行う教師間での共通理解を図っている学級が少ない結果であったのは、特別支援学級担任は一人で授業を進めることが多く、共に授業を行う教師自体が少ないということも要因の一つと考えられる。

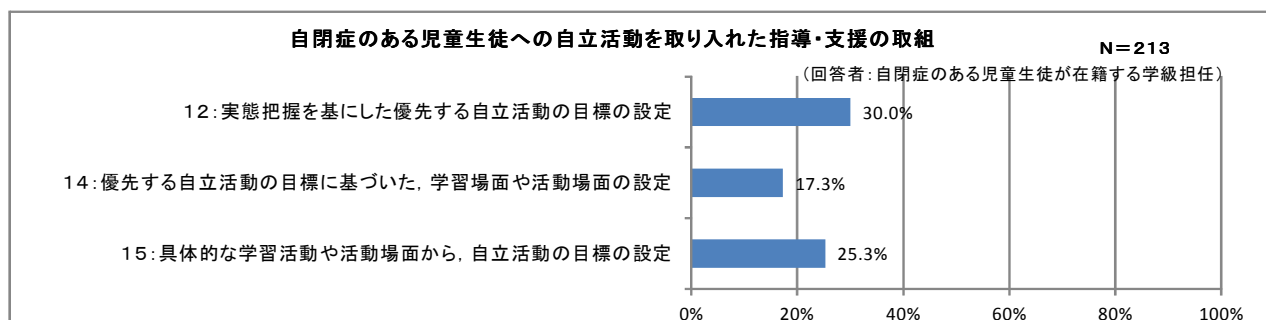
自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けた改善点、解決すべき点として書かれた自由記述の内容を見ると、特別支援学校と通級指導教室よりも、多くの担任から「教職員の共通理解」の必要性が書かれていた。校内において、特別支援学級担任が、自閉症のある児童生徒に対して孤軍奮闘している様子が見られる。

日常的には、特別支援学級担任が自閉症のある児童生徒と多くの時間を過ごしているとしても、校内における自閉症のある児童生徒の理解が進まなければ、学校行事や、交流学級での交流及び共同学習が充実したものとはならない。したがって、校内における自閉症のある児童生徒の理解を含んだ特別支援教育の研修をさらに充実させていきながら、児童生徒の共通理解を行うための時間や場の設定、個別の指導計画の活用などを行っていくことが必要であるものとする。

### 3 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定について

#### [自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

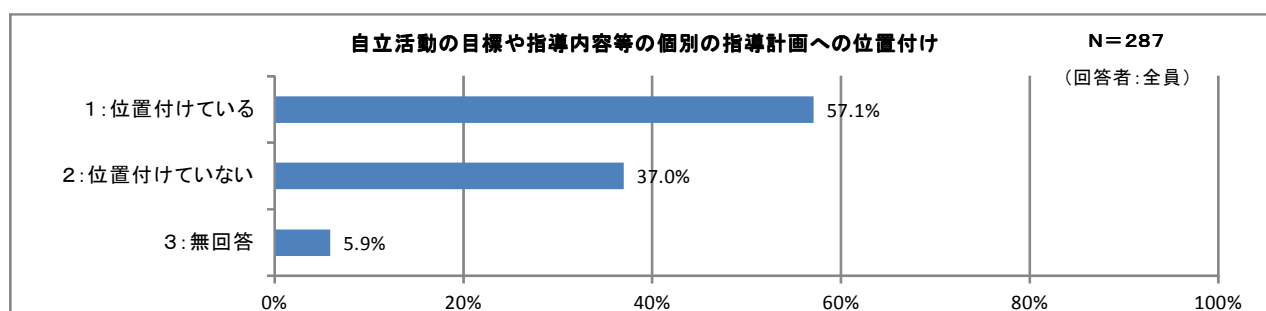
質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 「実態把握を基にした優先する自立活動の目標の設定」をしている学級は30.0%, 「具体的な学習活動や活動場面から, 自立活動の目標の設定」をしている学級は25.3%と, どちらも低い割合である。

#### [自立活動の目標や指導内容等の個別の指導計画への位置付け]

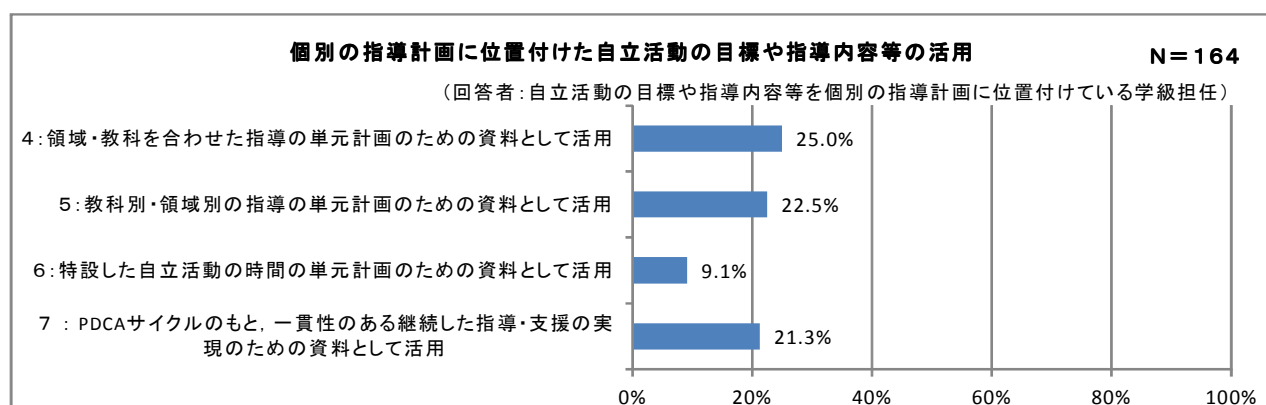
質問11 自立活動の目標や指導内容等は, 個別の指導計画に位置付けていますか。



◆ 自立活動の目標や指導内容等を個別の指導計画に位置付けている学級は, 約半数である。

#### [個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等はどのように活用していますか。(複数選択可)



◆ 単元計画のための資料として活用している学級は, どの指導形態を見ても低い割合である。

### 〈分析と考察〉

自立活動を取り入れた指導・支援の取組の結果を見ると、自立活動における優先する目標を設定して学習活動を行っている学級は3割と、特別支援学校よりもさらに少ない状況にある。また、具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標を設定している学級もほぼ同じ割合にあった。学級数としては少ないが、児童生徒の実態に応じて優先する目標を設定するのではなく、その時々活動に応じて目標を設定しながら指導・支援を行っている学級が少なからず存在しているのではないかと考えられる。

また、自立活動の目標や内容を個別の指導計画に位置付けている学級は約半数となっている。その約半数の学級の中で、それぞれの指導形態の単元計画のための活用している学級は、それぞれ2割にも満たない。このことから、個別の指導計画に位置付けたとしても、実際の指導場面においては、自立活動の視点を取り入れた指導・支援を十分に行うことができていないと推察される。また、それぞれの指導形態の単元計画のために活用していると回答した学級でさえも、特別支援学級全体から見ると、かなり少ない状況である。

以上のことから、特別支援学校と同様に特別支援学級においても、自立活動の指導・支援を進めるに当たっては、教育的ニーズに即した目標を設定した上で、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を検討していくことが必要である。

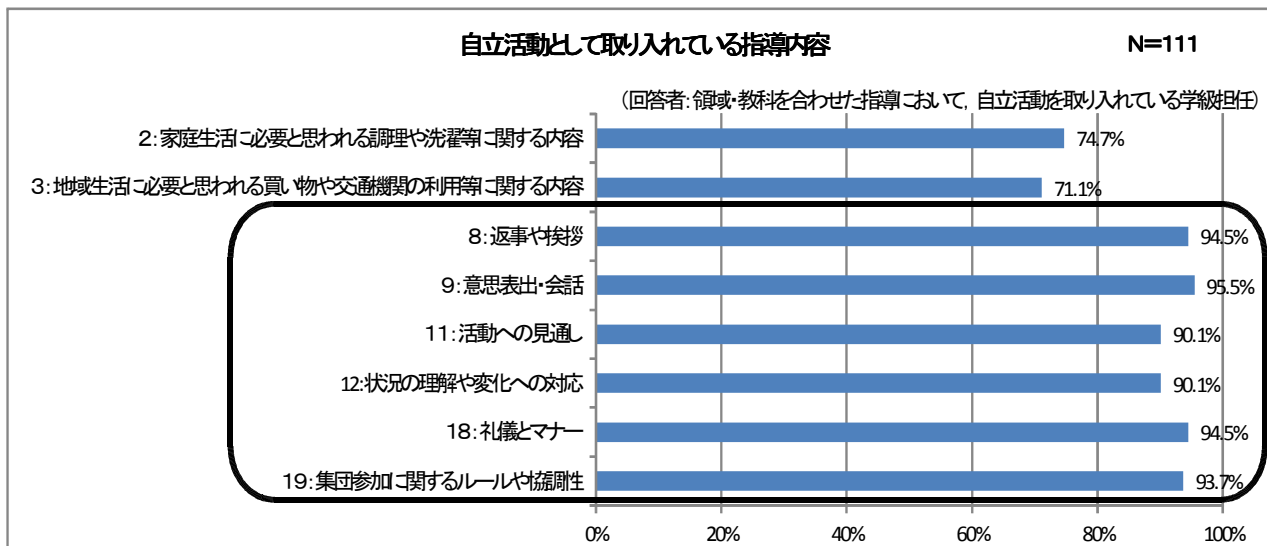
## 4 それぞれの指導形態のよさを生かした指導について

### 領域・教科を合わせた指導

[自立活動として取り入れている指導内容]

質問9-1 質問9で「1：領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。

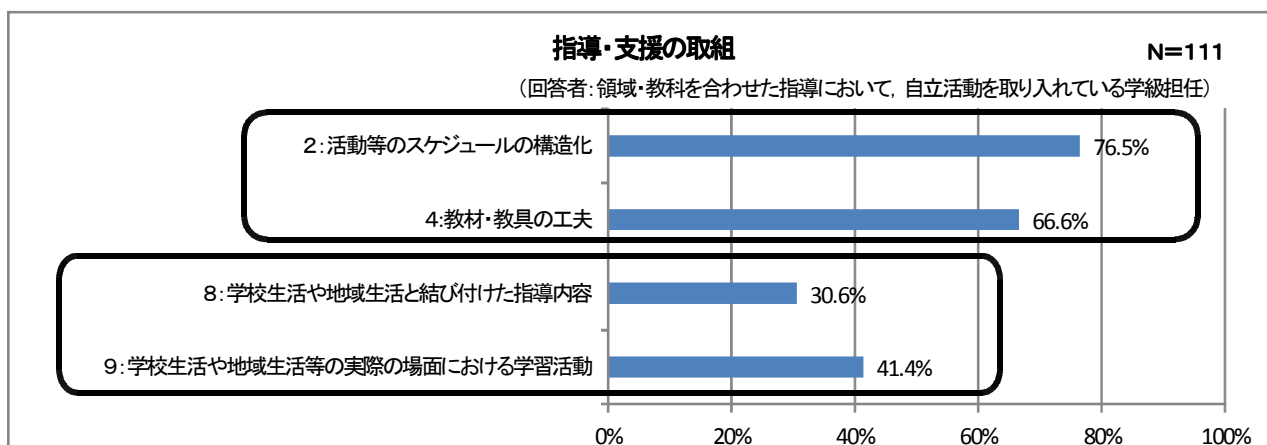
(複数選択可)



- ◆ 「返事や挨拶」、「意思表示・会話」、「礼儀とマナー」、「集団参加に関するルールや協調性」を約90%の学級が指導内容として取り入れている。家庭生活や地域生活に関する指導内容と取り入れている学級は約70%となっている。

[指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



- ◆ 「活動等のスケジュールの構造化」や「教材・教具の工夫」は約60～70%の学級が取り組んでいる。学校生活や地域生活等に関する取組は約30%～40%と少ない。

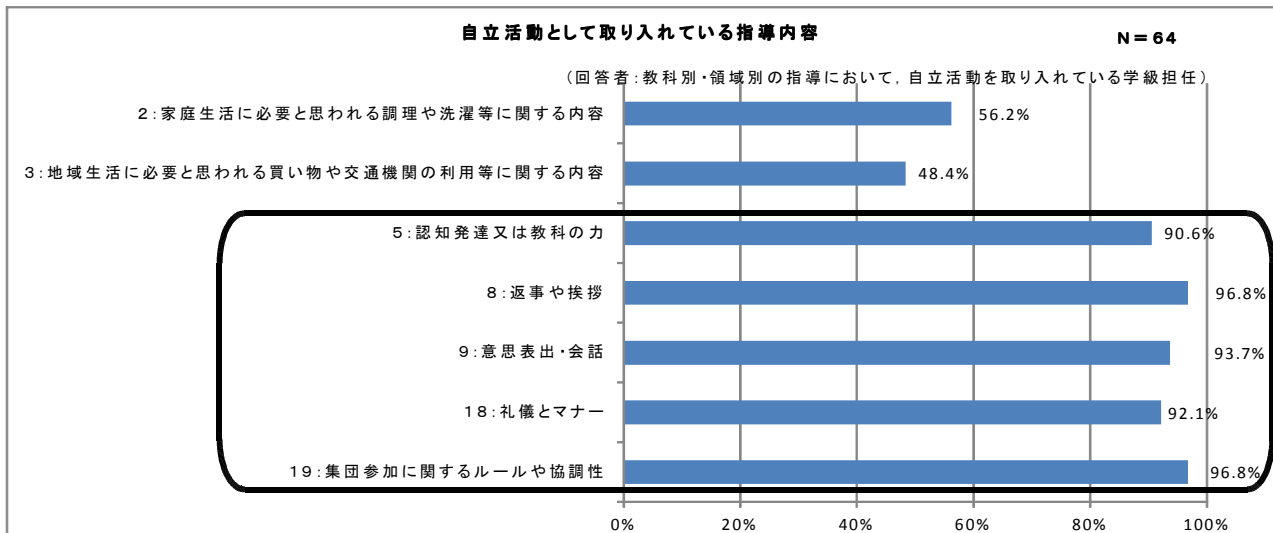


## 教科別・領域別の指導

### [自立活動として取り入れている指導内容]

質問9-2 質問9で「2：教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。

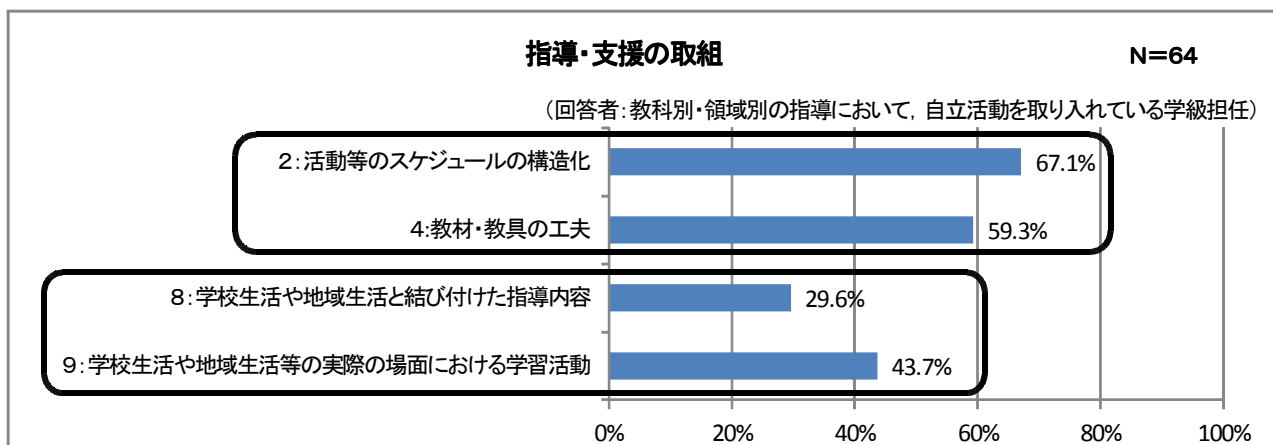
(複数選択可)



- ◆ 「認知発達又は教科の力」、「返事や挨拶」、「意思表出・会話」、「礼儀とマナー」、「集団参加に関するルールや協調性」を約90%の学級が指導内容として取り入れている。家庭生活や地域生活に関する指導内容と取り入れている学級は50%前後となっている。

### [指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)

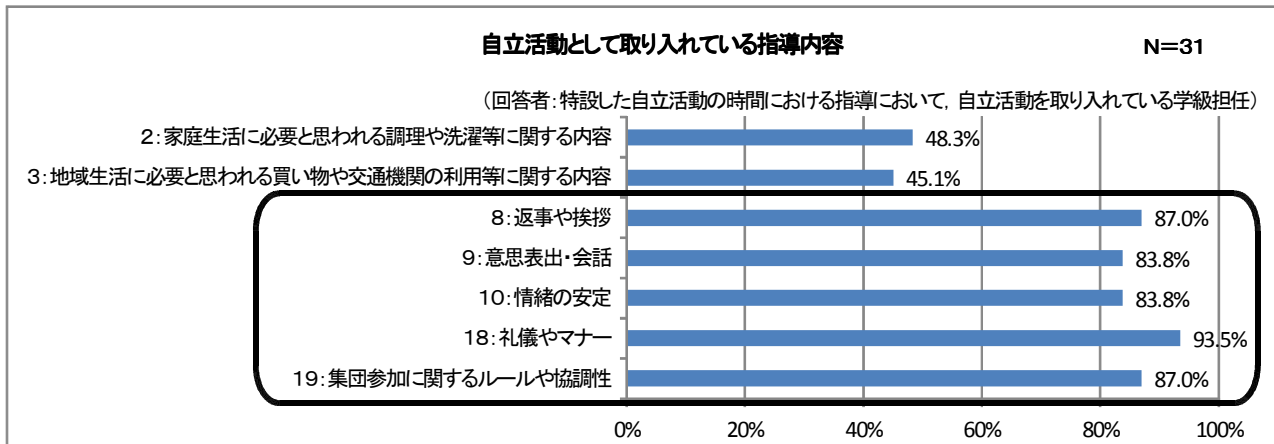


- ◆ 「活動等のスケジュールの構造化」や「教材・教具の工夫」は約60%の学級が取り組んでいる。学校生活や地域生活等に関する取組は約20～40%と少ない。

## 特設した自立活動の指導

### [自立活動として取り入れている指導内容]

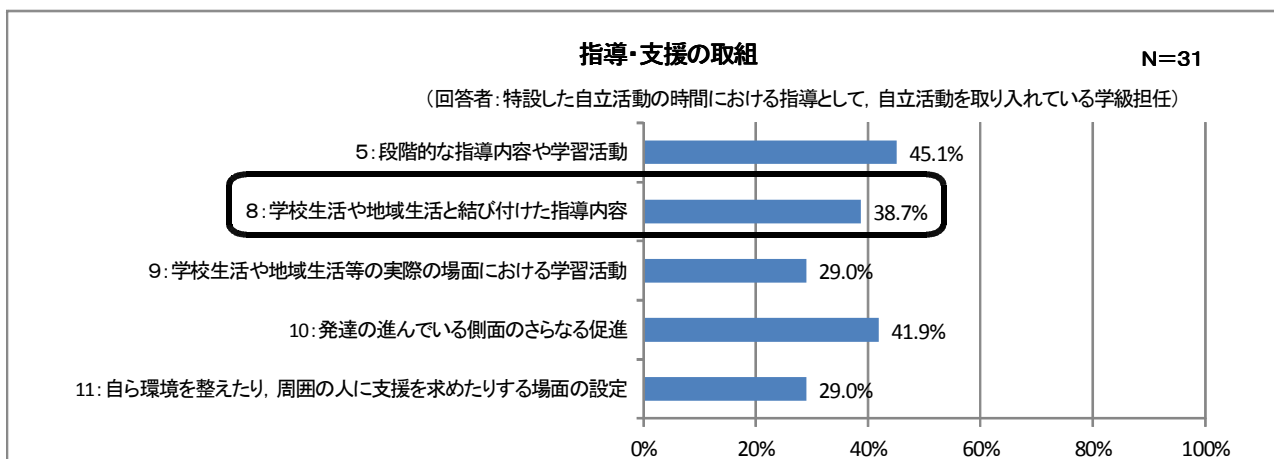
質問9-3 質問9で「3：特設した自立活動の指導として取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。(複数選択可)



- ◆ 「返事や挨拶」、「意思表示・会話」、「情緒の安定」、「礼儀とマナー」、「集団参加に関するルールや協調性」等を約80～90%の学級が指導内容として取り入れている。家庭生活や地域生活に関する指導内容を取り入れている学級は約40%と低い割合である。

### [自立活動を取り入れている学級の指導・支援の取組]

質問10 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



- ◆ 全体的にどの項目も低い割合である。ただし、「学校生活や地域生活と結び付けた指導内容」を取り入れている学級の割合は、特別支援学校よりも約35ポイント高い。

### 〈分析と考察〉

どの指導形態においても、特別支援学校の状況とほぼ同じ傾向にあり、「返事や挨拶」、「意思表出・会話」を指導内容として取り入れているという割合が高く、学校生活や地域生活に関する具体的な取組が低い割合となっている。自閉症のある児童生徒の他者へのかかわりへの困難さには対応しながらも、学習活動そのものが実際の生活と結び付かない状況で取り組まれていることが考えられる。また、特別支援学校と比較して、「礼儀とマナー」、「集団参加に関するルールと協調性」が指導内容として多く取り入れられている。これは、小・中学校の中で、交流及び共同学習として、特別支援学校以外の児童生徒とかかわる場面が多くあるという要因によるものと考えられる。

それぞれの指導形態ごとに見ていくと、領域・教科を合わせた指導では、「集団参加に関するルールや協調性」、「活動への見通し」、「状況の理解や変化への対応」についても、指導内容として多く取り入れられている。このことは、集団活動に見通しをもって、落ち着いて参加できることを担任が願い、指導内容として取り入れているのではないかと考えられる。一方、指導内容と具体的な取組に関する回答を見ると、学校生活や地域生活にかかわる学習は多く行われていない。実際的な状況下で生活に結び付いた活動を十分に取り入れられるという、領域・教科を合わせた指導のよさを十分に生かしていくことが必要であるものと思われる。

教科別・領域別の指導では、「認知発達又は教科の力」について取り入れている学級が多い。自立活動の視点を取り入れながら、それぞれの教科等のねらいを達成することができるよう指導しているものと考えられる。一方、家庭生活や地域生活に関する指導内容を取り入れている学級は約1割とかなり低い割合になっている。教科別・領域別の指導においても、生活的なねらいをもたせたり、生活と結び付けて取り組んだりしながら、学んだことを生活に生かすことができるような教科別・領域別の指導についても大切にしていけることが必要であるものと思われる。

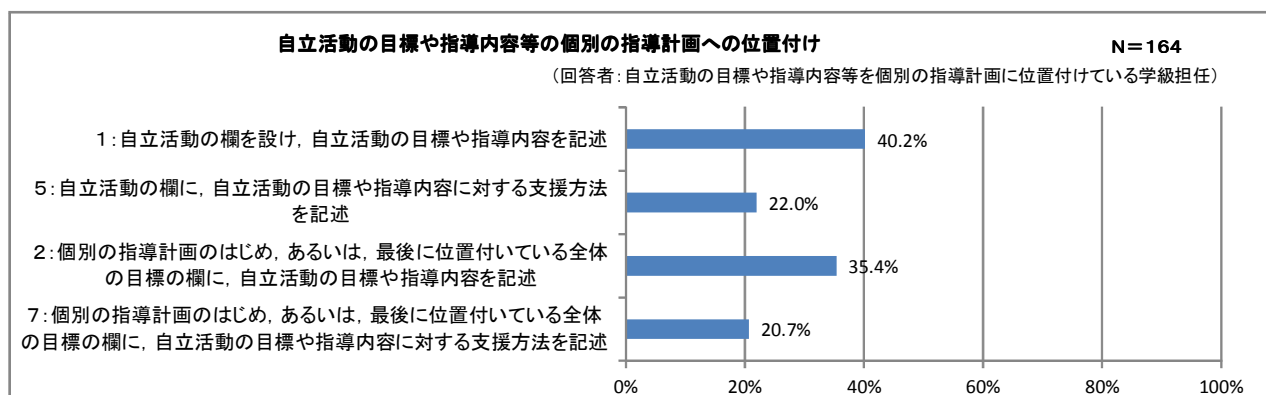
特設した自立活動の時間における指導では、集団参加のルールを含めた他者とのかかわりに関する指導内容を多く取り入れているが、生活面に関する取組は低い割合にあった。ただし、指導・支援の取組を見ると、「学校生活や地域生活と結び付けた指導内容」に取り組んでいるとする学級が、特別支援学校と比較して約35ポイント高い割合であった。また、他の指導形態と比べても、高い割合で取り組まれている。これらのことから、他者とのかかわりに関する指導内容を具体的な生活場面と関連付けながら取り組んでいる学級も存在することが考えられる。

今後は、特別支援学校のように、児童生徒の発達段階等に基づくスモールステップの視点を持ちながら、さらに学校生活や地域生活を意識した取組が充実するように、指導・支援の改善を図っていくことが望まれる。

## 5 個別の指導計画の活用について

### [自立活動の目標や指導内容等の個別の指導計画への位置付け]

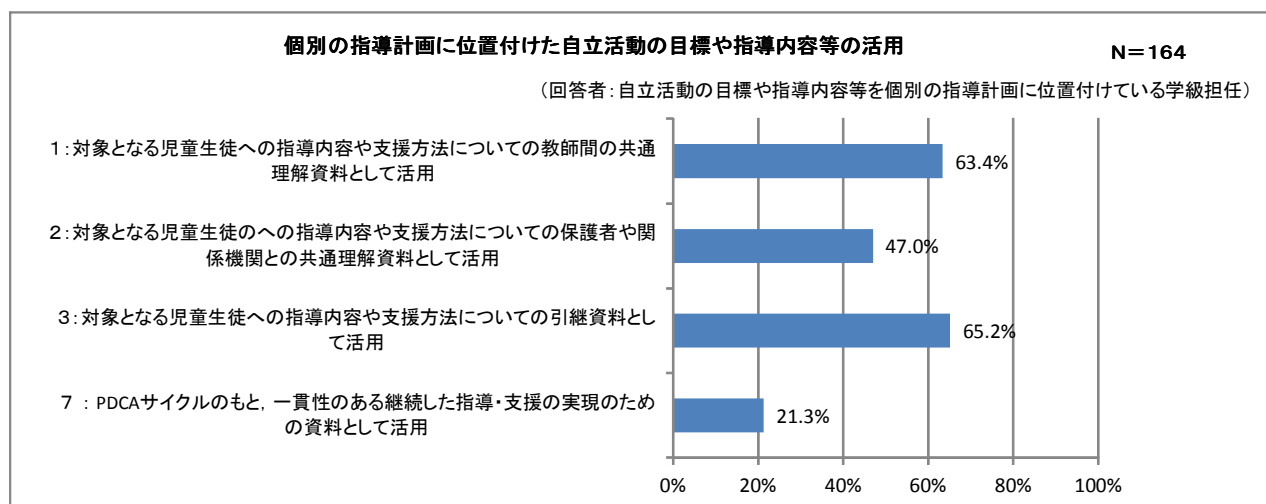
質問11-1-① 自立活動の目標や指導内容は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。  
(複数選択可)



◆ 自立活動の欄を設けて記述している学級が40.2%、個別の指導計画のはじめ、あるいは、最後に位置付けている全体の目標の欄に記述しているの学級は35.4%と、ほぼ同じ割合である。

### [個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)

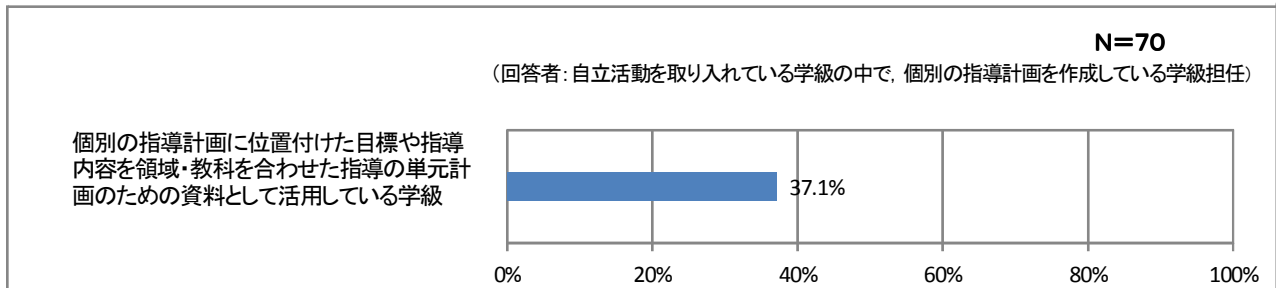


◆ 教師間の共通理解資料としての活用が63.4%、引き継ぎ資料としての活用は65.2%と、いずれも特別支援学校ほど高い割合にはなっていない。

### [個別の指導計画の活用]

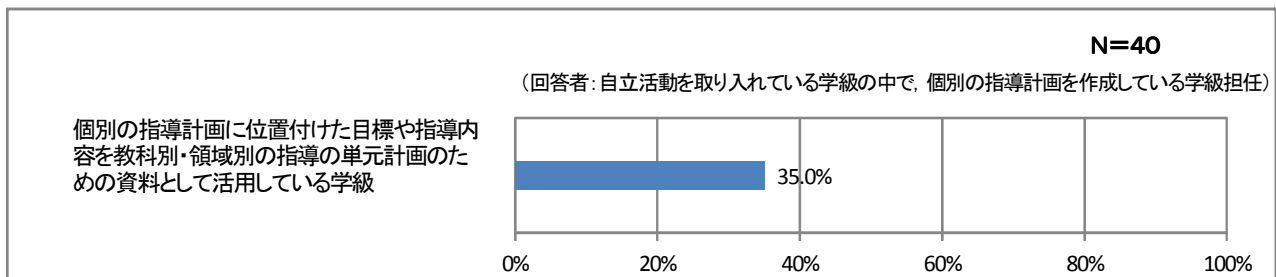
質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)

#### 領域・教科を合わせた指導



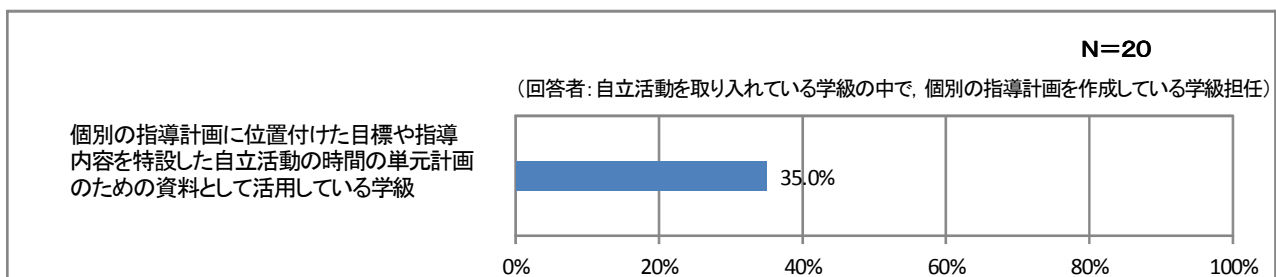
◆ 領域・教科を合わせた指導の単元計画に活用している学級は37.1%と低い割合である。

#### 教科別・領域別の指導



◆ 教科別・領域別の指導の単元計画に活用している学級は35.0%と低い割合である。

#### 特設した自立活動の時間における指導



◆ 特設した自立活動の時間の単元計画に活用している学級は35.0%と低い割合である。

### 〈分析と考察〉

個別の指導計画に位置付けられている自立活動の目標や指導内容を、教師間の共通理解資料として活用している学級は約6割、保護者や関係機関との共通理解資料として活用している学級は約4割と低い割合になっている。さらに、引継資料としても活用している学級も約6割となっており、同様に低い割合である。このことから、個別の指導計画の一つの役割である共通理解や引き継ぎのための資料として十分に活用されていないことが明らかになった。

授業の単元計画のための資料としての活用については、どの指導形態においても、活用している学級は3割と低い割合である。個別の指導計画に位置付けられている自立活動の目標や指導内容等が授業に生かされにくい状況にある。個別の指導計画への位置付け方を見ると、自立活動の欄を設け、自立活動の目標や指導内容を記述している学級は4割にも達していない。明確に目標等が位置付けられていないことも影響していると考えられる。

個別の指導計画は、共通理解や引き継ぎのための資料でもあるが、何よりもより良い授業を行うために活用されるべきものである。個別の指導計画に位置付けた目標や指導内容、支援方法を、担任をはじめ、本人を取り巻く多くの職員等で共通理解を図りながら、具体的な指導場面に生かせるような取組を進めていく必要がある。

## 【分析と考察】

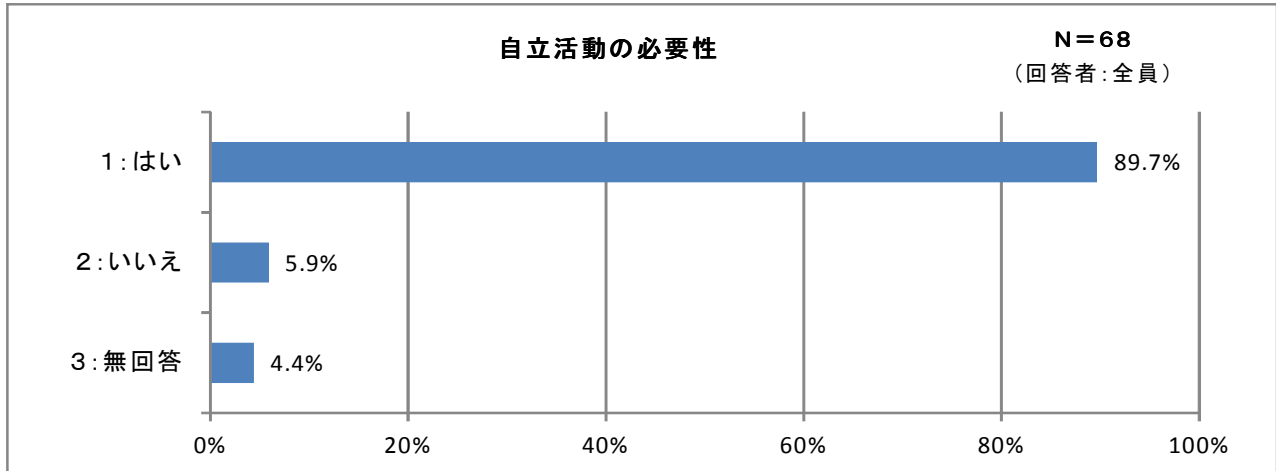
### 通級指導教室

## 【通級指導教室調査】

### 1 自立活動の基本的な考え方等の理解について

#### [自立活動の必要性]

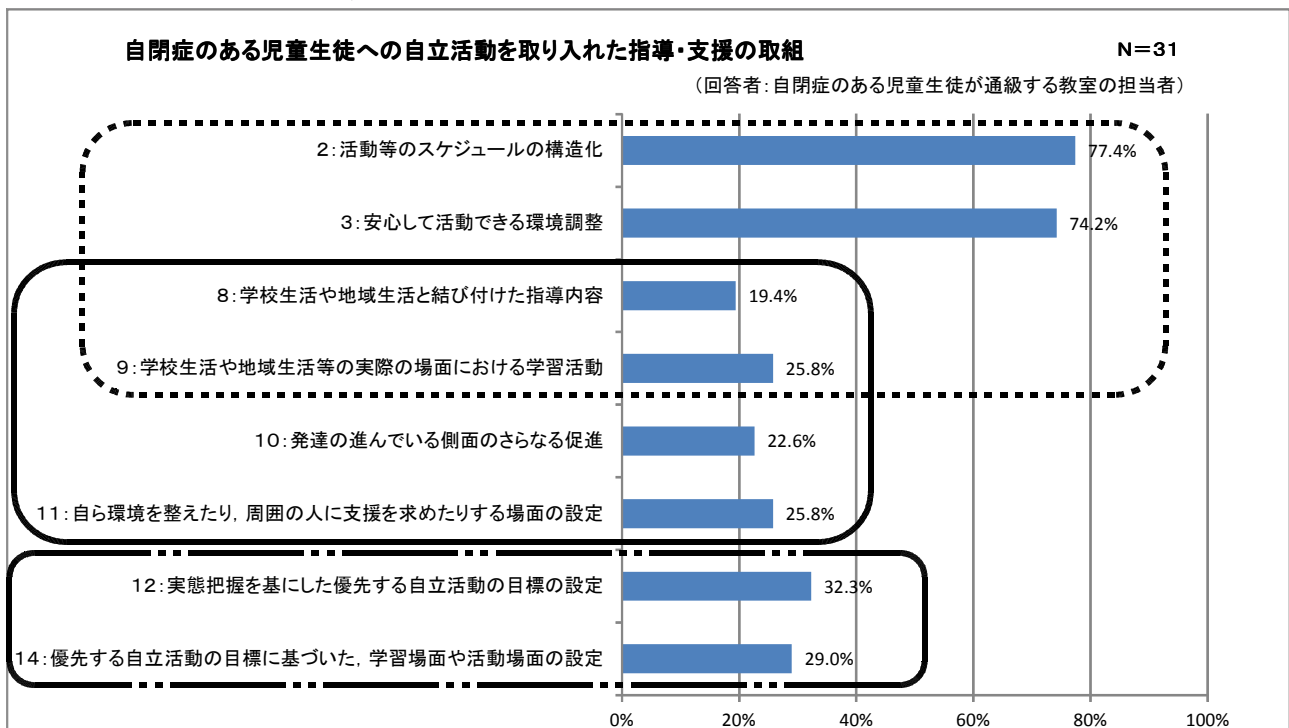
質問8 自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。



◆ 自立活動が必要と思っている担任は、89.7%であり、特別支援学校や特別支援学級よりも若干低い割合である。

#### [自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ **【-----】**を見ると、「活動等のスケジュールの構造化」と「安心して活動できる環境調整」は約70%の教室で取り組んでいる。学校生活や地域生活等と関連する項目は20%前後であり、特別支援学校や特別支援学級よりも若干低い割合となっている。



- ◆ を見ると、特別支援学校学習指導要領で示している、指導内容を設定する際の配慮事項である「発達の進んでいる側面のさらなる促進」と「自ら環境を整えたり、周囲の人に支援を求めたりする場面の設定」等は、約20%と低い割合である。
- ◆ では、「実態把握を基にした優先する自立活動の目標の設定」、「優先する自立活動の目標に基づいた、学習場面や活動場面の設定」のどちらも、約30%ほどの教室しか取り組まれていない。

#### 〈分析と考察〉

県内の通級指導教室では、ことばの教室の設置数が多い。ことばの教室は、週に8時間を上限として、主に言語によるコミュニケーションに関する内容の指導を行っている。ことばの教室には、発音の誤り、言語発達の遅れなどの理由により、自閉症のある児童生徒が通級していることが少なくない。したがって、通級担当者は、自閉症のある児童生徒と接してきた経験、その中で学んできたことなどにより、スケジュールの構造化や安心して活動できる環境調整など、自閉症の特性に応じた支援方法を多く取り入れているものと考えられる。また、児童生徒にとっては、週に数時間通級するだけの通級指導教室という慣れない場であることから、通級担当者は、落ち着いて活動に取り組むことができるようにと考え、このような支援方法を多く取り入れているものとも考えられる。

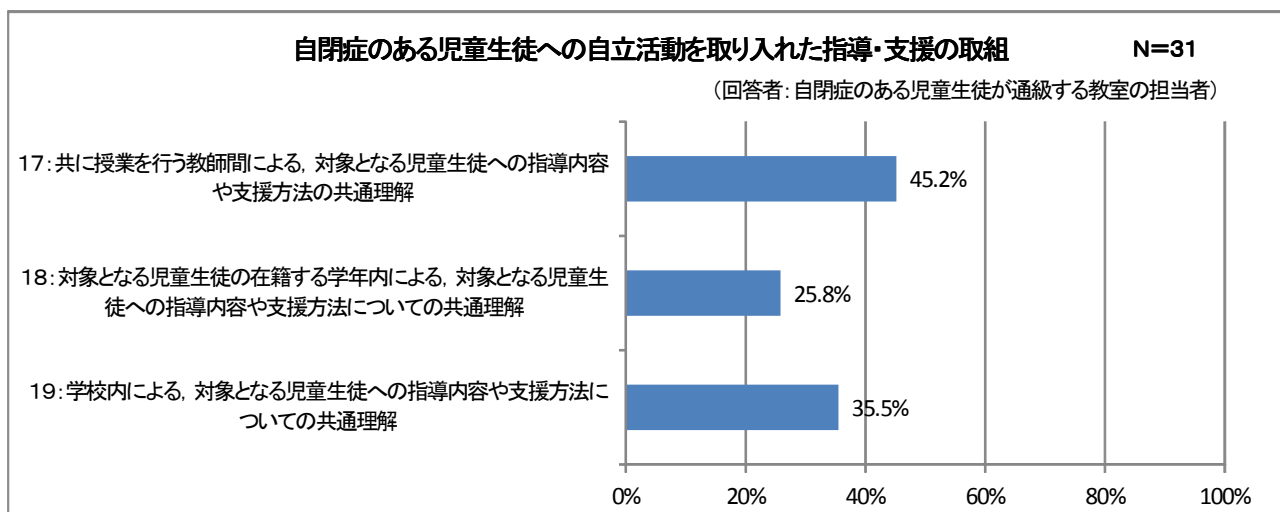
通級による指導では、在籍学級での学習や生活、家庭生活等を視野に入れた上で、指導内容や学習活動を設定していくことが必要である。しかしながら、このことに取り組んでいるとした担当者は3割にも満たない割合であった。また、特別支援学校学習指導要領で示している指導内容を設定する際の配慮事項について取り組んでいると回答した担当者も低い割合であった。

以上のことから、県内の通級指導教室においては、自閉症の理解が進み、障がいの特性を踏まえた構造化などの支援方法が、特別支援学校と同様に充実してきている。今後は、自立活動の基本的な考え方やその内容を十分に理解した上で、児童生徒の実態に即した目標や指導内容を設定したり、実際の学校生活や地域生活等と結び付いた実際的な学習活動を展開したりしていく必要があるものとする。

## 2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解について

[自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問 9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



- ◆ 共に授業を行う教師間での共通理解を行っている教室は45.2%, 学年内による共通理解は25.8%と共通理解を図っている教室は少ない。

[自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けた改善点、解決すべき点]

質問12 自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや、解決すべき点について自由にお書きください。

(一部抜粋)

- ・指導状況の共有化
- ・教師間の共通理解
- ・職員間の情報交換と情報共有
- ・教師等本人を取り巻く周囲の人たちの理解が必要
- ・指導に当たる全職員が児童の理解をすることで、学校不適応予防につながる

- ◆ 教職員の共通理解や周囲の理解の必要性に関する記述が見られる。

### 〈分析と考察〉

共に授業を行う教師間による共通理解を行っている教室は約4割と低い割合である。学年内、学校内による共通理解を行っている教室も少なく、全体的に十分な共通理解が行われないまま指導・支援が進められていると考える。このことから、通級担当者のみが、通級による指導場面において、試行錯誤をしながら学習活動を進めているものと考えられる。

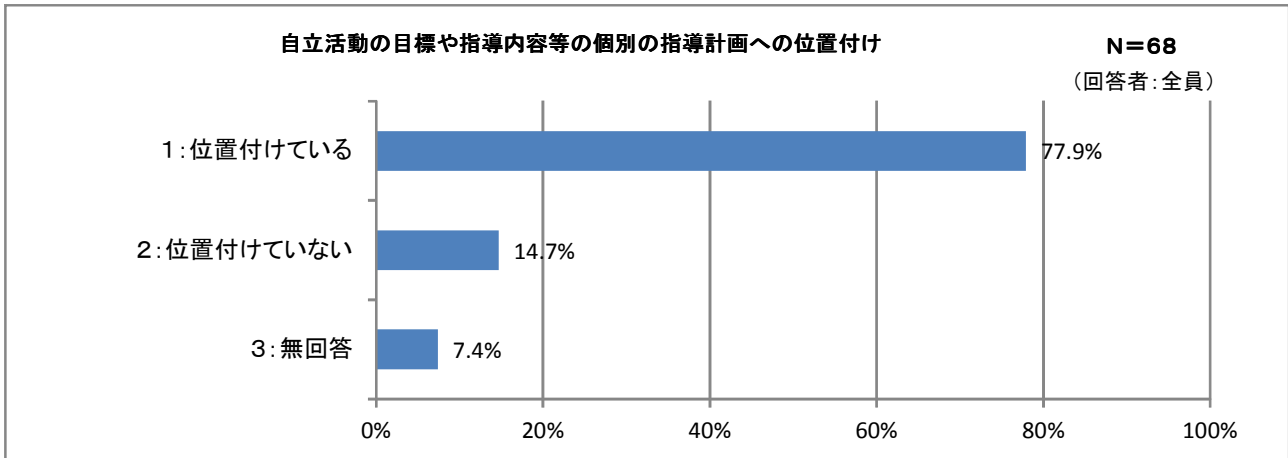
自由記述による指導・支援の充実に向けた改善点、解決すべき点を見ると、「教職員の共通理解」と「周囲の理解による環境調整」の必要性に関する記述も見られた。通級による指導は、週に8時間を上限としていることから、児童生徒は、多くの時間を在籍学級で過ごしている。そこで、通級担当者は、在籍学級・学年の教師等との共通理解を、さらに図っていきたいと考えているものと思われる。しかしながら、日常的に話し合いを行うための時間や場の設定、具体的な共通理解の進め方について、どのように取り組んでいけば良いのか、難しさを感じているものとする。

自閉症のある児童生徒の指導内容や支援方法について、話し合う手立てを講じる必要があると考える。

### 3 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定について

[自立活動の目標や指導内容等の個別の指導計画への位置付け]

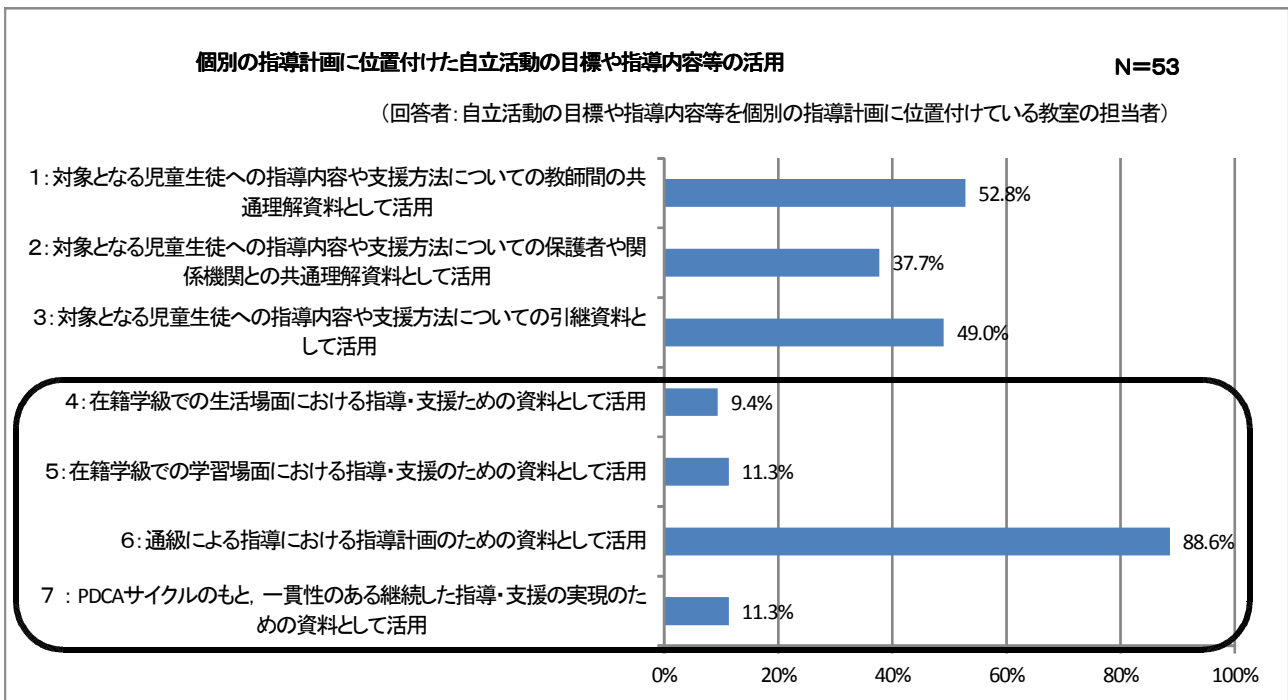
質問10 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付いていますか。



◆ 77.9%の教室が、自立活動の目標や指導内容等を個別の指導計画に位置付けている。

[個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

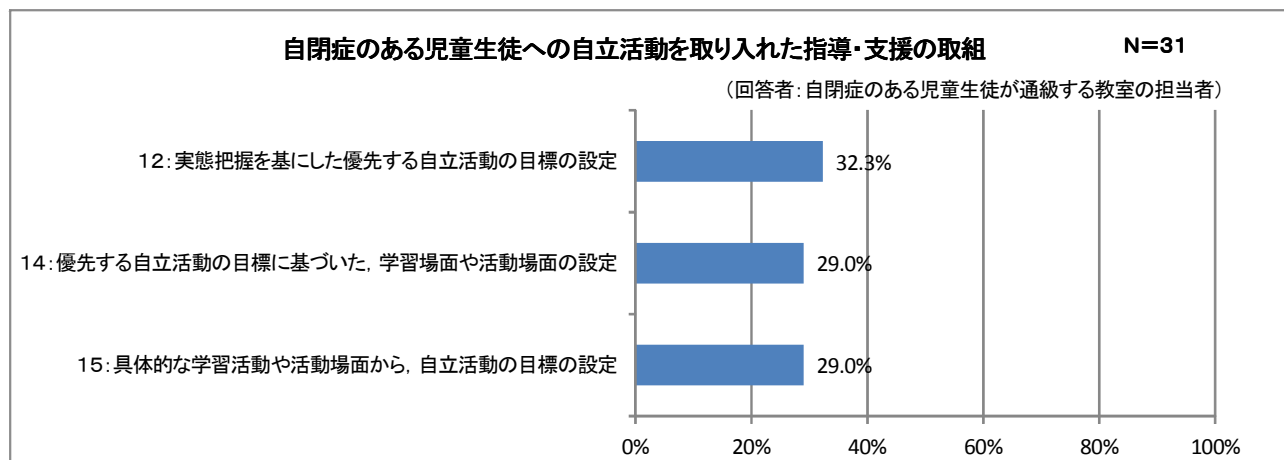
質問10-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等はどうのように活用していますか。



◆ 共通理解資料や引き継ぎ資料としての活用している教室は約40～50%である。「通級による指導における指導計画のための資料として活用」している教室は、90%弱と高い割合となっている。在籍学級での指導・支援のための資料や一貫性のある継続した指導・支援の実現のための資料としての活用は低く、10%台になっている。

## [自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組]

質問9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆ 目標設定や学習場面、活動場面の設定に関しては、約30%の教室が取り組んでいる。

### 〈分析と考察〉

通級による指導では、多くの時間を自立活動として教育課程に位置付けている。自立活動では、児童一人一人の目標や指導内容を計画的・組織的に行っていくことが大切であり、前回の特別支援学校学習指導要領から個別の指導計画の作成が必要とされている。しかしながら、自立活動の目標や指導内容を個別の指導計画に位置付けていない教室が約3割もあった。このことは、それぞれの教室で取り組まれている指導内容と自立活動との関連を明確にすることができていなかったり、自立活動の基本的な考え方やその内容を理解することができていなかったりすることが要因ではないかと考えられる。

自立活動の目標や指導内容等を個別の指導計画に位置付けている場合でも、多くは通級による指導における指導計画のための資料として活用され、在籍学級での指導・支援や、PDCAサイクルによる指導・支援のさらなる充実のための資料として、個別の指導計画を活用している学級は極めて少ない。また、指導・支援の取組を見ても、目標や目標に基づいた学習場面、活動場面の設定をしている学級は少ない。自立活動を取り入れた指導・支援を行う上で、目標設定が曖昧なまま学習が進められていることが考えられる。

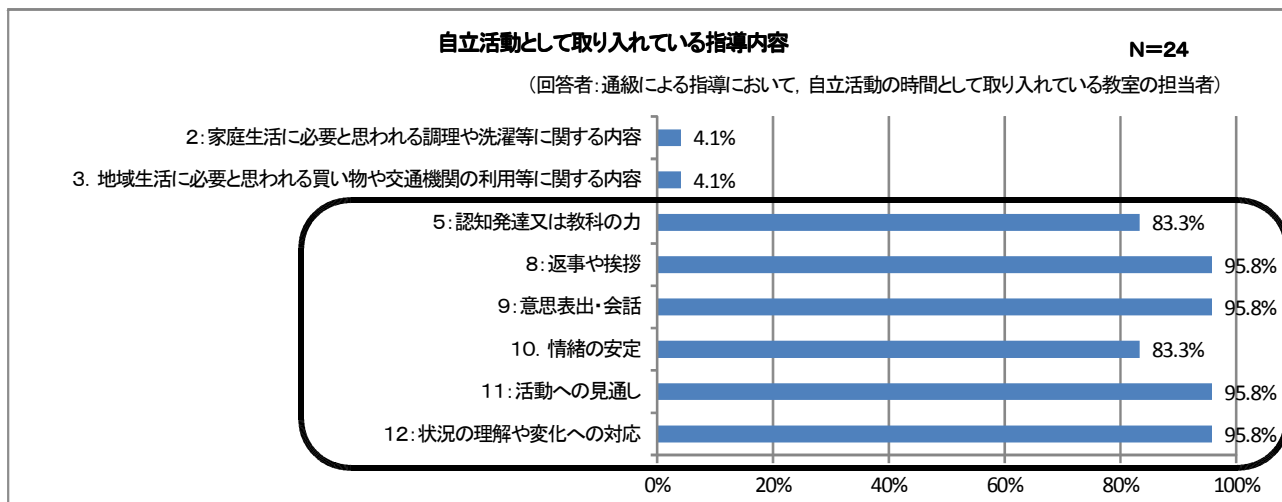
## 4 それぞれの指導形態のよさを生かした指導について

### 自立活動の時間における指導

[自立活動として取り入れている指導内容]

質問 8-1 質問 8 で「1：通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。

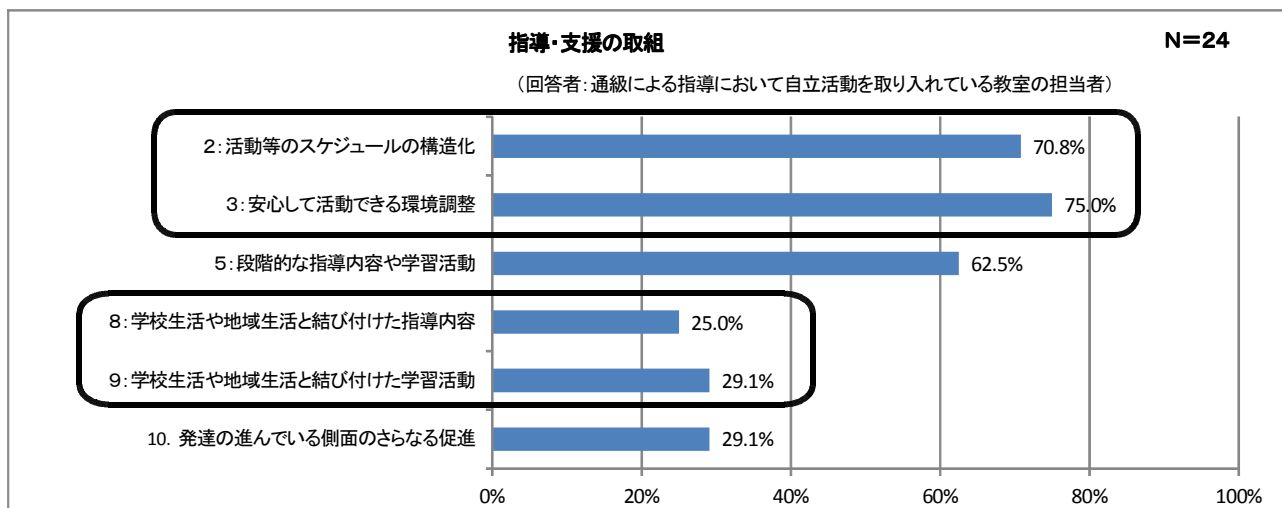
(複数選択可)



◆ 「返事や挨拶」、「意思表示・会話」、「活動への見通し」、「状況の理解や変化への対応」の割合が特に高く、95%を超えている。

[指導・支援の取組]

質問 9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)

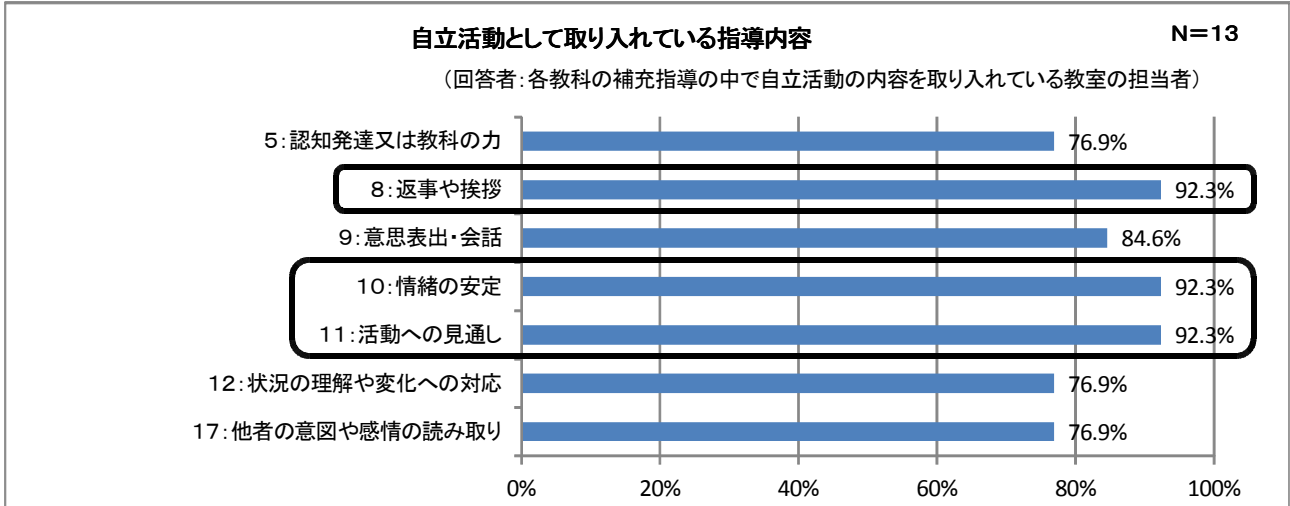


◆ 「活動等のスケジュールの構造化」と「安心して活動できる環境調整」が、約70%の教室で取り組んでいる。学校生活や地域生活に関する事項への取組は、30%にも満たず、低い割合である。

## 各教科の補充指導

### [自立活動として取り入れている指導内容]

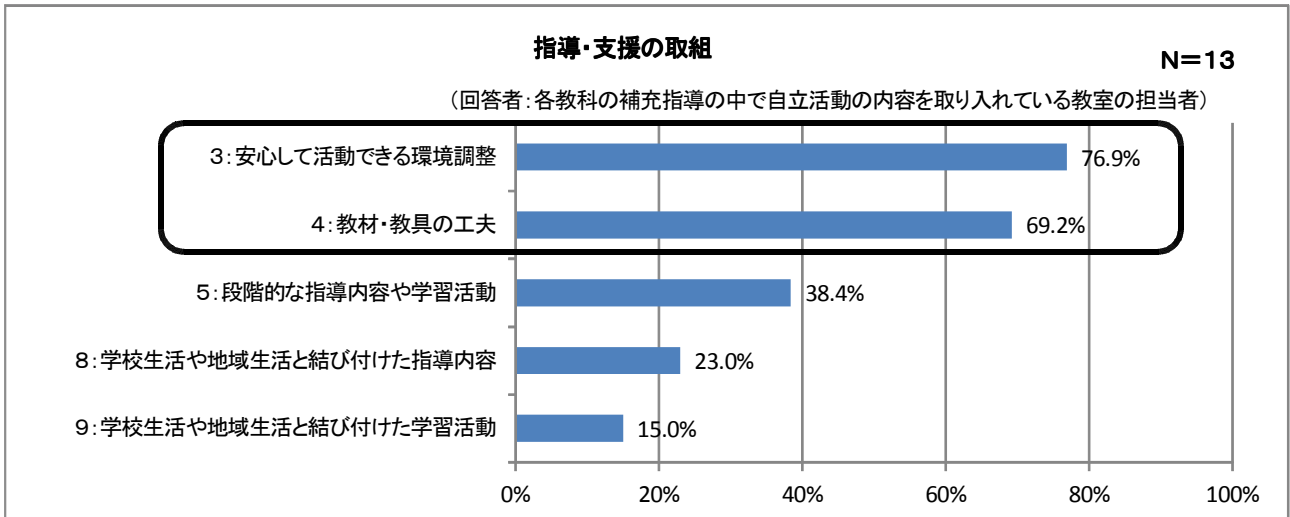
質問 8-2 質問 8 で「2：通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。(複数選択可)



◆ 「返事や挨拶」、「情緒の安定」、「活動への見通し」を指導内容に取り入れている教室が90%を超えている。

### [指導・支援の取組]

質問 9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)

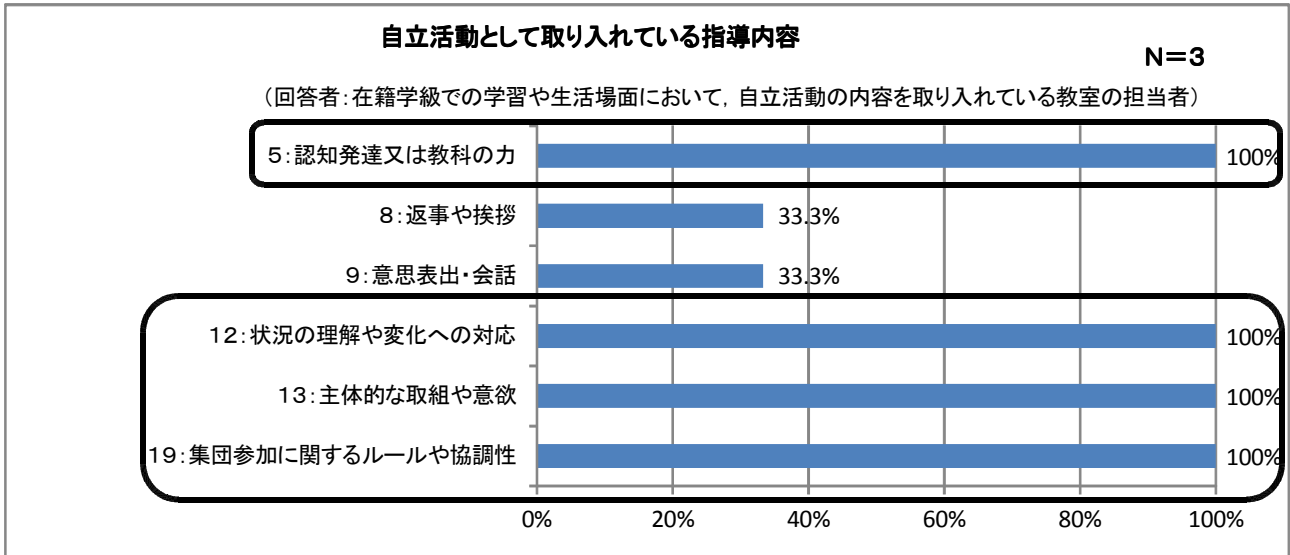


◆ 「安心して活動できる環境調整」、「教材・教具の工夫」に取り組んでいる教室は70%前後である。

## 在籍学級での学習や生活場面

### [自立活動として取り入れている指導内容]

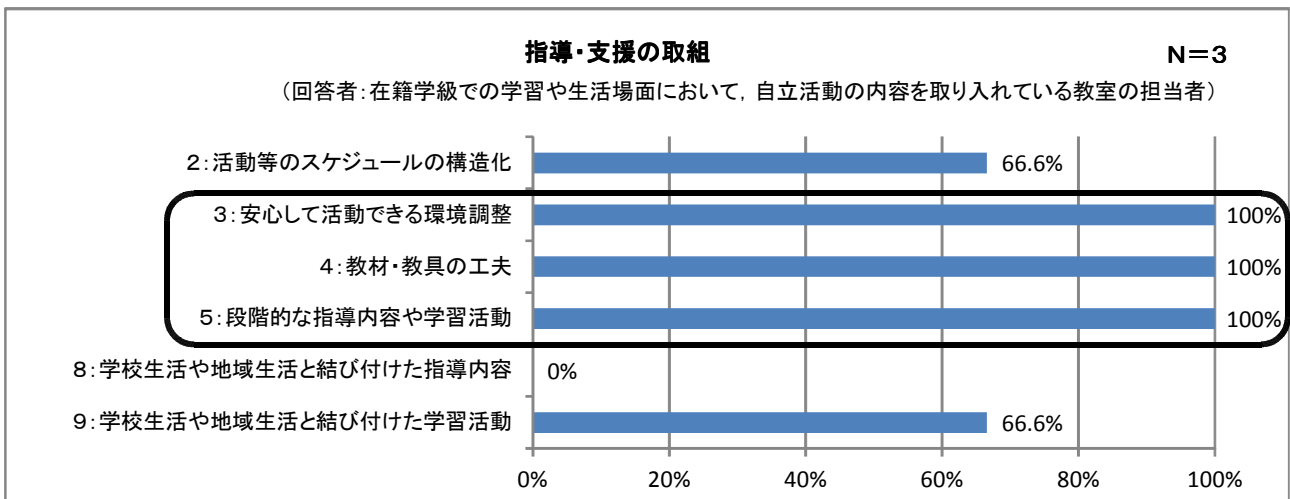
質問 8 - 3 質問 8 で「3：在籍学級での学習や生活場面において、自立活動の内容を取り入れている」を選択した方へ、取り入れている指導内容について当てはまる番号を入力して下さい。(複数選択可)



- ◆ 教室数は少ないが、「認知発達又は教科の力」と集団参加に関する指導内容をすべての教室が取り入れている。

### [指導・支援の取組]

質問 9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



- ◆ 在籍学級での学習や生活場面においては、「安心して活動できる環境調整」、「教材・教具の工夫」、「段階的な指導内容や学習活動」が取り組まれている。



### 〈分析と考察〉

通級による指導の場において取り入れられている指導内容を見ると、「認知発達又は教科の力」が多く、「返事や挨拶」、「意思表出・会話」等の他者とのかかわりに関すること、「情緒の安定」、「活動への見通し」等の落ち着いた活動に取り組むことも重視されている。一方では、学校生活や地域生活に関する指導・支援の取組が低い割合となっている。自閉症のある児童生徒の学習上又は生活上の困難さには対応しながらも、学習活動そのものが実際の生活と結び付かない状況で取り組まれていることが考えられる。これらの傾向は、特別支援学校や特別支援学級と同様である。

自立活動の時間における指導では、「活動等のスケジュールの構造化」や「安心して活動できる環境調整」が、約7割の教室で取り入れられている。また、割合はそれほど高くはないが、「段階的な指導内容や学習活動」に取り組んでいる教室もある。ただし、これまでの調査結果から、児童生徒のニーズに即した目標や指導内容を設定しているとは言い難いことから、支援方法の検討の前に、児童生徒一人一人への指導内容を明確にしながら学習活動を設定し、個々に応じた支援を行える指導形態として、自立活動の時間における指導を展開していくことが望まれる。

各教科の補充指導では、「情緒の安定」、「活動への見通し」、「安心して活動できる環境調整」が多く取り入れられている。通級指導教室内の整えられた環境の中で、教科や他者とのかかわりに関する内容を指導・支援しているものと考えられる。また、指導・支援の取組として、「教材・教具の工夫」は7割近い教室で取り組んでいる。ただし、通級による指導は、在籍学級での学習や生活、家庭生活等を視野に入れることが大切である。したがって、「段階的な指導内容や学習活動」についてもより一層取り組んでいく必要があるものと考えられる。

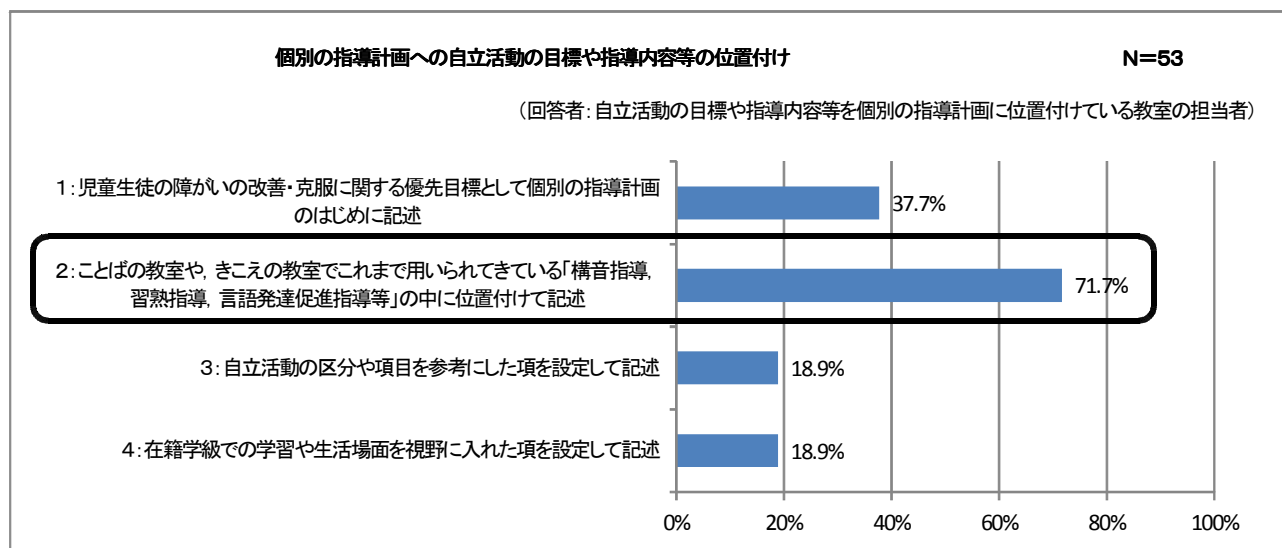
在籍学級での学習や生活場面において取り入れていると回答した教室は、3教室と少なかった。通級による指導は、通級指導教室のみで行われるものではなく、場合によっては、在籍学級における学習や生活場面を活用して、実際の場面で学んでいくことも大切である。通級による指導で学んだ自立活動や教科の補充指導が、実際の学習や生活場面で生かすことができるよう、在籍学級での学習や生活場面においても、自立活動の内容を取り入れていき、児童生徒にとって連続性のある学びが展開できるようにしていくことが望まれる。一方では、通級指導教室において、在籍学級での学習や生活、家庭生活等を視野に入れることも必要である。

## 5 個別の指導計画の活用について

[個別の指導計画への自立活動の目標や指導内容等の位置付け]

質問10-1-① 自立活動の目標や指導内容は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。

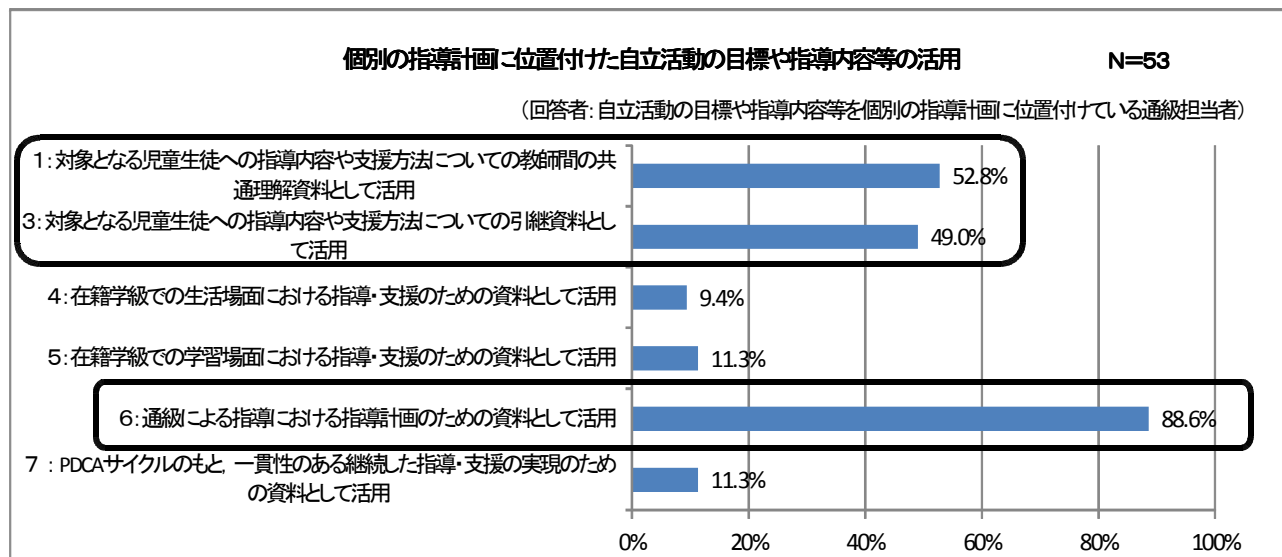
(複数回答可)



◆ これまで用いられてきている「構音指導、習熟指導、言語発達促進指導等」の中に位置付けて記述をしている教室が71.7%と高くなっている。

[個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用]

質問10-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数回答可)



◆ 共通理解資料や引き継ぎ資料としての活用はおよそ半数の教室が行っている。「通級による指導における指導計画のための資料として活用」は88.6%と割合が高くなっている。

#### 〈分析と考察〉

個別の指導計画への自立活動の目標や指導内容等の位置付けを見ると、これまで用いられてきている「構音指導、習熟指導、言語発達促進指導等」として、位置付けている教室が多い。自立活動の欄を設けて記述することや在籍教室とのかかわりに関して、項を設定して記述している教室は少ない。これは、通級指導教室の多くが、ことばの教室やきこえの教室であるため、言語障がい、あるいは、聴覚障がいのある児童生徒についての個別の指導計画の様式を、そのまま使用しているのではないかと考えられる。

個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用状況を見ると、8割以上の教室で「通級による指導における指導計画のための資料」として活用されている。個別の指導計画に位置付けられた目標や指導内容が日常の指導場面に生かされていることがうかがえる。その反面、在籍学級での学習や生活場面とのつながりを意識した活用はされていない。また、教師間の共通理解資料や引き継ぎ資料としての活用も、半数の教室だけが行っている状況である。

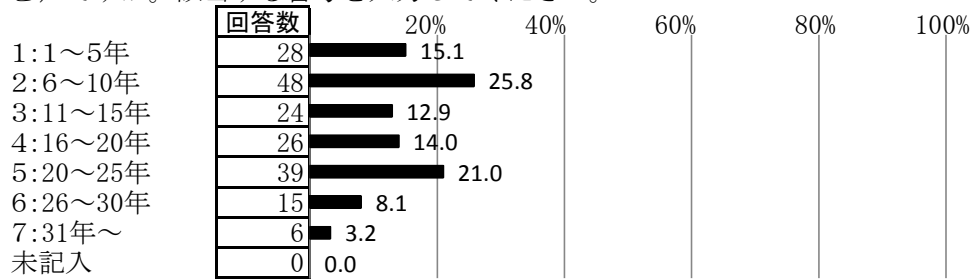
以上のことから、在籍学級での学習や生活、家庭生活等を視野に入れながら個別の指導計画を作成することは少なく、通級による指導場面においてのみ活用されている状況にあるものと考えられる。個別の指導計画の様式や内容において、自立活動の区分や項目を参考にした項を設定したり、在籍学級の学習や生活場面にどのように関連させていくのかについて、在籍学級の担任と検討したりすることが必要であるものと思われる。

# 【調 査 集 計】

## 特別支援学校

## 1 学級担任経験年数

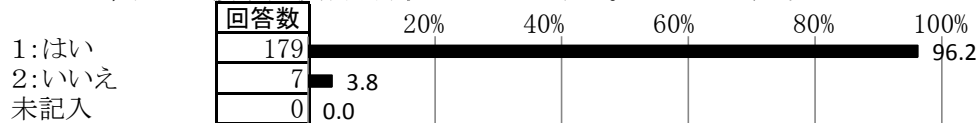
質問1 平成23年4月1日現在、あなたは、特別支援教育に携わって何年目（講師経験含む）ですか。該当する番号を入力してください。



◆6～10年、20年～25年の経験年数の割合が高い。

## 2 特別支援学校教諭免許状保有状況

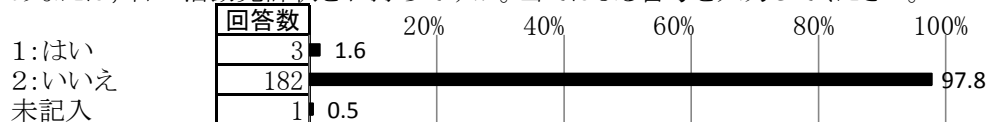
質問2 あなたは、特別支援学校教諭免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆特別支援学校教諭免許状を保有している教諭の割合は高い。

## 3 自立活動免許保有状況

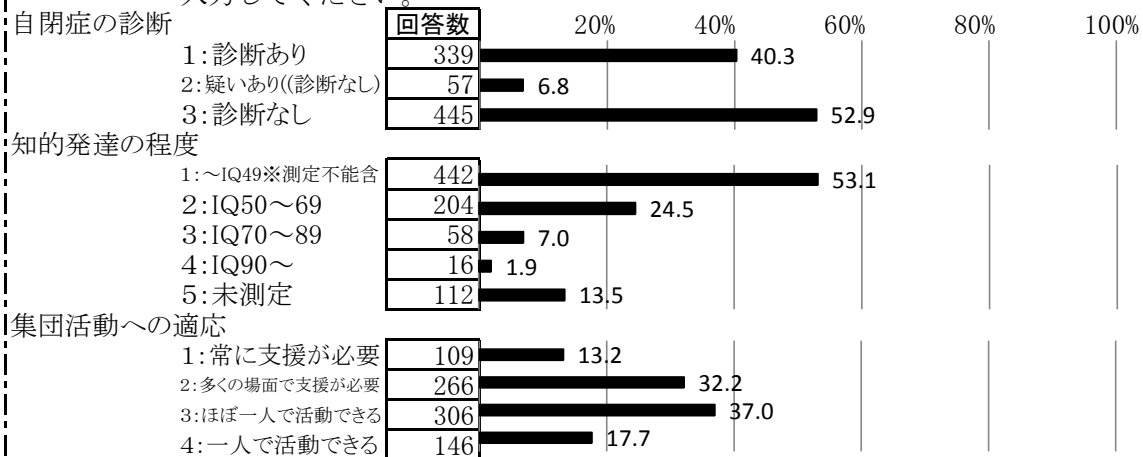
質問3 あなたは、自立活動免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆自立活動免許状を保有している教諭の割合は低い。

## 4 学級の様子: 自閉症の診断、知的発達、適応状況

質問4 あなたの学級のすべての児童生徒の様子について、以下の表に当てはまる番号を入力してください。



◆自閉症の診断あり、または疑いありの割合は約半数である。

◆IQ49以下の児童生徒の割合が多い。

5 学級における優先度の高い指導内容

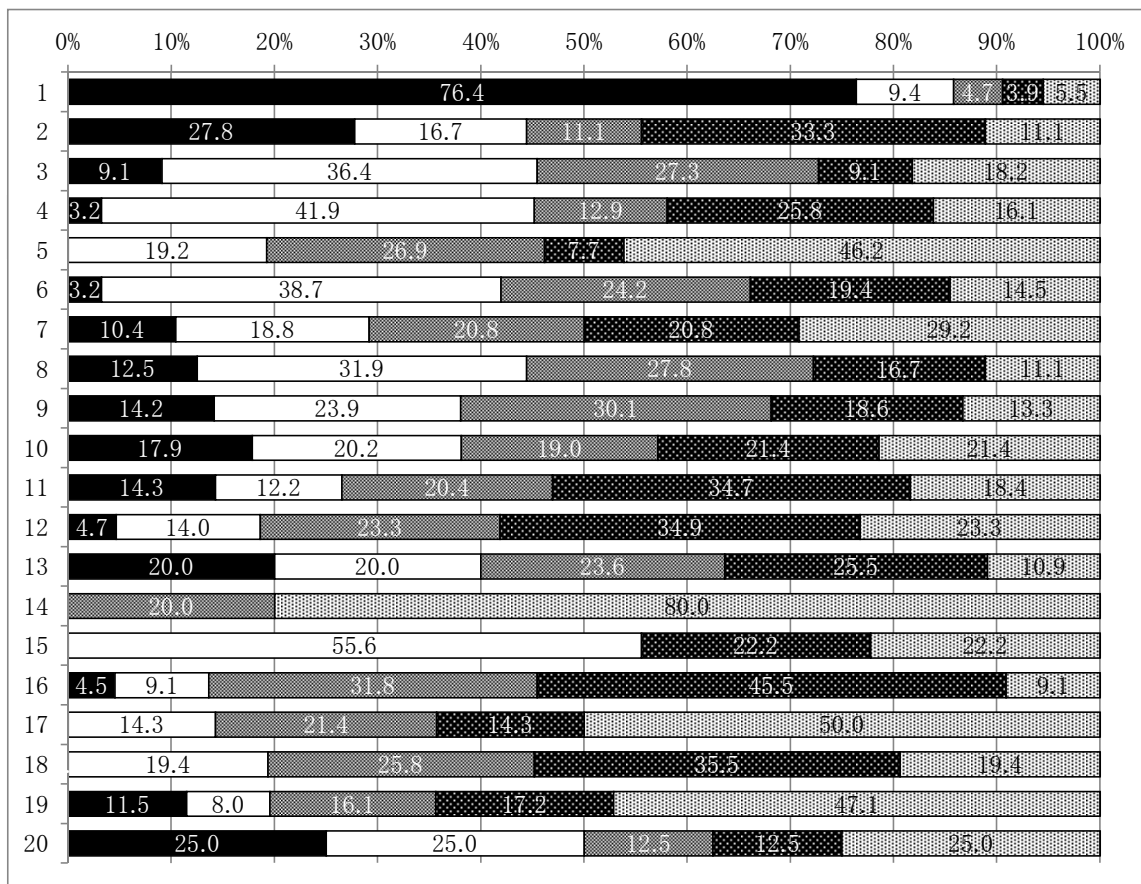
N=186

質問5

あなたの学級の児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	97	12	6	5	7	569
2: 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容	5	3	2	6	2	57
3: 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	1	4	3	1	2	34
4: 適切な遊び・余暇	1	13	4	8	5	90
5: 認知発達又は教科の力	0	5	7	2	12	57
6: 体力・運動能力	2	24	15	12	9	185
7: 作業能力	5	9	10	10	14	127
8: 返事や挨拶	9	23	20	12	8	233
9: 意思表出・会話	16	27	34	21	15	349
10: 情緒の安定	15	17	16	18	18	248
11: 活動への見通し	7	6	10	17	9	132
12: 状況の理解や変化への対応	2	6	10	15	10	111
13: 主体的な取組や意欲	11	11	13	14	6	172
14: 忍耐力	0	0	1	0	4	7
15: 他者への信頼感	0	5	0	2	2	26
16: 自己理解	1	2	7	10	2	56
17: 他者の意図や感情の読み取り	0	2	3	2	7	28
18: 礼儀やマナー	0	6	8	11	6	81
19: 集団参加に関するルールや協調性	10	7	14	15	41	196
20: その他	2	2	1	1	2	25



◆「基本的な生活習慣」を優先している学級が多くなっている。次いで、「意志表出、会話」が多い。

6 自閉症のある児童生徒への優先度の高い指導内容

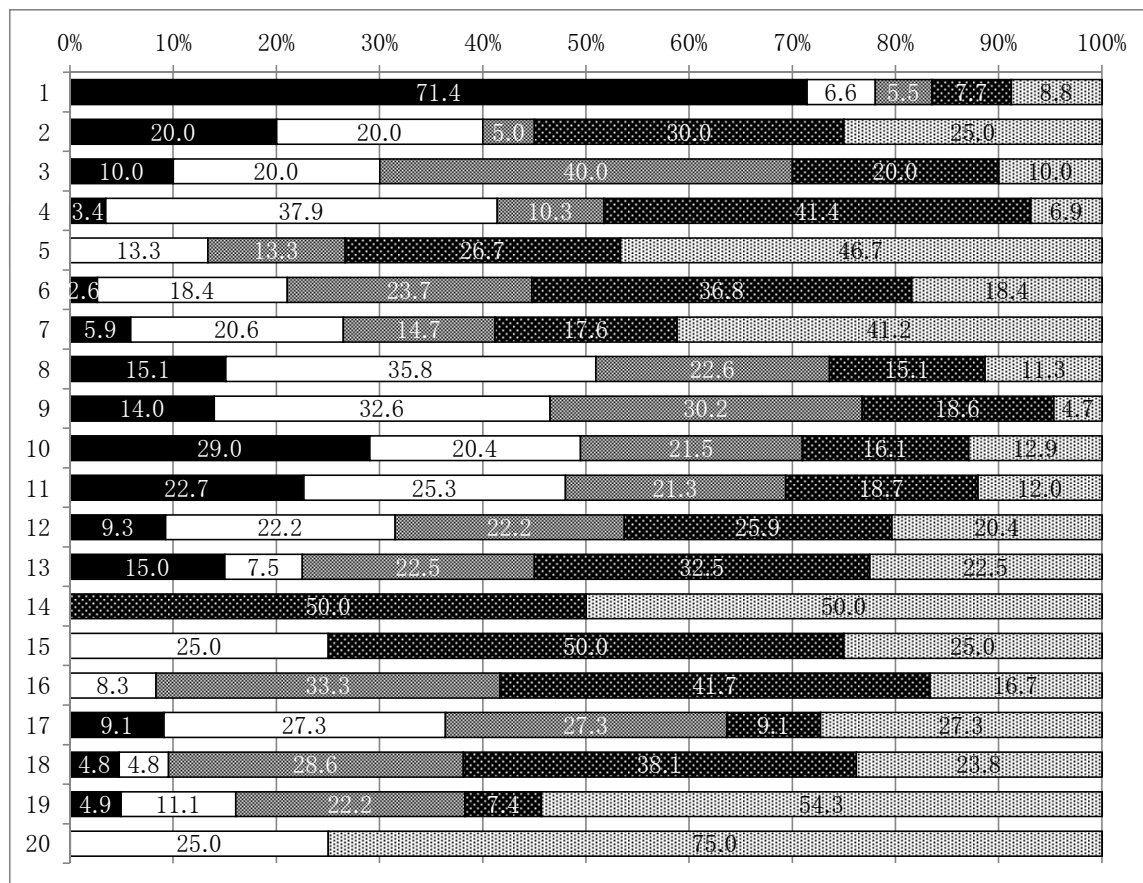
N=158

質問6

あなたの学級の自閉症のある児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	65	6	5	7	8	392
2: 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	4	4	1	6	5	56
3: 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	1	2	4	2	1	30
4: 適切な遊び・余暇	1	11	3	12	2	84
5: 認知発達又は教科の力	0	2	2	4	7	32
6: 体力・運動能力	1	7	9	14	7	98
7: 作業能力	2	7	5	6	14	82
8: 返事や挨拶	8	19	12	8	6	174
9: 意思表出・会話	12	28	26	16	4	295
10: 情緒の安定	27	19	20	15	12	319
11: 活動への見通し	17	19	16	14	9	254
12: 状況の理解や変化への対応	5	12	12	14	11	160
13: 主体的な取組や意欲	6	3	9	13	9	104
14: 忍耐力	0	0	0	2	2	6
15: 他者への信頼感	0	1	0	2	1	9
16: 自己理解	0	1	4	5	2	28
17: 他者の意図や感情の読み取り	1	3	3	1	3	31
18: 礼儀やマナー	1	1	6	8	5	53
19: 集団参加に関するルールや協調性	4	9	18	6	44	171
20: その他	0	1	0	0	3	7



◆自閉症のある児童生徒への指導内容においても、「基本的な生活習慣」と「意志表出・会話」を優先している学級が多い。

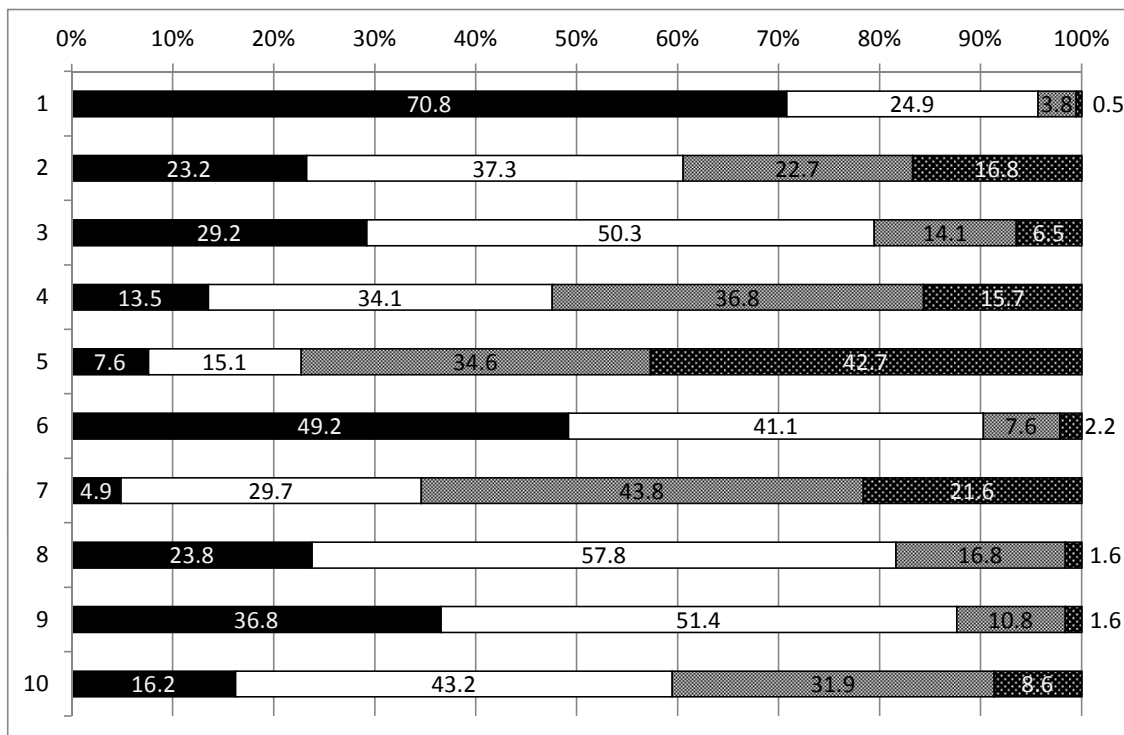
7 学級の教育課程編成上の考慮点

N=186

質問7

あなたの学級の教育課程について、当てはまる番号を入力してください。

項目	重視	どちらかといえば重視	どちらかといえば重視していない	重視していない
① 領域・教科を合わせた指導を中心とした編成	131	46	7	1
② 教科別の指導を適切に位置付けた編成	43	69	42	31
③ 児童生徒の様子に合わせたグルーピングを可能とする編成	54	93	26	12
④ 児童生徒の様子に合わせた複数の教育課程を可能とする編成	25	63	68	29
⑤ 準ずる教育課程を基本とした編成	14	28	64	79
⑥ 見通しをもった日課を実現できるための編成	91	76	14	4
⑦ 道徳教育を適切に位置付けた編成	9	55	81	40
⑧ 体育・健康に関する指導を適切に位置付けた編成	44	107	31	3
⑨ 個々の児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を把握し、改善・克服する場面を位置付けた編成	68	95	20	3
⑩ 校内の施設設備等を考慮に入れた編成	30	80	59	16



◆「領域・教科を合わせた指導を中心とした編成」、「見通しをもった日課を実現できるための編成」、「個々の児童生徒の障がいによる学習上または生活上の困難を把握し、改善・克服する場面を位置付けた編成」の順に重視している割合が高くなっている。

◆「準ずる教育課程を基本とした編成」については、重視していない割合が高くなっている。

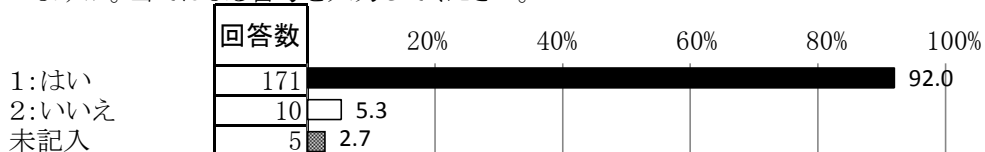


8 自立活動の必要性

N=186

質問8

自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。当てはまる番号を入力してください。



◆必要と思っている担任は、90%を超えている。

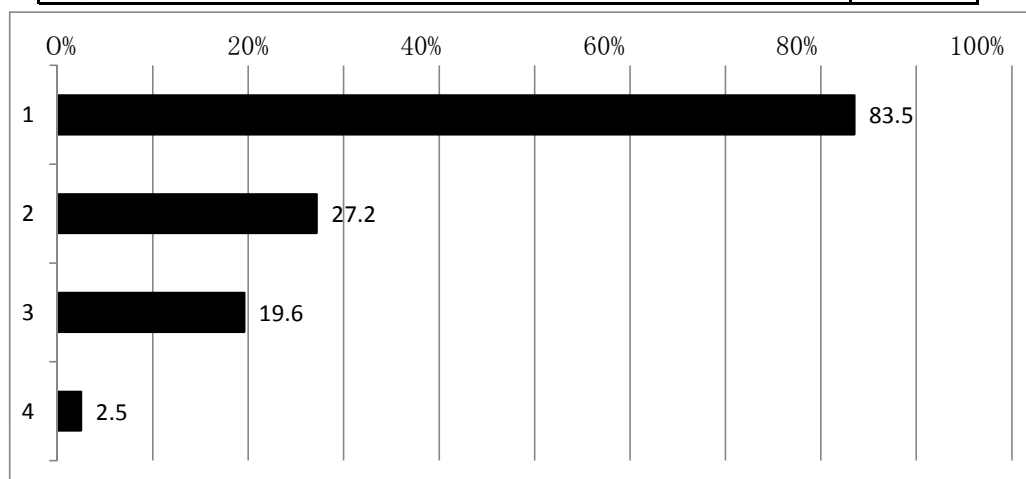
9 自立活動を取り入れている指導形態

N=158

質問9

あなたの学級では、自閉症のある児童生徒に対して、どのような指導形態において、自立活動を取り入れた指導・支援を行っていますか。(複数選択可)

項目	回答数
1: 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている	132
2: 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている	43
3: 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている	31
4: 取り入れていない	4



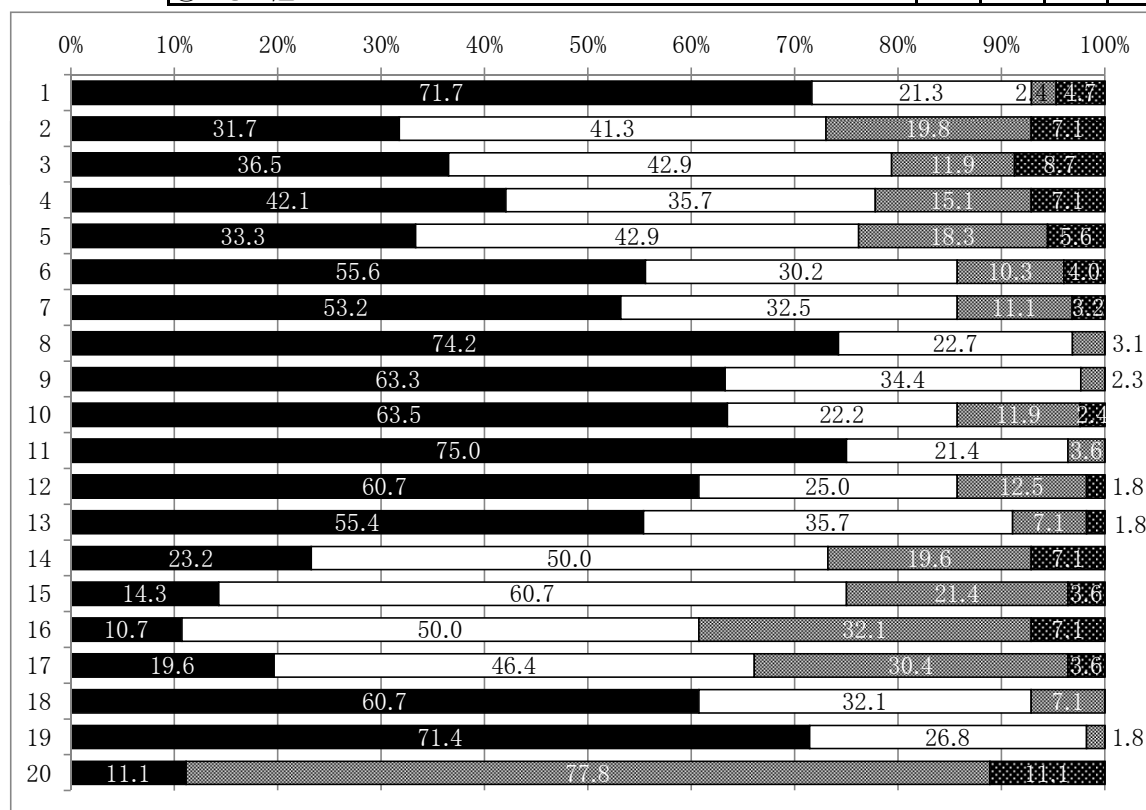
◆「領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」学級が一番多くなっている。

9-1 自立活動として取り入れている指導内容(領域・教科を合わせた指導)

N=132

質問9-1 質問9で「1 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえ取り入っていない	取り入っていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	91	27	3	6
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	40	52	25	9
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	46	54	15	11
④ 適切な遊び・余暇	53	45	19	9
⑤ 認知発達又は教科の力	42	54	23	7
⑥ 体力・運動能力	70	38	13	5
⑦ 作業能力	67	41	14	4
⑧ 返事や挨拶	95	29	4	0
⑨ 意思表示・会話	81	44	3	0
⑩ 情緒の安定	80	28	15	3
⑪ 活動への見通し	42	12	2	0
⑫ 状況の理解や変化への対応	34	14	7	1
⑬ 主体的な取組や意欲	31	20	4	1
⑭ 忍耐力	13	28	11	4
⑮ 他者への信頼感	8	34	12	2
⑯ 自己理解	6	28	18	4
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	11	26	17	2
⑱ 礼儀やマナー	34	18	4	0
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	40	15	1	0
⑳ その他	1	0	7	1



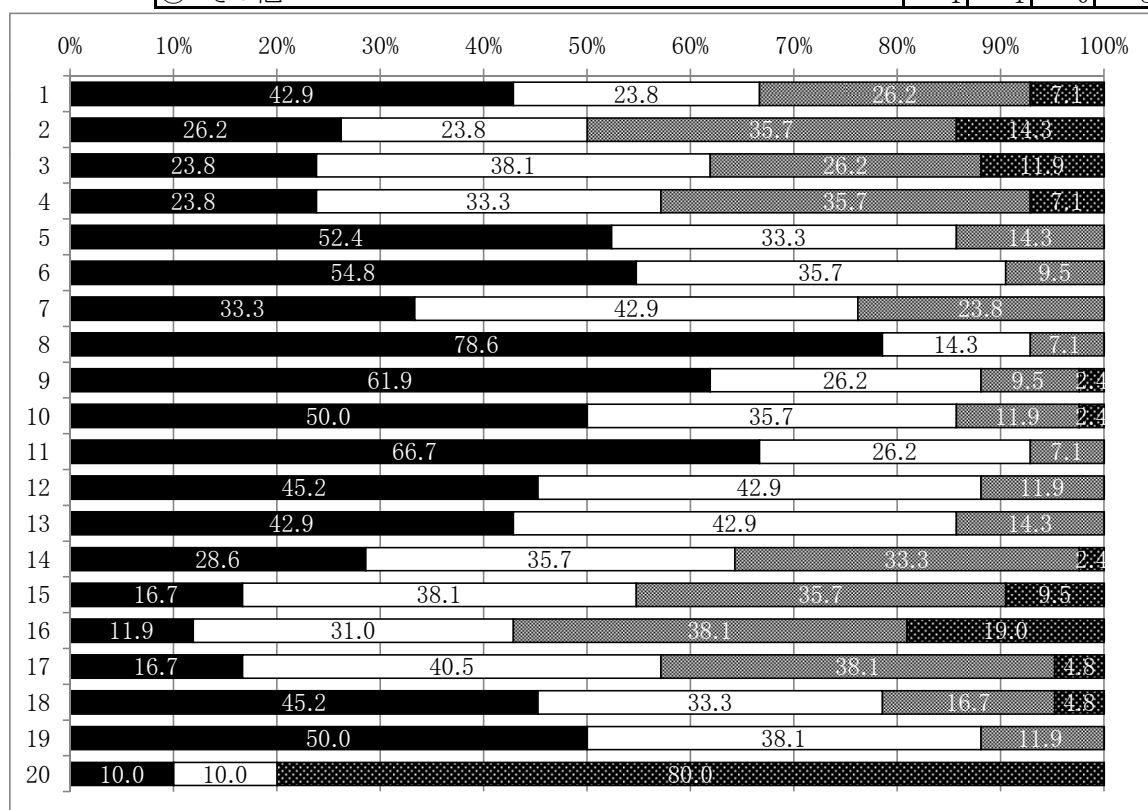
◆「基本的な生活習慣」と「返事や挨拶」、「意思表示・会話」の意志伝達に関する指導内容を多く取り入れている。

9-2 自立活動として取り入れている指導内容(教科別・領域別の指導)

N=43

質問9-2 質問9で「2 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえば取り入れている	取り入っていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	18	10	11	3
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	11	10	15	6
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	10	16	11	5
④ 適切な遊び・余暇	10	14	15	3
⑤ 認知発達又は教科の力	22	14	6	0
⑥ 体力・運動能力	23	15	4	0
⑦ 作業能力	14	18	10	0
⑧ 返事や挨拶	33	6	3	0
⑨ 意思表示・会話	26	11	4	1
⑩ 情緒の安定	21	15	5	1
⑪ 活動への見通し	28	11	3	0
⑫ 状況の理解や変化への対応	19	18	5	0
⑬ 主体的な取組や意欲	18	18	6	0
⑭ 忍耐力	12	15	14	1
⑮ 他者への信頼感	7	16	15	4
⑯ 自己理解	5	13	16	8
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	7	17	16	2
⑱ 礼儀やマナー	19	14	7	2
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	21	16	5	0
⑳ その他	1	1	0	8

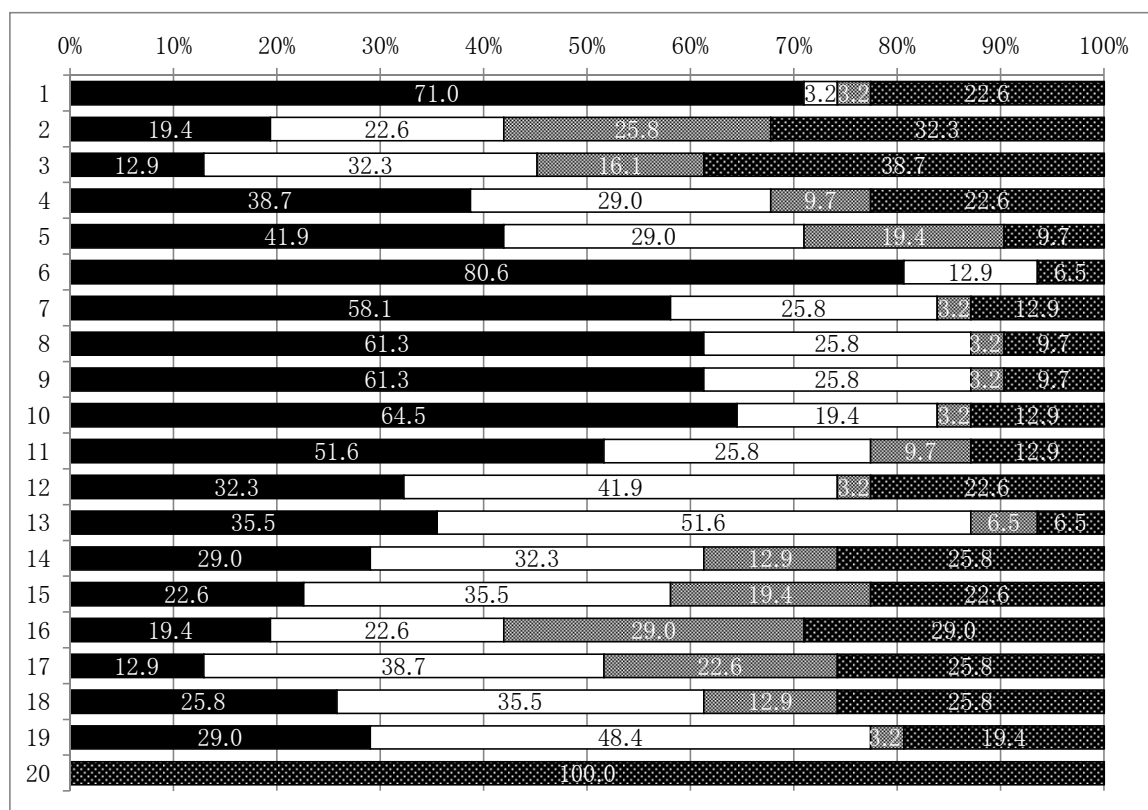


◆「返事や挨拶」、「活動への見通し」、「意志表出・会話」、「体力・運動能力」、「認知発達または教科の力」、「集団参加に関するルールや協調性」、「情緒の安定」を多く取り入れている。

9-3 自立活動として取り入れている指導内容(特設した自立活動の時間における指導) N=31

質問9-3 質問9で「3 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえ取り入れていない	取り入れていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	22	1	1	7
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	6	7	8	10
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	4	10	5	12
④ 適切な遊び・余暇	12	9	3	7
⑤ 認知発達又は教科の力	13	9	6	3
⑥ 体力・運動能力	25	4	0	2
⑦ 作業能力	18	8	1	4
⑧ 返事や挨拶	19	8	1	3
⑨ 意思表出・会話	19	8	1	3
⑩ 情緒の安定	20	6	1	4
⑪ 活動への見通し	16	8	3	4
⑫ 状況の理解や変化への対応	10	13	1	7
⑬ 主体的な取組や意欲	11	16	2	2
⑭ 忍耐力	9	10	4	8
⑮ 他者への信頼感	7	11	6	7
⑯ 自己理解	6	7	9	9
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	4	12	7	8
⑱ 礼儀やマナー	8	11	4	8
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	9	15	1	6
⑳ その他	0	0	0	4



◆「体力・運動能力」、「基本的な生活習慣」、「情緒の安定」、「返事や挨拶」、「意志表出・会話」、「作業能力」、「活動への見通し」を取り入れている学級が多い。

10 自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた具体的な取組

N=158

質問10

自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して、取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆「活動等のスケジュールの構造化」、「教材・教具の工夫」、「共に授業を行う教師間による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解」、「教室等の物理的構造化」に多く取り組んでいる。

11 自立活動の個別の指導計画への位置付け

N=186

質問11 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付けていますか。当てはまる番号を入力してください。



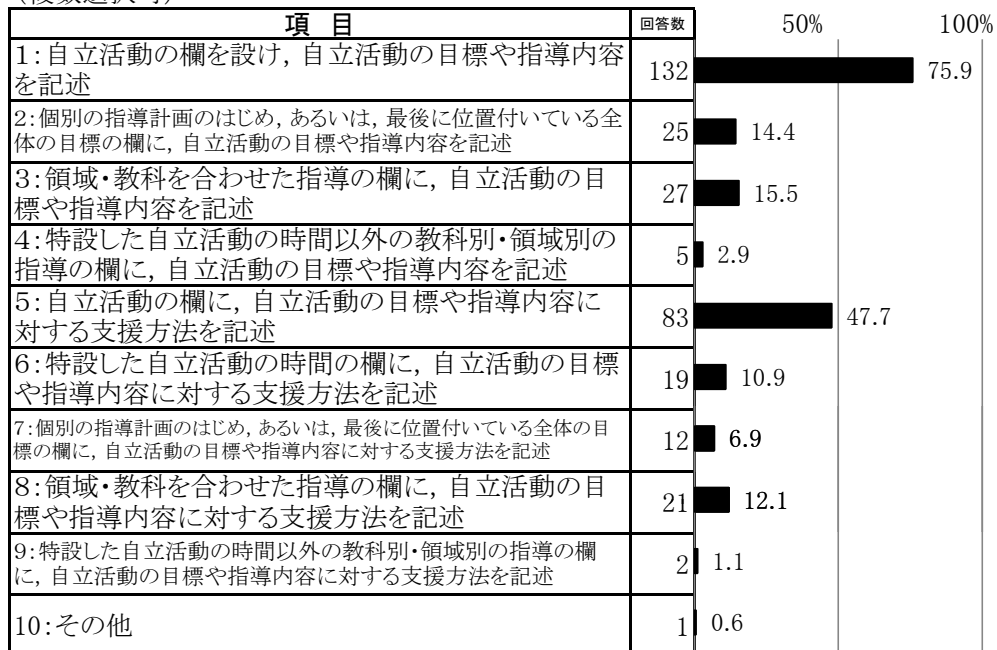
◆位置付けている学級は93%となっている。

※ただし、個別指導計画の様式に、自立活動の目標や指導内容について記載する項目がないために「いいえ」と答えた者も含まれている可能性がある。

11-1-① 自立活動の目標や指導内容等に関する個別の指導計画への位置付け

N=174

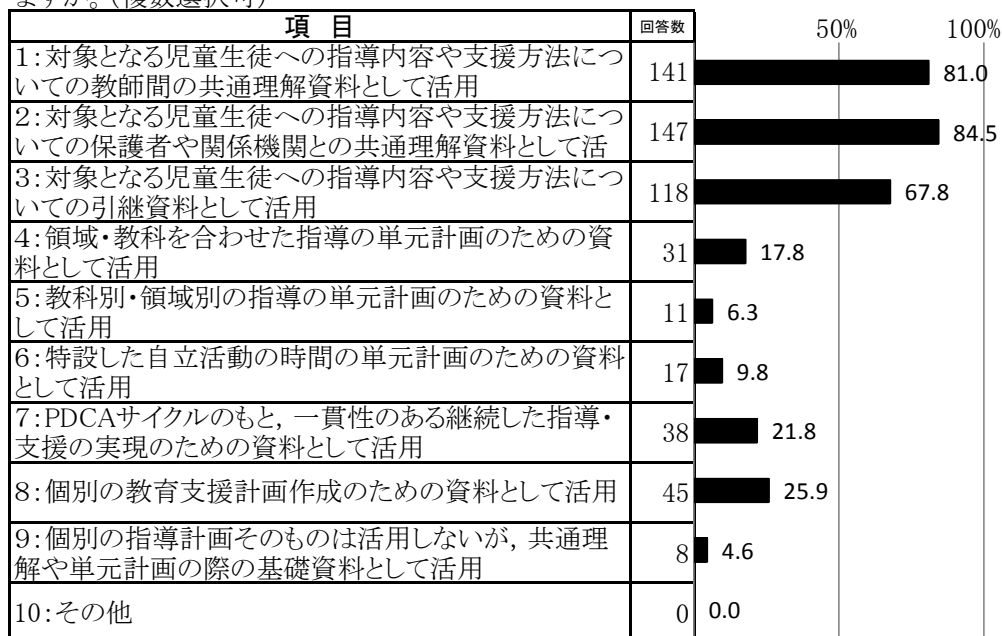
質問11-1-① 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。(複数選択可)



◆「自立活動の欄を設け、自立活動の目標や指導内容を記述」、「自立活動の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述」の回答数が多い。

11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用状況 N=174

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)



◆「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の共通理解資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての保護者や関係機関との共通理解資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての引き継ぎ資料として活用」をしている学級が多い。

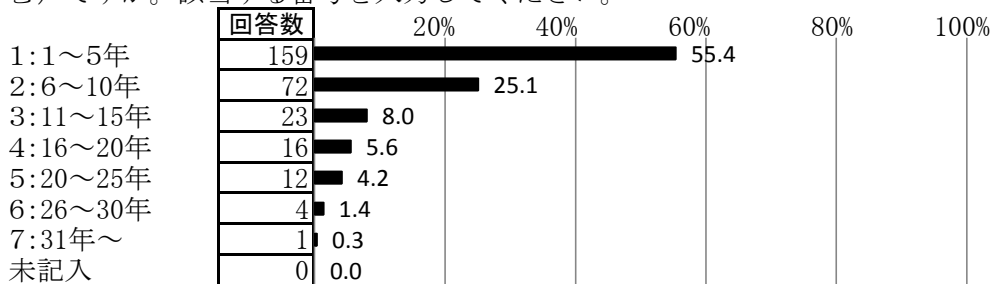
# 【調 査 集 計】

## 特別支援学級



### 1 学級担任経験年数

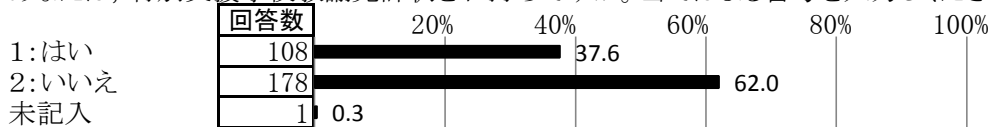
質問1 平成23年4月1日現在、あなたは、特別支援教育に携わって何年目（講師経験含む）ですか。該当する番号を入力してください。



◆1～5年の経験年数の割合が高い。

### 2 特別支援学校教諭免許状保有状況

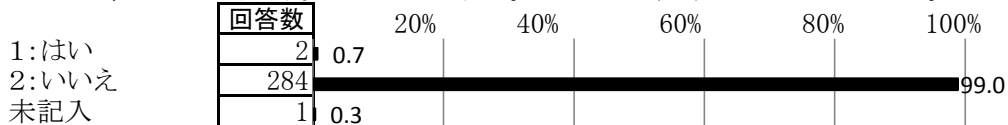
質問2 あなたは、特別支援学校教諭免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆特別支援学校教諭免許状を保有している教諭の割合は低い。

### 3 自立活動免許保有状況

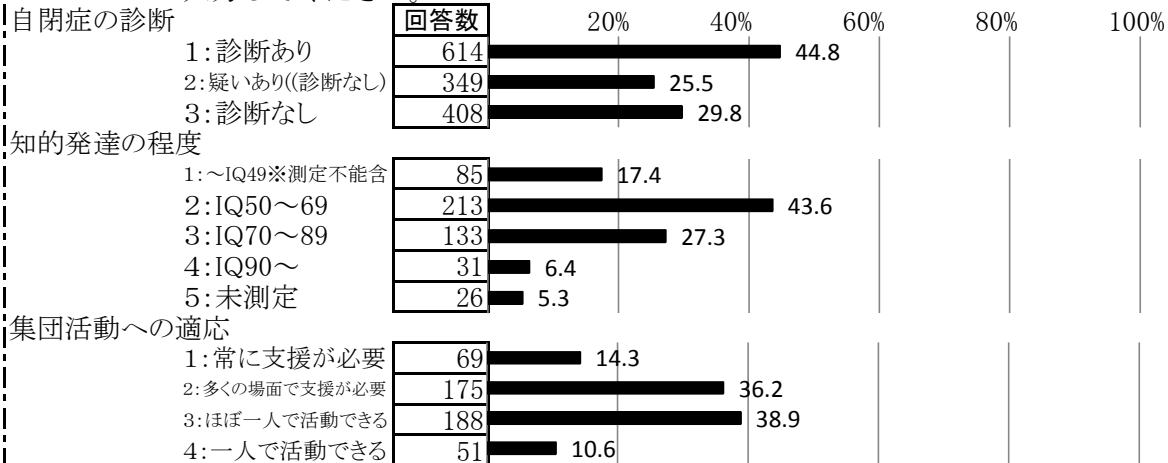
質問3 あなたは、自立活動免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆自立活動免許状を保有している教諭の割合は低い。

### 4 学級の様子:自閉症の診断,知的発達,適応状況

質問4 あなたの学級のすべての児童生徒の様子について、以下の表に当てはまる番号を入力してください。



◆自閉症の診断あり、または疑いありの割合は約半数である。

◆IQ49以下の児童生徒もいる。

◆IQ50～69の児童生徒の割合が多い。

5 学級における優先度の高い指導内容

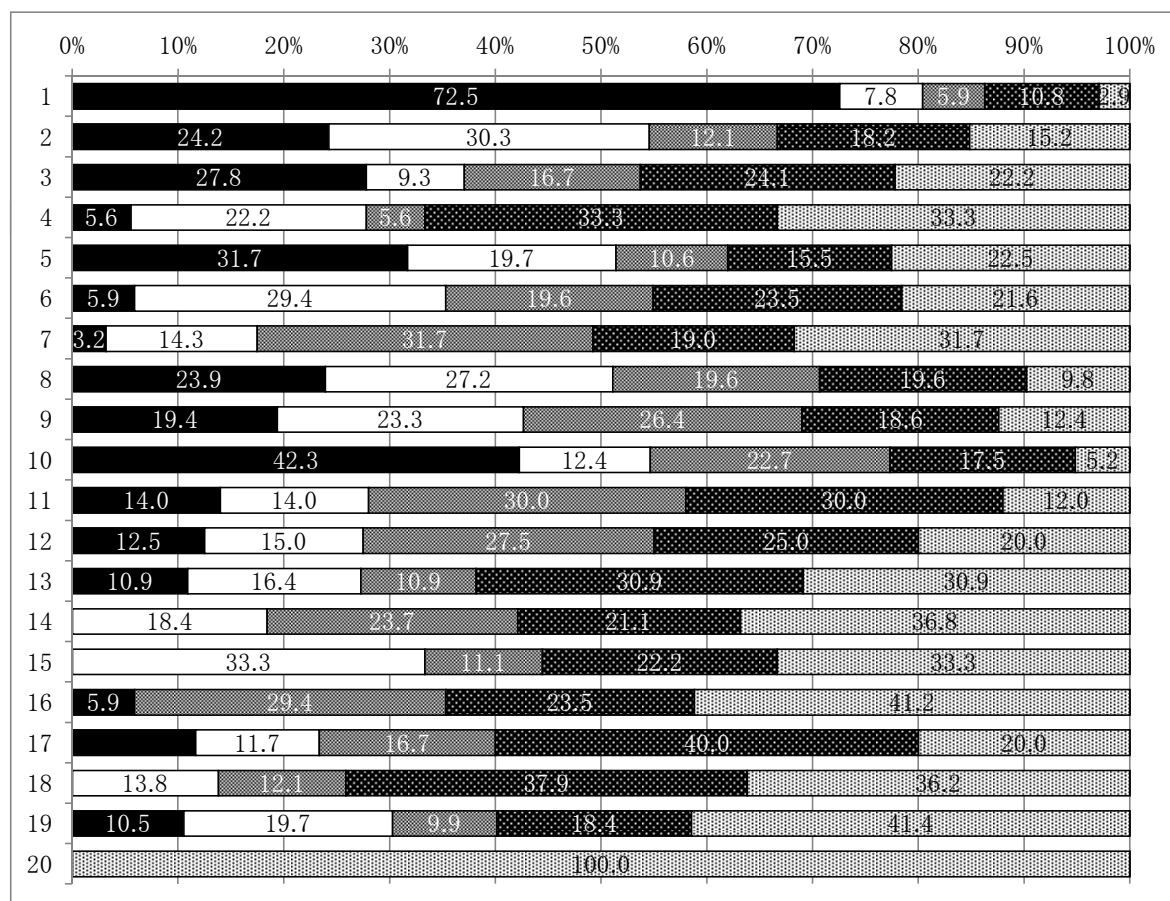
N=287

質問5

あなたの学級の児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	74	8	6	11	3	445
2: 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容	8	10	4	6	5	109
3: 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	15	5	9	13	12	160
4: 適切な遊び・余暇	1	4	1	6	6	42
5: 認知発達又は教科の力	45	28	15	22	32	458
6: 体力・運動能力	3	15	10	12	11	140
7: 作業能力	2	9	20	12	20	150
8: 返事や挨拶	22	25	18	18	9	309
9: 意思表示・会話	25	30	34	24	16	411
10: 情緒の安定	41	12	22	17	5	358
11: 活動への見通し	7	7	15	15	6	144
12: 状況の理解や変化への対応	10	12	22	20	16	220
13: 主体的な取組や意欲	6	9	6	17	17	135
14: 忍耐力	0	7	9	8	14	85
15: 他者への信頼感	0	3	1	2	3	22
16: 自己理解	1	0	5	4	7	35
17: 他者の意図や感情の読み取り	7	7	10	24	12	153
18: 礼儀やマナー	0	8	7	22	21	118
19: 集団参加に関するルールや協調性	16	30	15	28	63	364
20: その他	0	0	0	0	3	3



◆「基本的な生活習慣」を優先している学級が多くなっている。次いで、「情緒の安定」が多い。

6 自閉症のある児童生徒への優先度の高い指導内容

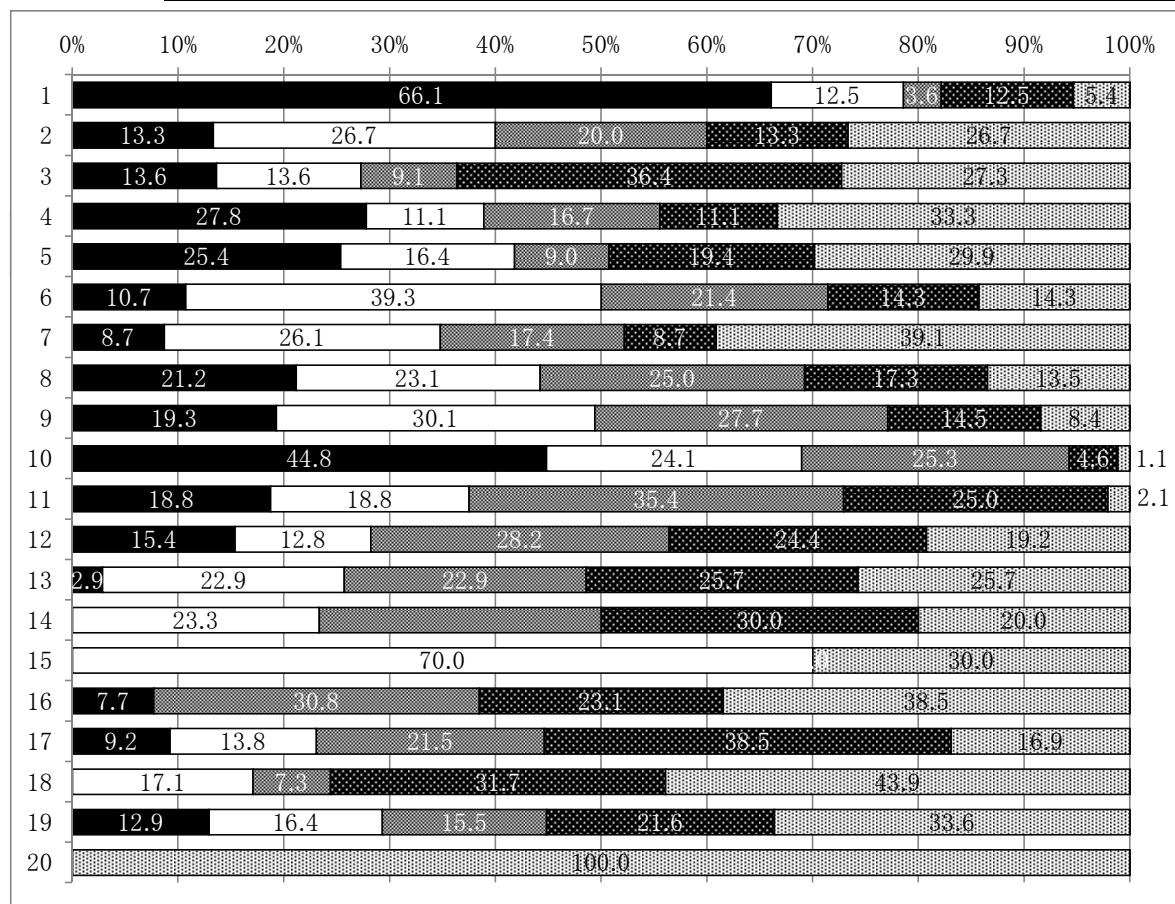
N=213

質問6

あなたの学級の自閉症のある児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	37	7	2	7	3	236
2: 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	2	4	3	2	4	43
3: 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	3	3	2	8	6	55
4: 適切な遊び・余暇	5	2	3	2	6	52
5: 認知発達又は教科の力	17	11	6	13	20	193
6: 体力・運動能力	3	11	6	4	4	89
7: 作業能力	2	6	4	2	9	59
8: 返事や挨拶	11	12	13	9	7	167
9: 意思表出・会話	16	25	23	12	7	280
10: 情緒の安定	39	21	22	4	1	354
11: 活動への見通し	9	9	17	12	1	157
12: 状況の理解や変化への対応	12	10	22	19	15	219
13: 主体的な取組や意欲	1	8	8	9	9	88
14: 忍耐力	0	7	8	9	6	76
15: 他者への信頼感	0	7	0	0	3	31
16: 自己理解	1	0	4	3	5	28
17: 他者の意図や感情の読み取り	6	9	14	25	11	169
18: 礼儀やマナー	0	7	3	13	18	81
19: 集団参加に関するルールや協調性	15	19	18	25	39	294
20: その他	0	0	0	0	4	4



◆自閉症のある児童生徒への指導内容においては、「集団参加に関するルールや協調性」と「意志表出・会話」、「情緒の安定」を優先している学級が多い。

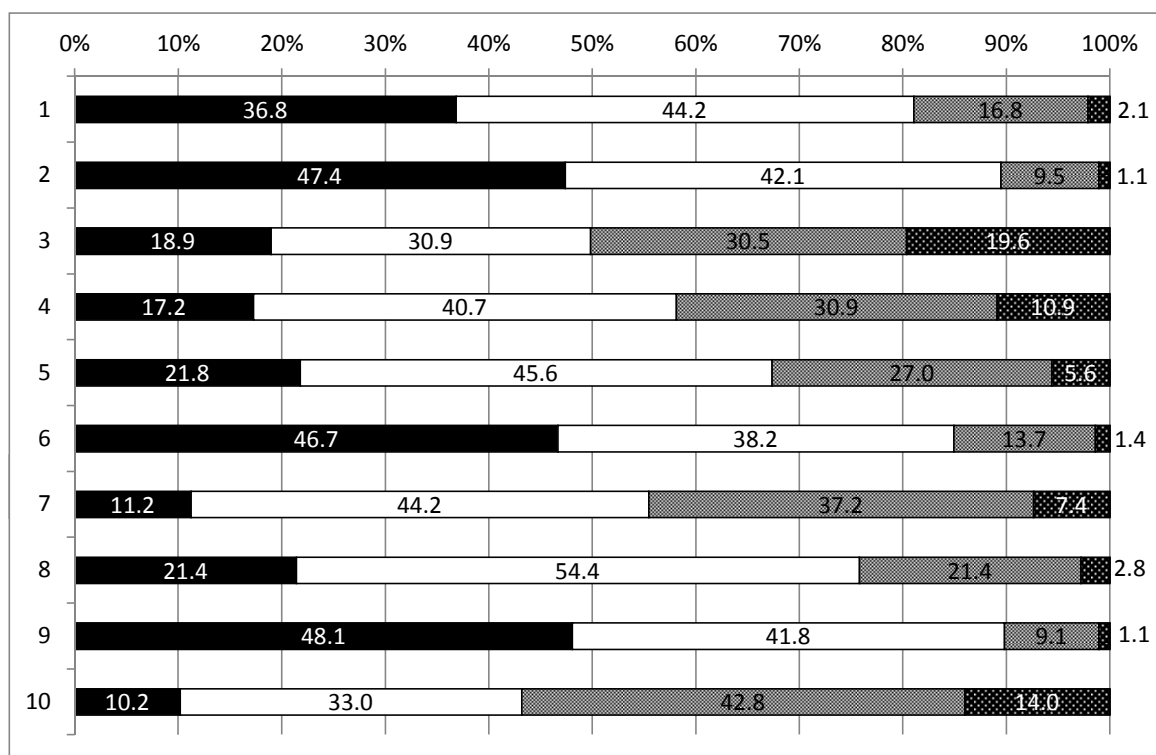
7 学級の教育課程編成上の考慮点

N=287

質問7

あなたの学級の教育課程について、当てはまる番号を入力してください。

項目	重視	どちらかといえば重視	どちらかといえば重視していない	重視していない
① 領域・教科を合わせた指導を中心とした編成	105	126	48	6
② 教科別の指導を適切に位置付けた編成	135	120	27	3
③ 児童生徒の様子に合わせたグルーピングを可能とする編成	54	88	87	56
④ 児童生徒の様子に合わせた複数の教育課程を可能とする編成	49	116	88	31
⑤ 準ずる教育課程を基本とした編成	62	130	77	16
⑥ 見通しをもった日課を実現できるための編成	133	109	39	4
⑦ 道徳教育を適切に位置付けた編成	32	126	106	21
⑧ 体育・健康に関する指導を適切に位置付けた編成	61	155	61	8
⑨ 個々の児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を把握し、改善・克服する場面を位置付けた編成	137	119	26	3
⑩ 校内の施設設備等を考慮に入れた編成	29	94	122	40



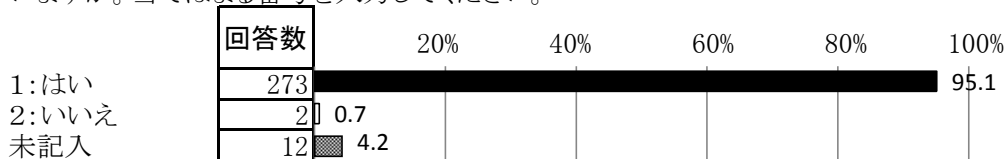
◆「個々の児童生徒の障がいによる学習上または生活上の困難を把握し、改善・克服する場面を位置付けた編成」、「教科別の指導を適切に位置付けた編成」、「見通しをもった日課を実現できるための編成」の順に重視している割合が高くなっている。

8 自立活動の必要性

N=287

質問8

自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。当てはまる番号を入力してください。



◆必要と思っている担任は、90%を超えている。

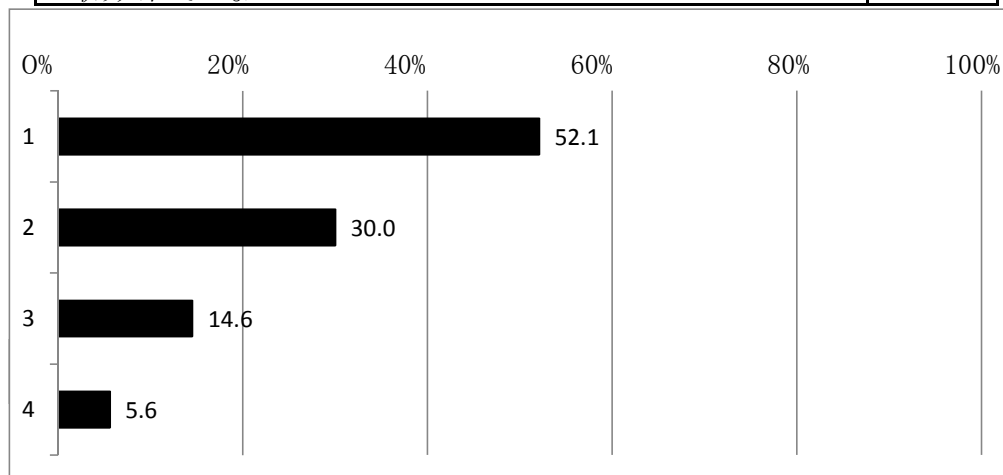
9 自立活動を取り入れている指導形態

N=213

質問9

あなたの学級では、自閉症のある児童生徒に対して、どのような指導形態において、自立活動を取り入れた指導・支援を行っていますか。(複数選択可)

項目	回答数
1: 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている	111
2: 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている	64
3: 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている	31
4: 取り入れていない	12



◆「領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」学級が一番多くなっている。

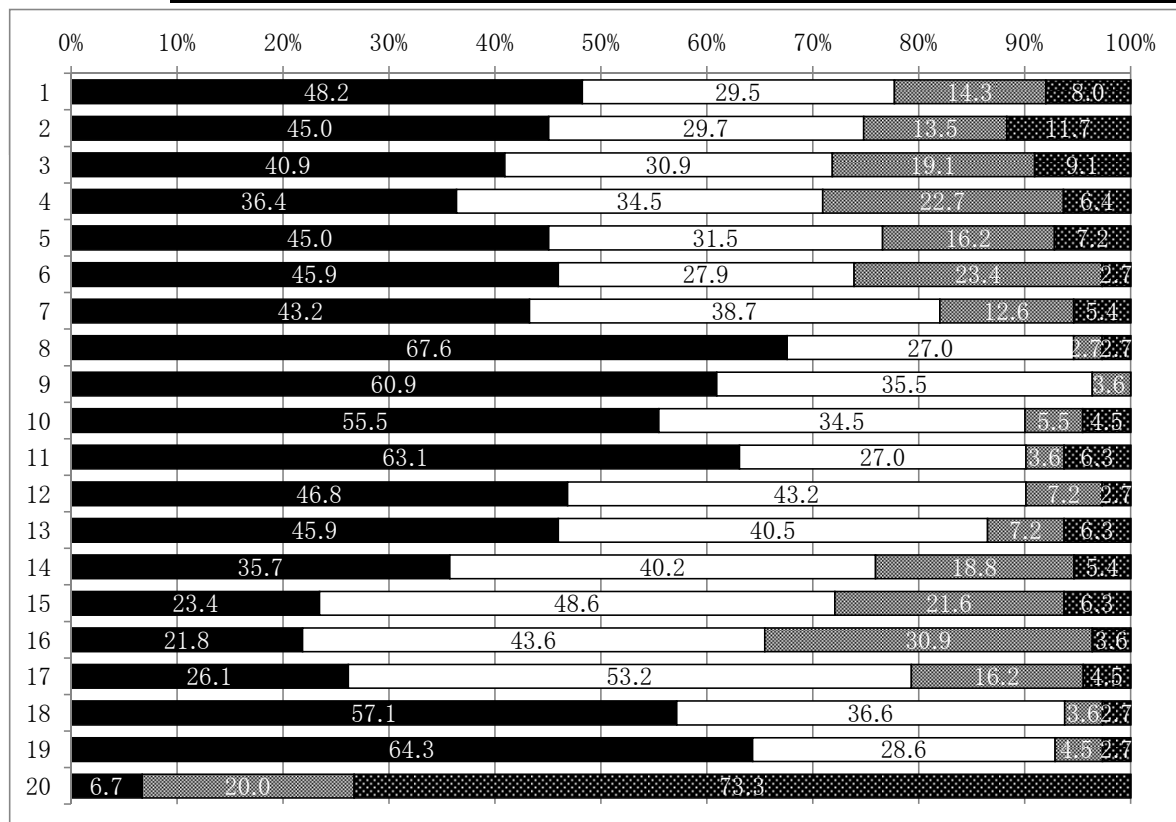
9-1 自立活動として取り入れている指導内容(領域・教科を合わせた指導)

N=111

質問9-1

質問9で「1 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえ取り入っていない	取り入っていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	54	33	16	9
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	50	33	15	13
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	45	34	21	10
④ 適切な遊び・余暇	40	38	25	7
⑤ 認知発達又は教科の力	50	35	18	8
⑥ 体力・運動能力	51	31	26	3
⑦ 作業能力	48	43	14	6
⑧ 返事や挨拶	75	30	3	3
⑨ 意思表示・会話	67	39	4	0
⑩ 情緒の安定	61	38	6	5
⑪ 活動への見通し	70	30	4	7
⑫ 状況の理解や変化への対応	52	48	8	3
⑬ 主体的な取組や意欲	51	45	8	7
⑭ 忍耐力	40	45	21	6
⑮ 他者への信頼感	26	54	24	7
⑯ 自己理解	24	48	34	4
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	29	59	18	5
⑱ 礼儀やマナー	64	41	4	3
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	72	32	5	3
⑳ その他	2	0	6	22



◆「返事や挨拶」、「集団参加に関するルールや協調性」、「活動への見通し」の集団生活に関する指導内容を多く取り入れている。

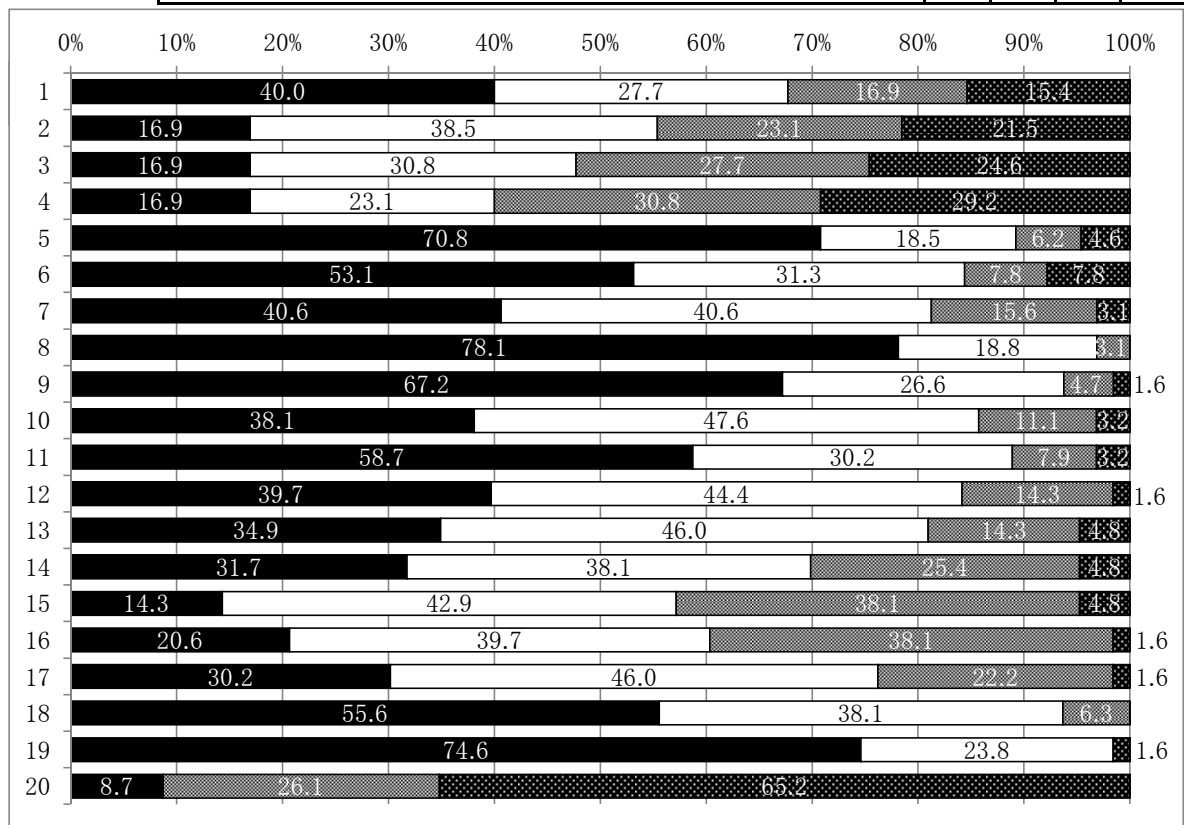
9-2 自立活動として取り入れている指導内容(教科別・領域別の指導)

N=64

質問9-2

質問9で「2 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえ取り入れていない	取り入れていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	26	18	11	10
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	11	25	15	14
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	11	20	18	16
④ 適切な遊び・余暇	11	15	20	19
⑤ 認知発達又は教科の力	46	12	4	3
⑥ 体力・運動能力	34	20	5	5
⑦ 作業能力	26	26	10	2
⑧ 返事や挨拶	50	12	2	0
⑨ 意思表示・会話	43	17	3	1
⑩ 情緒の安定	24	30	7	2
⑪ 活動への見通し	37	19	5	2
⑫ 状況の理解や変化への対応	25	28	9	1
⑬ 主体的な取組や意欲	22	29	9	3
⑭ 忍耐力	20	24	16	3
⑮ 他者への信頼感	9	27	24	3
⑯ 自己理解	13	25	24	1
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	19	29	14	1
⑱ 礼儀やマナー	35	24	4	0
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	47	15	0	1
⑳ その他	2	0	6	15



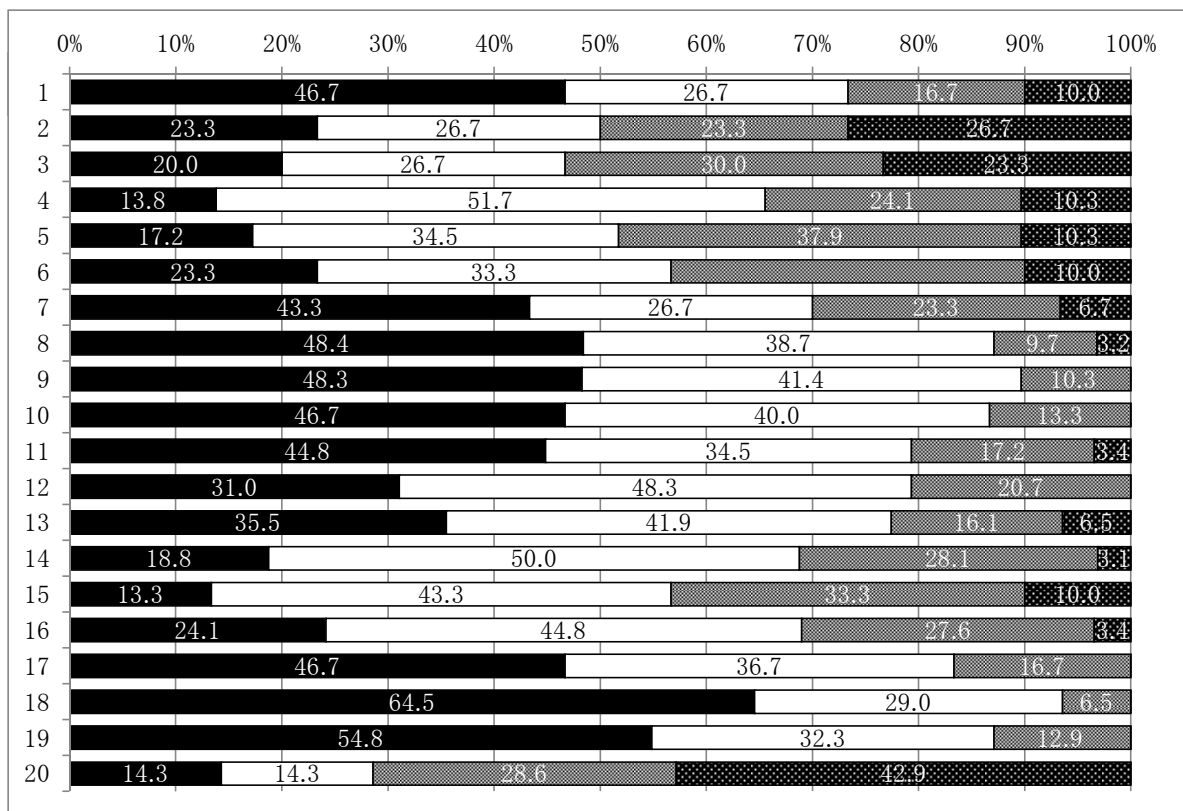
◆「返事や挨拶」、「認知発達又は教科の力」、「意志表出・会話」、「集団参加に関するルールや協調性」を多く取り入れている。

9-3 自立活動として取り入れている指導内容(特設した自立活動の時間における指導) N=31

質問9-3

質問9で「3 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入 れている	どちら かとい え取り 入 れている	どちら かとい えば 取り入 れてい ない	取り入 れてい ない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	14	8	5	3
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	7	8	7	8
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	6	8	9	7
④ 適切な遊び・余暇	4	15	7	3
⑤ 認知発達又は教科の力	5	10	11	3
⑥ 体力・運動能力	7	10	10	3
⑦ 作業能力	13	8	7	2
⑧ 返事や挨拶	15	12	3	1
⑨ 意思表示・会話	14	12	3	0
⑩ 情緒の安定	14	12	4	0
⑪ 活動への見通し	13	10	5	1
⑫ 状況の理解や変化への対応	9	14	6	0
⑬ 主体的な取組や意欲	11	13	5	2
⑭ 忍耐力	6	16	9	1
⑮ 他者への信頼感	4	13	10	3
⑯ 自己理解	7	13	8	1
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	14	11	5	0
⑱ 礼儀やマナー	20	9	2	0
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	17	10	4	0
⑳ その他	1	1	2	3



◆「礼儀やマナー」、「集団生活に関するルールや協調性」を取り入れている学級が多い。

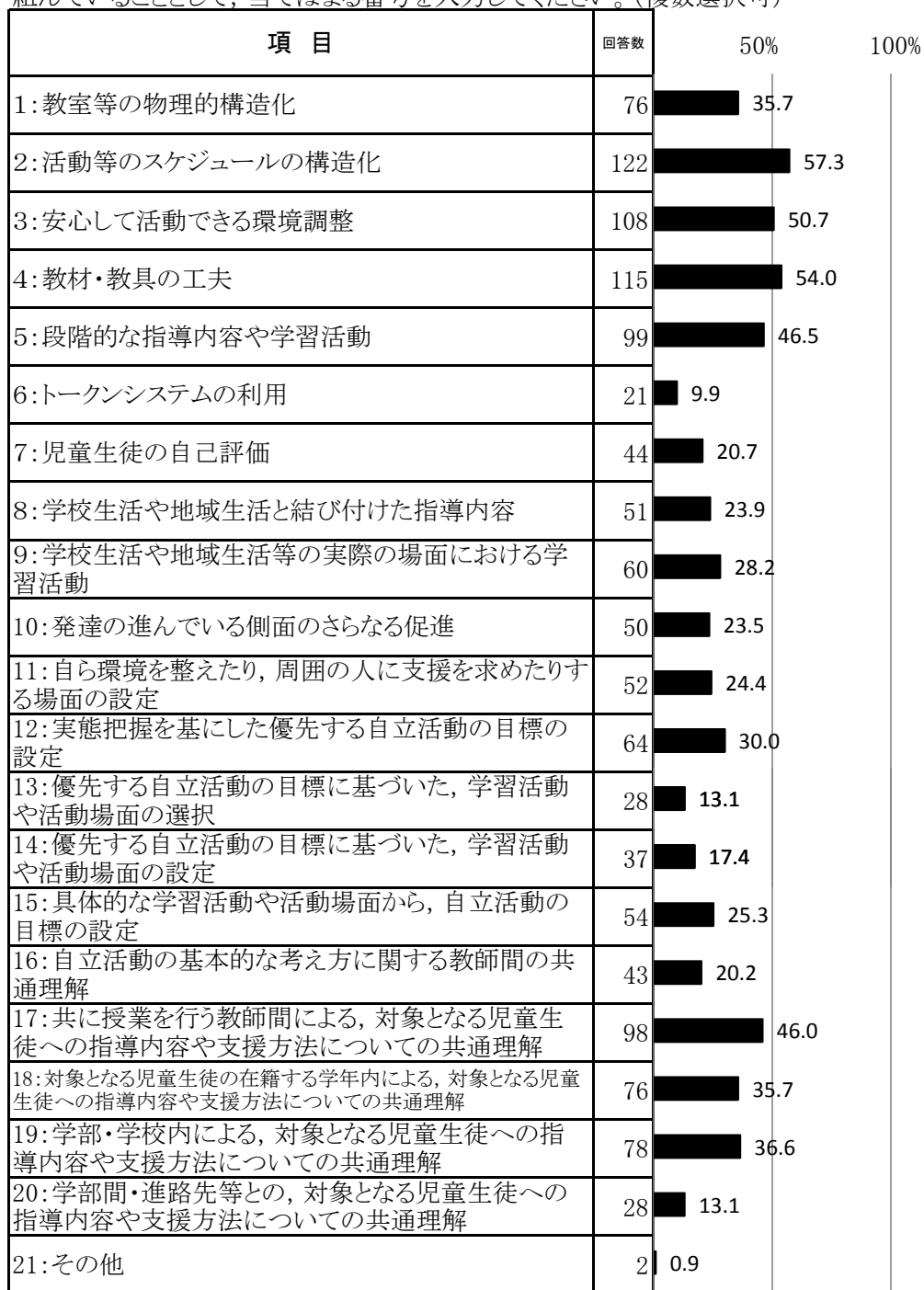


10 自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた具体的な取組

N=213

質問10

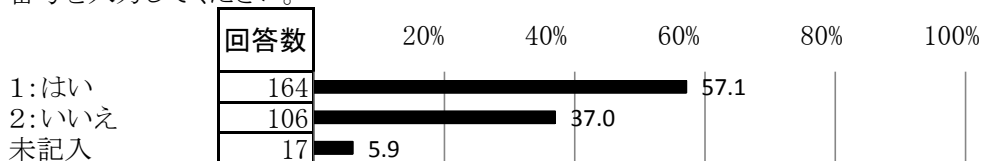
自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して、取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆「活動等のスケジュールの構造化」、「教材・教具の工夫」、「安心して活動できる環境調整」、「段階的な指導内容や学習活動」に多く取り組んでいる。

11 自立活動の個別の指導計画への位置付け N=287

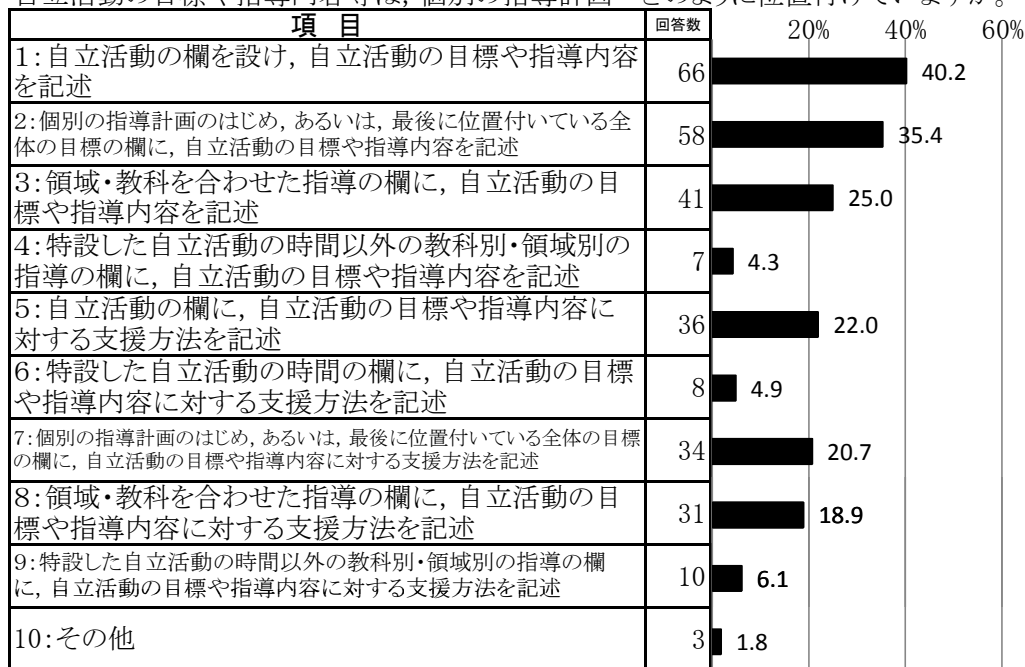
質問11 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付いていますか。当てはまる番号を入力してください。



◆位置付いている学級は57.1%となっている。

11-1-① 自立活動の目標や指導内容等に関する個別の指導計画への位置付け N=164

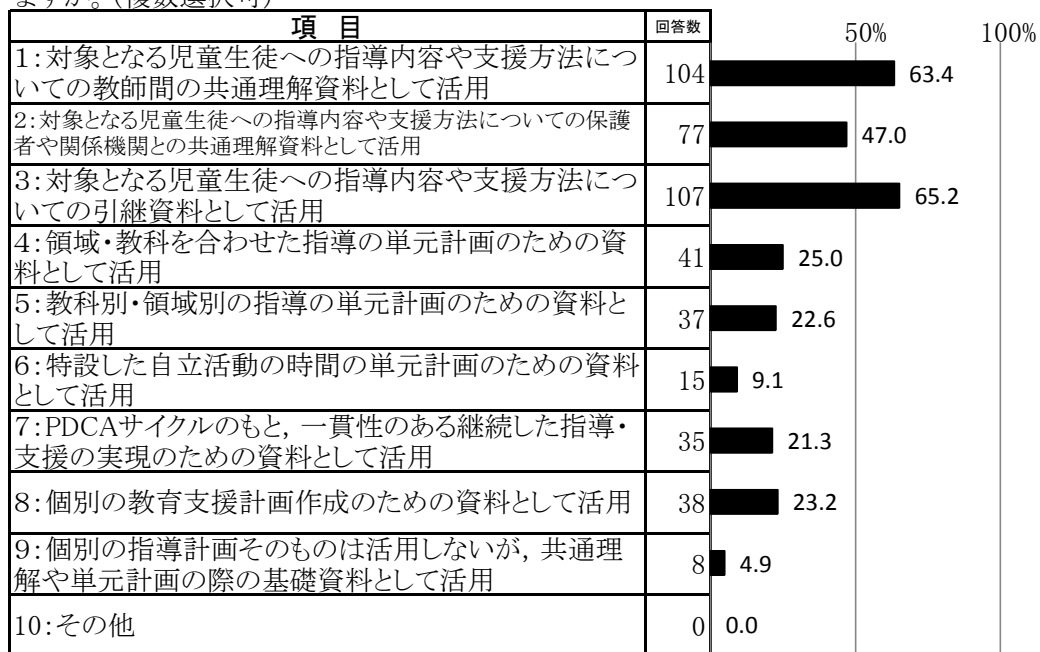
質問11-1-① 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。



◆「自立活動の欄を設け、自立活動の目標や指導内容を記述」、「個別の指導計画のはじめ、あるいは、最後に位置付いている全体の目標の欄に、自立活動の目標や指導内容を記述」の回答数が多い。

11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用状況 N=164

質問11-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)



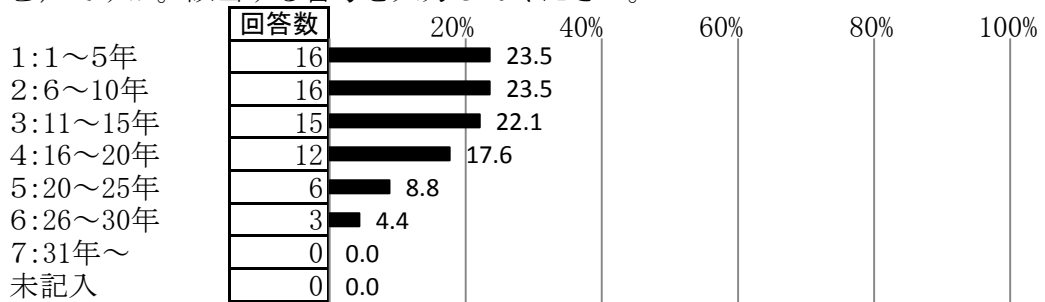
◆「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の引継資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の共通理解資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての保護者や関係機関との共通理解資料として活用」をしている学級が多い。

# 【調 查 集 計】

## 通級指導教室

### 1 教室担当経験年数

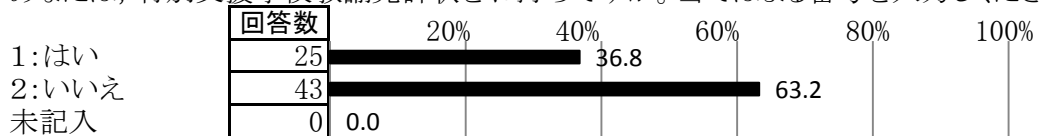
質問1 平成23年4月1日現在、あなたは、特別支援教育に携わって何年目（講師経験含む）ですか。該当する番号を入力してください。



◆1～5年、6～10年、11年～15年の経験年数の割合が高い。

### 2 特別支援学校教諭免許状保有状況

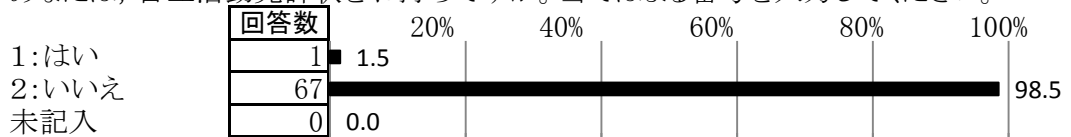
質問2 あなたは、特別支援学校教諭免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆特別支援学校教諭免許状を保有している教諭の割合は低い。

### 3 自立活動免許保有状況

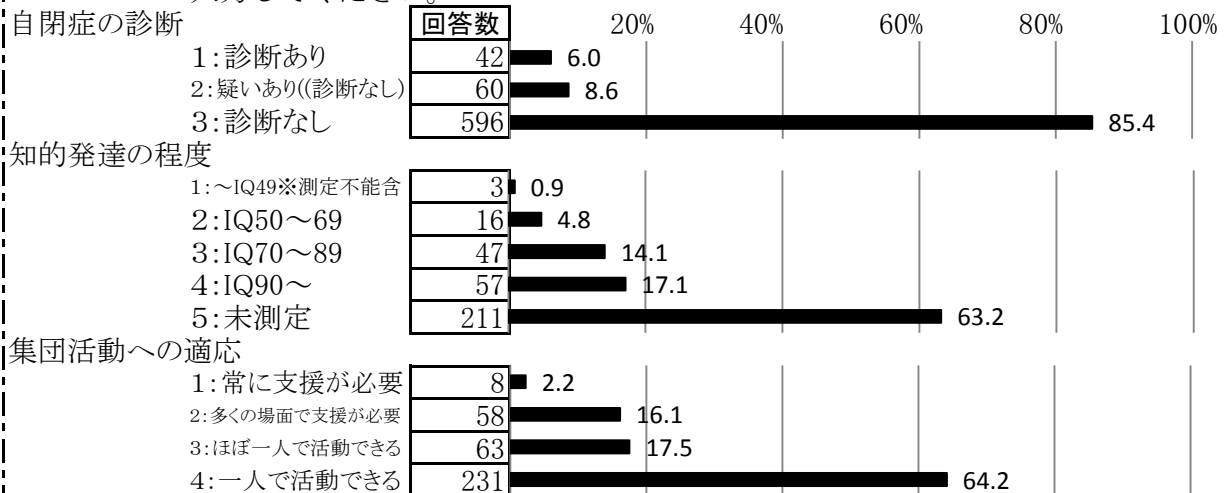
質問3 あなたは、自立活動免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。



◆自立活動免許状を保有している教諭の割合は低い。

### 4 教室の様子: 自閉症の診断, 知的発達, 適応状況

質問4 あなたの教室のすべての児童生徒の様子について、以下の表に当てはまる番号を入力してください。



◆自閉症の診断ありと疑いありを合わせると約15%である。

◆IQが未測定である割合が多いが、IQ69以下の児童生徒もいる。

◆常に支援が必要な児童生徒もいる。

5 教室における優先度の高い指導内容

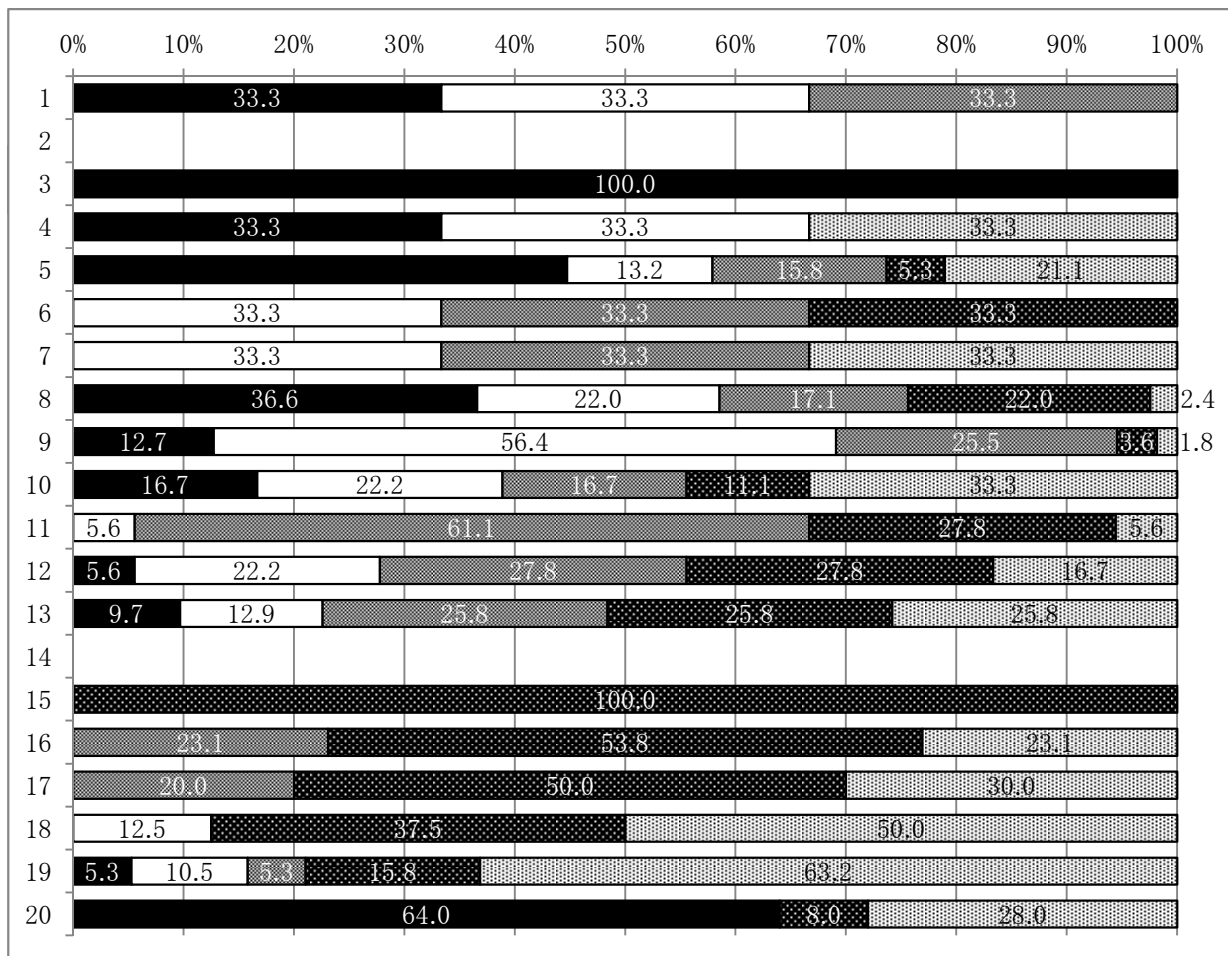
N=68

質問5

あなたの教室の児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	1	1	1	0	0	12
2: 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容	0	0	0	0	0	0
3: 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	1	0	0	0	0	5
4: 適切な遊び・余暇	1	1	0	0	1	10
5: 認知発達又は教科の力	17	5	6	2	8	135
6: 体力・運動能力	0	1	1	1	0	9
7: 作業能力	0	1	1	0	1	8
8: 返事や挨拶	15	9	7	9	1	151
9: 意思表出・会話	7	31	14	2	1	206
10: 情緒の安定	3	4	3	2	6	50
11: 活動への見通し	0	1	11	5	1	48
12: 状況の理解や変化への対応	1	4	5	5	3	49
13: 主体的な取組や意欲	3	4	8	8	8	79
14: 忍耐力	0	0	0	0	0	0
15: 他者への信頼感	0	0	0	2	0	4
16: 自己理解	0	0	6	14	6	52
17: 他者の意図や感情の読み取り	0	0	2	5	3	19
18: 礼儀やマナー	0	2	0	6	8	28
19: 集団参加に関するルールや協調性	1	2	1	3	12	34
20: その他	16	0	0	2	7	91



◆「意思表出、会話」、「返事や挨拶」、「認知発達または教科の力」を優先している教室が多くなっている。

6 自閉症のある児童生徒への優先度の高い指導内容

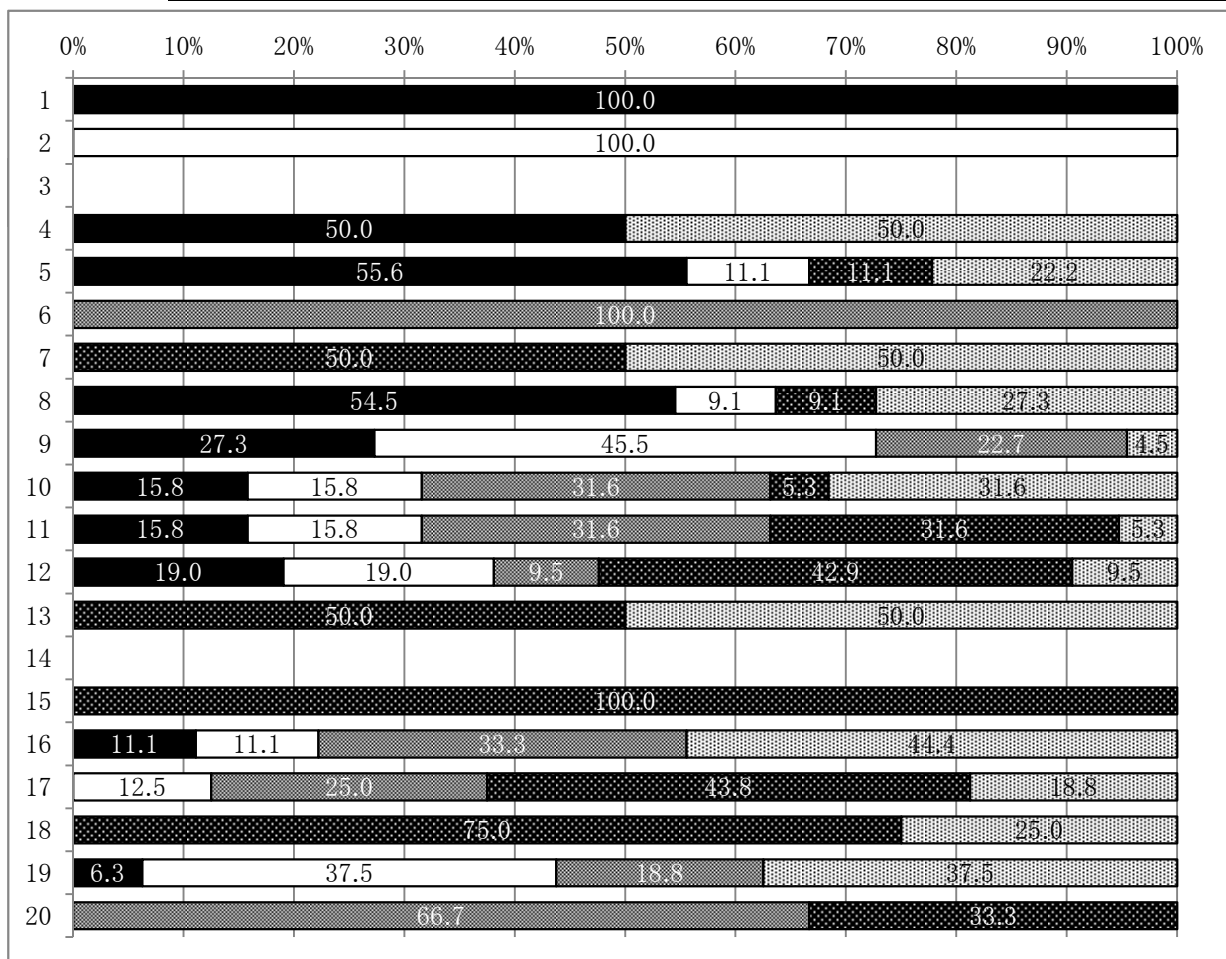
N=31

質問6

あなたの教室の自閉症のある児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

※優先度1を5点、優先度2を4点、優先度3を3点、優先度4を2点、優先度5を1点として評価点を算出

項目	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	評価点
1: 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	2	0	0	0	0	10
2: 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	0	1	0	0	0	4
3: 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	0	0	0	0	0	0
4: 適切な遊び・余暇	1	0	0	0	1	6
5: 認知発達又は教科の力	5	1	0	1	2	33
6: 体力・運動能力	0	0	1	0	0	3
7: 作業能力	0	0	0	1	1	3
8: 返事や挨拶	6	1	0	1	3	39
9: 意思表示・会話	6	10	5	0	1	86
10: 情緒の安定	3	3	6	1	6	53
11: 活動への見通し	3	3	6	6	1	58
12: 状況の理解や変化への対応	4	4	2	9	2	62
13: 主体的な取組や意欲	0	0	0	1	1	3
14: 忍耐力	0	0	0	0	0	0
15: 他者への信頼感	0	0	0	1	0	2
16: 自己理解	1	1	3	0	4	22
17: 他者の意図や感情の読み取り	0	2	4	7	3	37
18: 礼儀やマナー	0	0	0	3	1	7
19: 集団参加に関するルールや協調性	1	6	3	0	6	44
20: その他	0	0	2	1	0	8



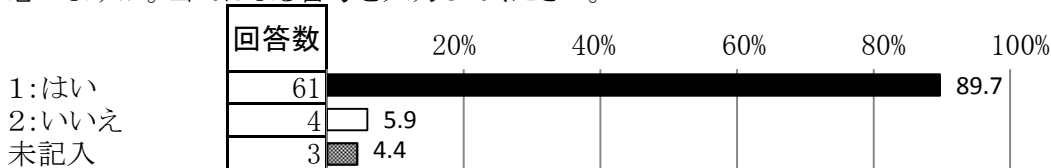
◆自閉症のある児童生徒への指導内容においては、「意思表示・会話」、「状況の理解や変化への対応」、「活動の見通し」、「情緒の安定」を優先している教室が多い。

7 自立活動の必要性

N=68

質問7

自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いますか。当てはまる番号を入力してください。



◆自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要と思っている担任が多い。

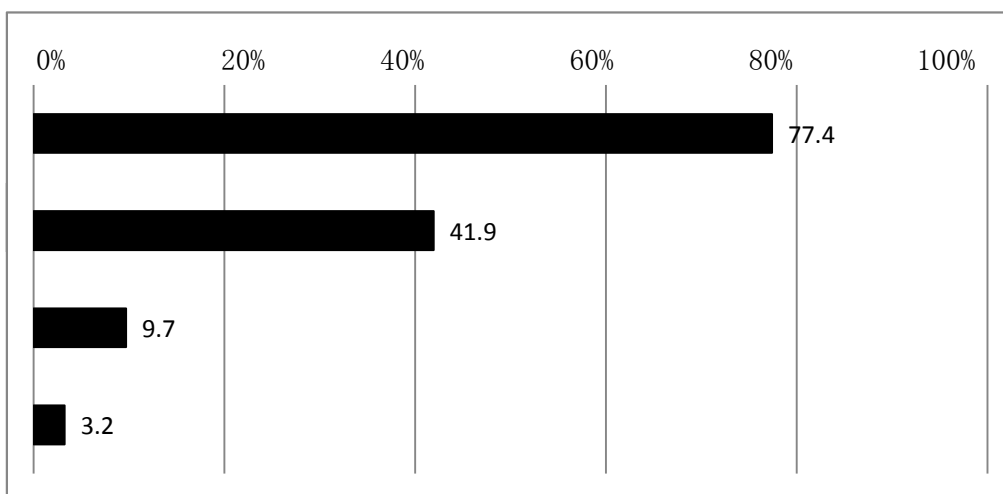
8 自立活動を取り入れている指導形態

N=31

質問8

あなたの教室では、自閉症のある児童生徒に対して、どのような指導形態において、自立活動を取り入れた指導・支援を行っていますか。(複数選択可)

項目	回答数
1：通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている	24
2：通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている。	13
3：在籍学級での学習や生活場面において、自立活動の内容を取り入れている	3
4：取り入っていない	1



◆「通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている」、「通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている。」が多くなっている。



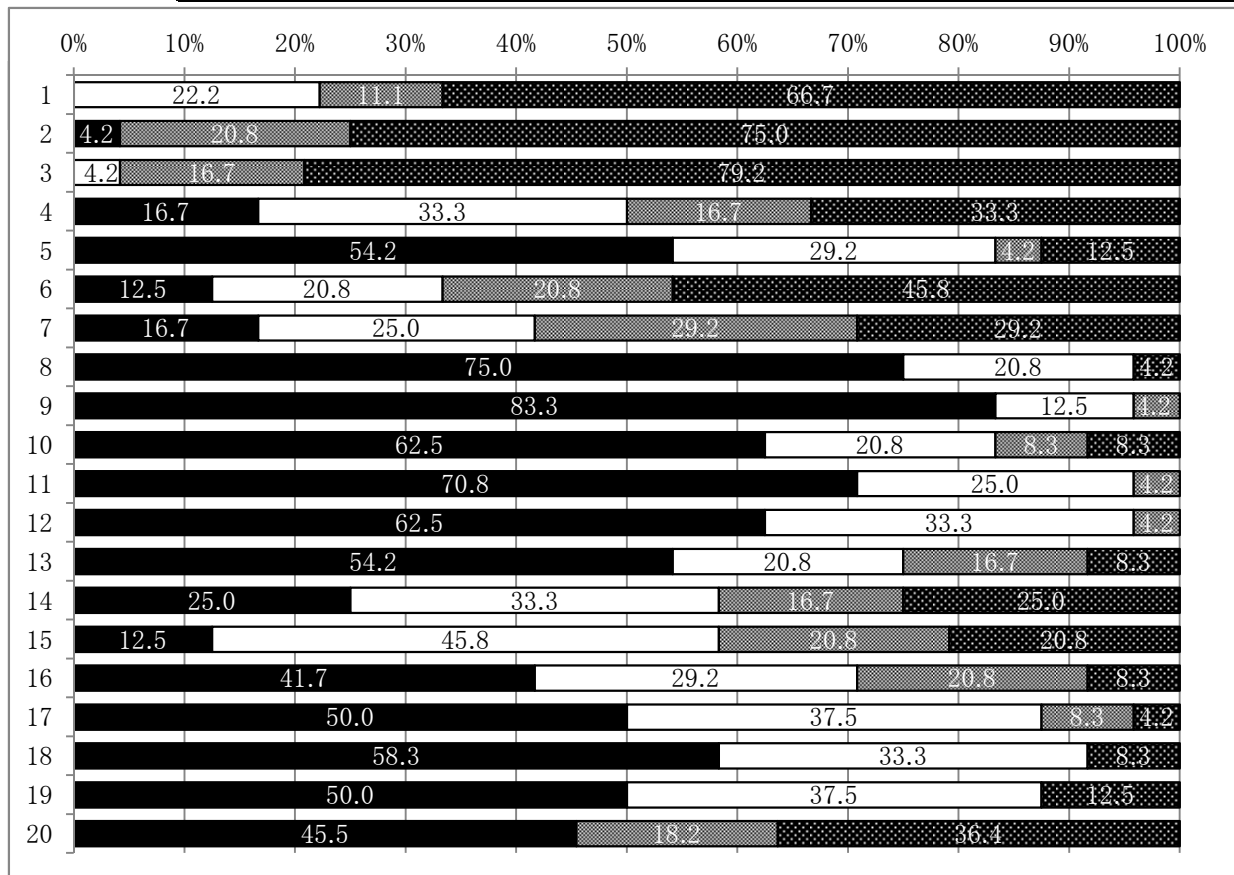
8-1 自立活動として取り入れている指導内容(自立活動)

N=24

質問8-1

質問8で「1 通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている」を選択した方へ取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえば取り入れている	どちらかといえば取り入っていない	取り入っていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	0	2	1	6
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	1	0	5	18
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	0	1	4	19
④ 適切な遊び・余暇	4	8	4	8
⑤ 認知発達又は教科の力	13	7	1	3
⑥ 体力・運動能力	3	5	5	11
⑦ 作業能力	4	6	7	7
⑧ 返事や挨拶	18	5	0	1
⑨ 意思表出・会話	20	3	1	0
⑩ 情緒の安定	15	5	2	2
⑪ 活動への見通し	17	6	1	0
⑫ 状況の理解や変化への対応	15	8	1	0
⑬ 主体的な取組や意欲	13	5	4	2
⑭ 忍耐力	6	8	4	6
⑮ 他者への信頼感	3	11	5	5
⑯ 自己理解	10	7	5	2
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	12	9	2	1
⑱ 礼儀やマナー	14	8	0	2
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	12	9	0	3
⑳ その他	5	0	2	4



◆「意志表出・会話」、「返事や挨拶」、「活動への見通し」に関する指導内容を多く取り入れている。

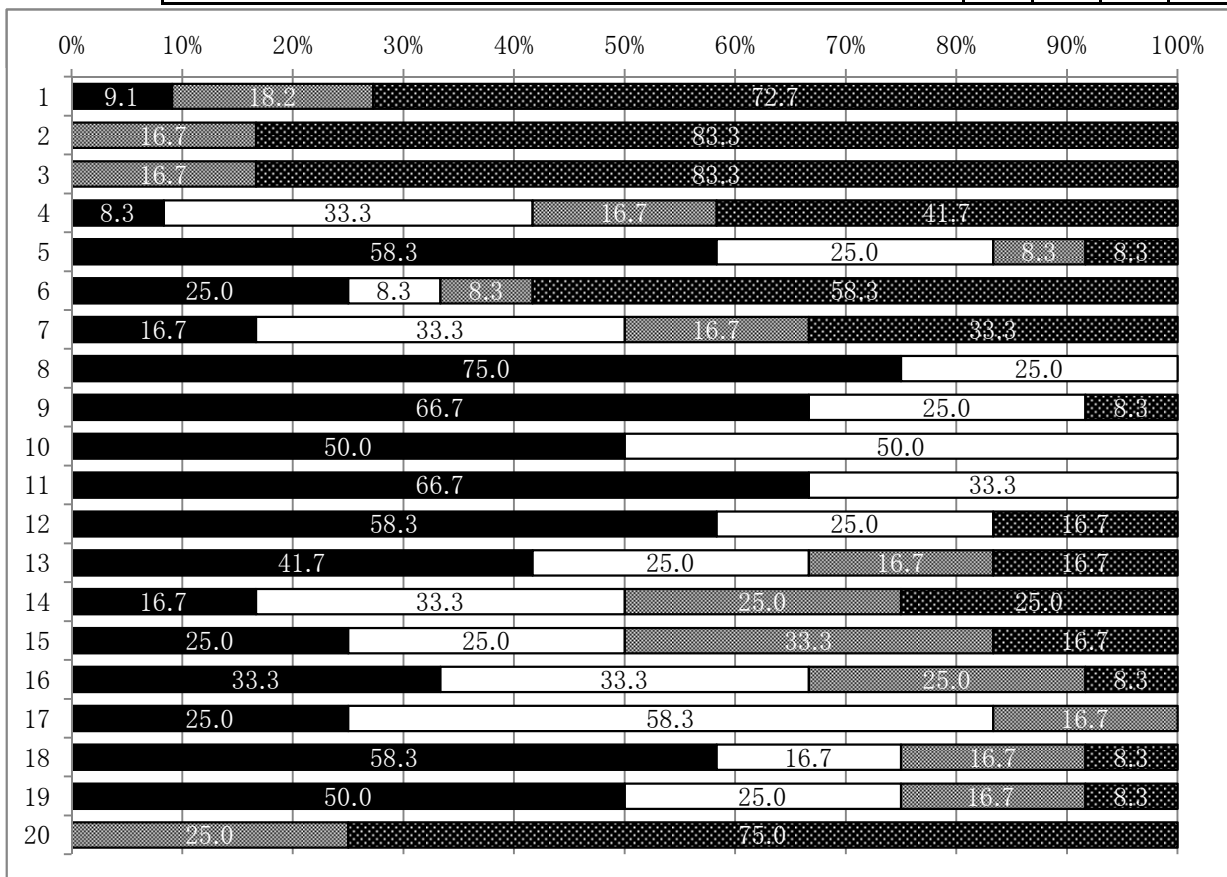
8-2 自立活動として取り入れている指導内容(各教科の補充)

N=13

質問8-2

質問8で「2 通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている。」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

項目	取り入れている	どちらかといえば取り入れている	どちらかといえば取り入っていない	取り入っていない
① 基本的生活習慣(着替えや食事等の身近自立に関する内容)	1	0	2	8
② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容	0	0	2	10
③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	0	0	2	10
④ 適切な遊び・余暇	1	4	2	5
⑤ 認知発達又は教科の力	7	3	1	1
⑥ 体力・運動能力	3	1	1	7
⑦ 作業能力	2	4	2	4
⑧ 返事や挨拶	9	3	0	0
⑨ 意思表示・会話	8	3	0	1
⑩ 情緒の安定	6	6	0	0
⑪ 活動への見通し	8	4	0	0
⑫ 状況の理解や変化への対応	7	3	0	2
⑬ 主体的な取組や意欲	5	3	2	2
⑭ 忍耐力	2	4	3	3
⑮ 他者への信頼感	3	3	4	2
⑯ 自己理解	4	4	3	1
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	3	7	2	0
⑱ 礼儀やマナー	7	2	2	1
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	6	3	2	1
⑳ その他	0	0	1	3



◆「返事や挨拶」、「意志表出・会話」、「活動への見通し」に関する指導内容を多く取り入れている。

8-3 自立活動として取り入れている指導内容(在籍学級での学習・生活)

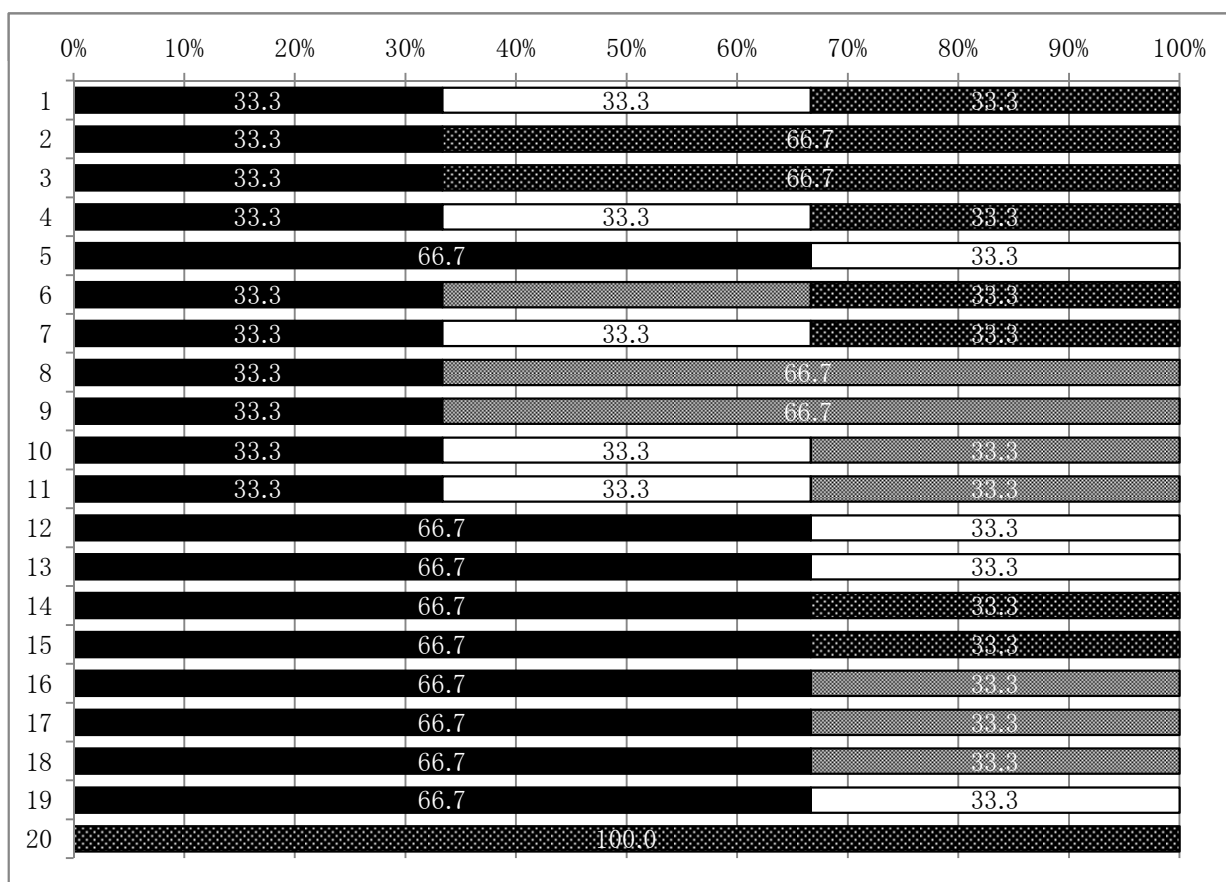
N=3

質問8-3

質問8で「3 在籍学級での学習や生活場面において、自立活動の内容を取り入れている」を選択した方へ

取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

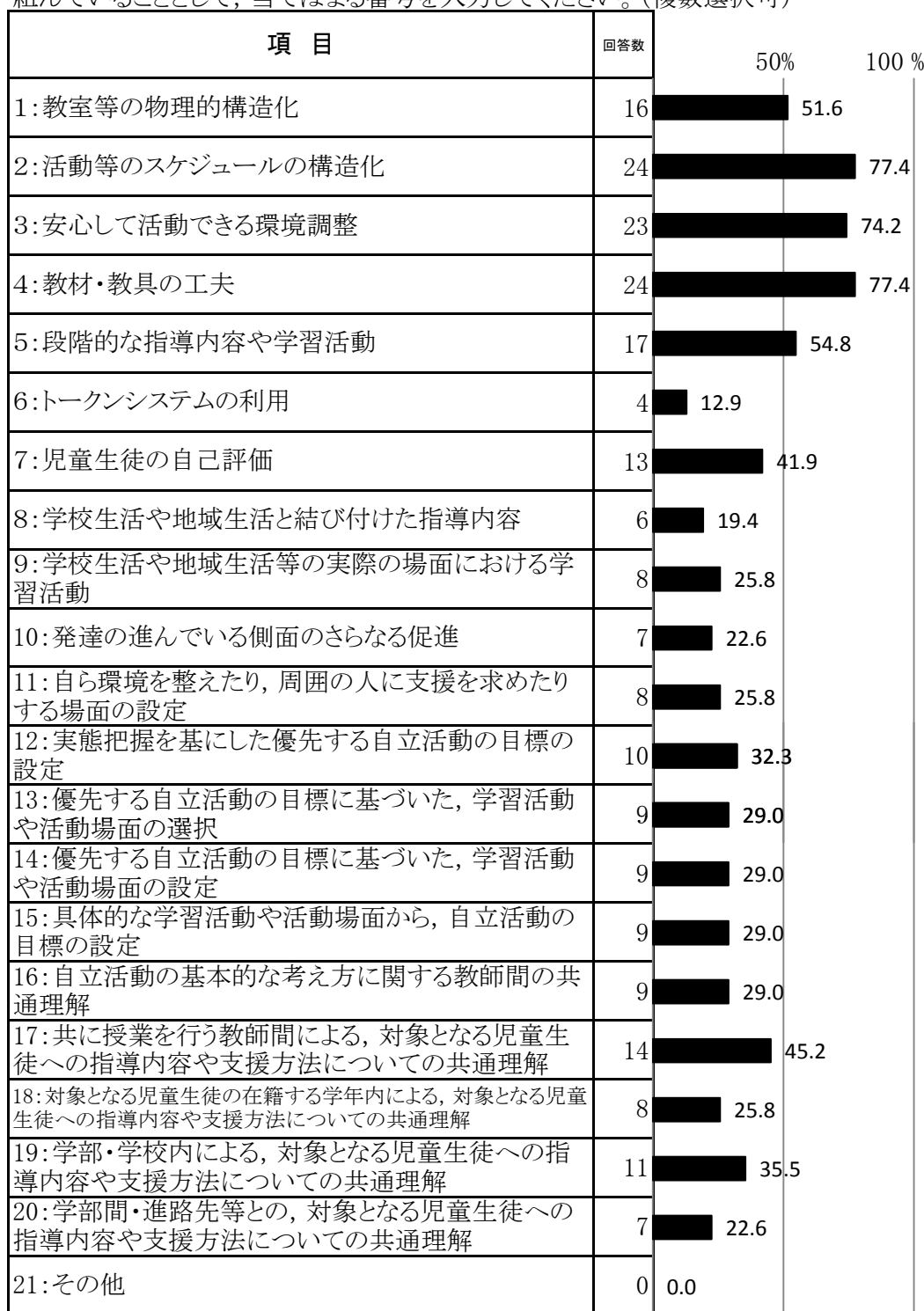
項目	取り入れている	どちらかといえ取り入れている	どちらかといえば取り入れている	取り入っていない
① 基本的な生活習慣(着替えや食事等の身辺自立に関する内容)	1	1	0	1
② 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容	1	0	0	2
③ 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容	1	0	0	2
④ 適切な遊び・余暇	1	1	0	1
⑤ 認知発達又は教科の力	2	1	0	0
⑥ 体力・運動能力	1	0	1	1
⑦ 作業能力	1	1	0	1
⑧ 返事や挨拶	1	0	2	0
⑨ 意思表示・会話	1	0	2	0
⑩ 情緒の安定	1	1	1	0
⑪ 活動への見通し	1	1	1	0
⑫ 状況の理解や変化への対応	2	1	0	0
⑬ 主体的な取組や意欲	2	1	0	0
⑭ 忍耐力	2	0	0	1
⑮ 他者への信頼感	2	0	0	1
⑯ 自己理解	2	0	1	0
⑰ 他者の意図や感情の読み取り	2	0	1	0
⑱ 礼儀やマナー	2	0	1	0
⑲ 集団参加に関するルールや協調性	2	1	0	0
⑳ その他	0	0	0	3



◆「認知発達または教科の力」、「状況の理解や変化への対応」、「主体的な取組や意欲」、「集団参加に関するルールや協調性」を取り入れている教室が多い。

9 自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた具体的な取組 N=31

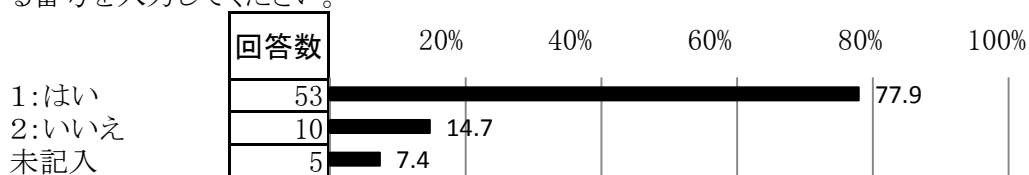
質問9 自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して、取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。(複数選択可)



◆「活動等のスケジュールの構造化」、「教材・教具の工夫」、「安心して活動できる環境調整」に多く取り組んでいる。

10 自立活動の個別の指導計画への位置付け N=68

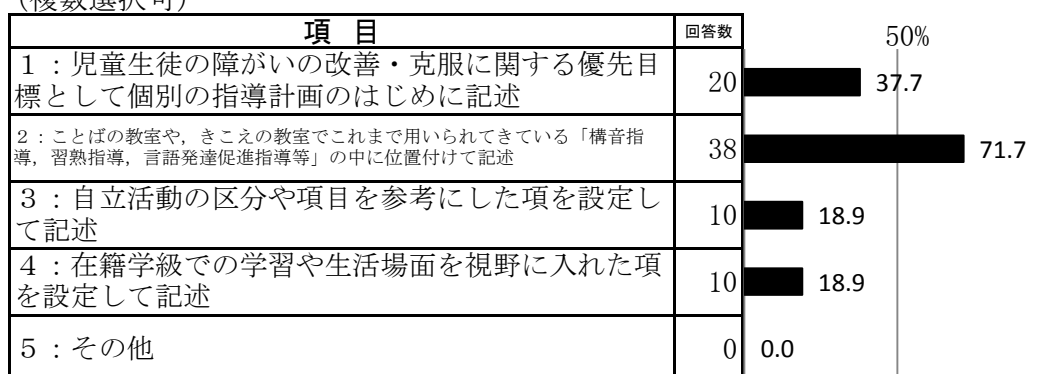
質問10 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付けていますか。当てはまる番号を入力してください。



◆位置付けている学級は約78%となっている。

10-1-① 自立活動の目標や指導内容等に関する個別の指導計画への位置付け N=53

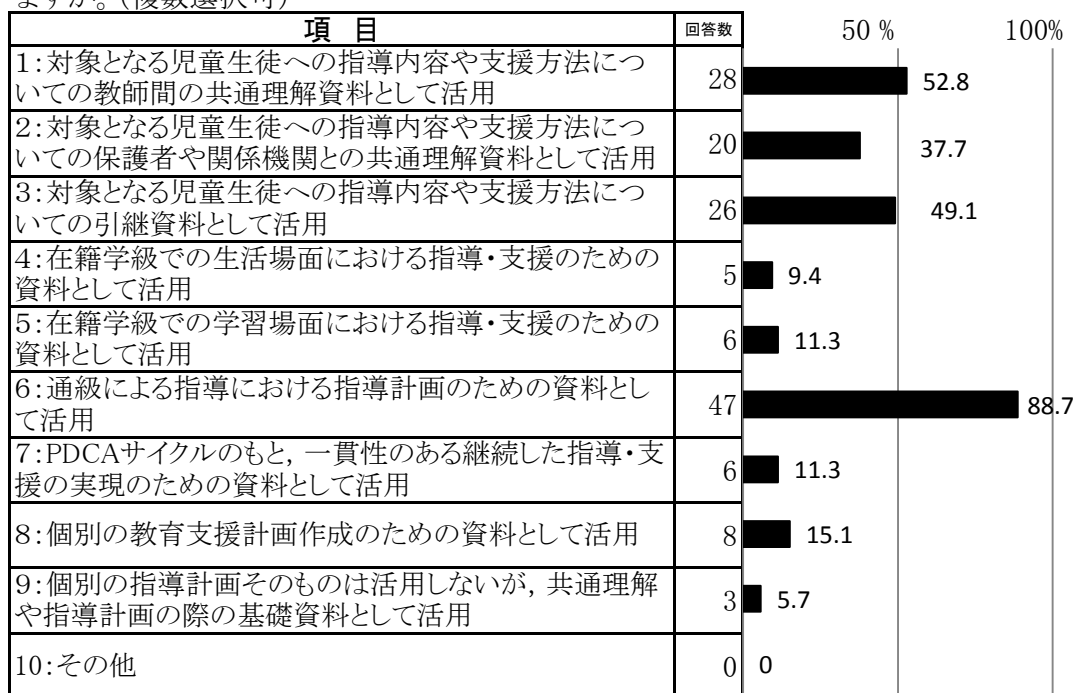
質問10-1-① 自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。  
(複数選択可)



◆「ことばの教室や、きこえの教室でこれまで用いられてきている『構音指導、習熟指導、言語発達促進指導等』の中に位置付けて記述」、「児童生徒の障がいの改善・克服に関する優先目標として個別の指導計画のはじめに記述」の回答数が多い。

10-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用状況 N=53

質問10-1-② 個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。(複数選択可)



◆「通級による指導における指導計画のための資料として活用」が一番多く、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の共通理解資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての保護者や関係機関との共通理解資料として活用」、「対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての引継資料として活用」をしている教室が多い。

# 【調 査 集 計】

自由記述

質問 自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や、就労の実現に向けて必要となることは、どのようなことが考えられるでしょうか。自由にお書きください。

【特別支援学校】

意志伝達の方法の確立，見通しをもつことができる環境の整備，刺激に対する耐性（その子の実態に応じて）。
将来の生活の自立に向けて様々な経験を積み重ねること，例えば失敗してもその失敗の中からルールや約束事を確認していくこと，自分で選択する場面や決める場面を設定すること。
情緒の安定，意思疎通の手段を確立すること。
情緒の安定を図る手だてとして，必要に応じてクールダウンする時間や場所を確保したり，個別に対応する時間を保障したりするための職員の人的配置の工夫。
「働く」という意識をどのようにもたせる，もしくは引き出させるのが重要。なかなかその意識を向上させることができず悩む。
あいさつや返事などの基本的なコミュニケーションの指導等。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの取り方（マークの統一など）</li> <li>・学習をスムーズに取り組むための補助具等の活用，環境整備（よけいなものを置かない，物の配置等）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに沿った生活がスムーズにできること</li> <li>・安全に日常生活が送れること（自傷・他害）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることがわかり，自ら進んで行動できるような手がかりを与えること</li> <li>・基本的生活習慣を身に付けること</li> <li>・特技を生かした係活動等の設定</li> <li>・認められている感覚を与えられるような場面設定を行うこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思疎通の手段の確立</li> <li>・活動に見通しのもてる生活環境</li> <li>・安全に日常生活が送れる環境（情緒の安定，自傷・他傷行為やとびだし行動等を防ぐ）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思表示の手段を身につけること</li> <li>・できるだけ早期からの社会性を身につけるためのトレーニング</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校，家庭，地域などにおける支援ツールの共有化</li> <li>・障がいへの理解</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や作業に集中できる力（15分程度と講演で聴きました）</li> <li>・過ごしやすい環境の整備（構造化，スケジュール提示など）</li> <li>・能力の高い生徒には，自己理解と自己肯定感の形成が必要だと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣</li> <li>・コミュニケーション手段の確立</li> </ul>
基本的生活習慣の確立（睡眠，食事，排泄等）は，やはり大事だと思う。また関連して，生活のリズムを整えることが，学習や活動の充実にもつながると考える。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心のあること，得意なことを見つける</li> <li>・コミュニケーション能力の獲得，拡大</li> <li>・意思表示能力の獲得，拡大</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の拡大</li> <li>・教育課程の見直しとそれに伴う施設設備の完備</li> <li>・就労先，実習先の拡大</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しある生活</li> <li>・生活環境</li> <li>・支援者の理解</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しがもてるスケジュールの提示を通して，情緒の安定を図ること。</li> <li>・混乱しない環境作り</li> <li>・自閉症理解の周りの配慮</li> <li>・研修会の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを持って活動出来るようカードやイラストを使用し，その手立てを次の学習の場へ引き継ぐ</li> <li>・苦手な物（こと）を出来るだけ減らし，好きな物（こと）を増やすため，学校でできるだけいろいろなことを経験させる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的なコミュニケーションの力</li> <li>・友達や大人とのかかわり（いろいろな人とかかわることを楽しむなど）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲に対して不快感や迷惑を与えない程度の最低限度のマナーと清潔意識は必要であると思う</li> <li>・返事，挨拶，報告は当然として，自分でいろんな事を選択する力や意思が必要だと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の環境</li> <li>・趣味の獲得</li> <li>・意思表示手段を獲得していること</li> </ul>
就労までに，様々な活動に挑戦し，たくさんの経験を積むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活でのルールや協調性</li> <li>・家庭や関係機関との連携</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定のために必要なことを見出す</li> <li>・他者との関わりにおいて、適切な折り合いの付け方を見出す</li> <li>・「もしも～になったら」「～の場面でどうしたらよいか」というような、突発的な出来事に対する対処法を教える</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定を図り、集団での活動に参加することができる</li> <li>・集団でのルール等を守ることができる</li> <li>・自分が困ったとき等に気持ちを伝えることができる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立の獲得（挨拶、返事、身辺自立等）</li> <li>・自己理解と他者理解（自他の関係）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのコミュニケーション・周囲の理解（啓蒙・就労に向けての環境の整備他）</li> </ul>
他者との関わり（コミュニケーション力）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の人や場所へのこだわりを軽減できるよう、自分で使いこなせるツールが欲しい</li> <li>・自閉症の特性を理解した上で、実態・支援の共通理解</li> <li>・関わり方の統一</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な経験の積み重ね</li> <li>・見通しをもった生活</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面での数多い実地的な経験の拡大 （実習を重ねる、公共交通機関・公共施設の利用、校外活動、金銭管理をする経験、実践的活動）</li> <li>・企業とのマッチング</li> </ul>
<ol style="list-style-type: none"> <li>①教師の指示理解（分かる方法の確立）</li> <li>②意思表示（発信方法の確立）</li> <li>③自己選択（活動の選択）</li> <li>④状況理解・変更の受け入れ（頼れる教材の確立）</li> <li>⑤自発的な次の活動への移行</li> <li>⑦基本的な生活習慣の確立</li> <li>⑧選べる余暇活動</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>①自閉症のある生徒でも、会社や社会のルールやマナーを守る事。情緒が不安定になった時に暴れたり、「こだわり」が社会のルールに反したりしていれば、就労が難しい。</li> <li>②挨拶や返事ができること。就労先の方に可愛がられる第一歩は挨拶、返事であるとする。</li> </ol>
<p>クラスに在籍している生徒は能力も高く、自分で生活を作ることができるが、生活が狭い生徒である。集団の中で周りを理解することで「なんでそんなことするんだろう」というストレスを軽減し、自分で生活を構築する選択肢の幅を増やしていくことで、自分が望む生活を作ることができると考えている。</p>
こだわりの軽減。
<p>コミュニケーションをとるのが難しい児童でも、小さい時期から挨拶や基本的な生活習慣は、個々の実態を考慮しながら、継続して支援していくことが大切だと思う。</p>
コミュニケーション能力の広がりや自発的な活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな経験の拡大と見通しを持って活動に取り組む力</li> <li>・構造化を図って主体的に取り組める力の育成とともに</li> </ul>
ジョブコーチによる受け入れる側の理解
挨拶や返事、関わり手の働きかけに応じることができる素直さ
安心して活動できる環境調整、活動等のスケジュールの構造化、教材教具の工夫、見通しの持てる支援の工夫
安心して暮らせる生活づくり、見通しが持てる支援、意思疎通ができること、働くことの意味・本人に取ってのメリット・動機付けの学習、余暇支援
学級の友達や就労先の施設の理解。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、就労先の信頼関係</li> <li>・さらに充実した法整備</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境の整備</li> <li>・全職員で協力した就労先（実習先）の確保</li> </ul>
<p>学校生活の充実：教職員間の共通理解やその児童生徒の実態も合わせ、可能な限り社会の基準に近づけて基本的な生活習慣を身につけること。職員同士の共通理解。</p>
<p>環境の整備も大切なことであるが、卒業後すべての場所で同じようにすることはできないと思うのでいろいろな環境でもできるように指導していかなければならないと思う。社会的に違反する行動は障がいがあっても同じだということを小さいうちから教えておく必要があると思う。</p>
<p>環境の変化により不安な行動を見せ、スムーズにいかなくなる生徒がいる。安定したときよりも、視覚支援、事前の日程や学習の確認、数十分前からの声かけなどが必要である。言語はなくても、話を聞き見る能力は伸び、様々なことを予測しているので、今後の行事を知らせながら、これは好きだしやろう、挑戦してみると自信つくよ、と誘うことが大事である。次にやることばかりを話すばかりではなく、昨日よりできたことをほめたり、今まで楽しんでがんばったことを確認し合ったりする。教師も一心同体だという気持ちで接する。時には逃げようとし、自分で追込むことがあるので、我慢する気持ちを持つように指導を要することもある。最初は拒否したとしても支援を受けながら挑戦できる子だと思っている。できたら、100倍にほめたい。年内は不安になることはあると思われるが、かなり集団に慣れ、先輩や同級生の声や誘いに従い行動できているので、楽しさも実感してきているのは確かである。保護者、家族が協力的なので、感謝している。進路先は、どんな場所でも、慣れるまでは、不安さを訴えると思われる。慣れるまで、拒否もみられるが、いずれ我慢して作業するという時も必要だと思われる。</p>

基本的生活習慣
基本的生活習慣，他者とかかわるために必要なこと全部，体力，時間やお金に関すること
基本的生活習慣の確立と，あいさつなどの基本的なコミュニケーションを図れることが必要となってくると思う。また，作業を時間いっぱい続ける力も必要だと思う。
基本的生活力をつけていくために，毎日の活動や経験を大切に，積み重ねて行く。
教師が，その児童生徒の得意なスキル（モデリング，手順をみる等）を伸ばす，または見つけていくこと。教えを受ける場面と自分の力だけで行動する場面を分けた指導をすることで，確実に日常生活や作業を行う力と自立して行動する力の双方向から育てていくこと。また，学校生活においても，就労先でも，人間と関わって生きていくことを念頭に置き，その児童生徒が自閉症があるということで，人とかかわりにおいてもカード等の支援グッズを使うこともあると想定されるが，あくまでも人との関わりの楽しさを感じてもらうことを大事にすること。
経験の積み重ね。社会的ルールを受け入れる折り合いの付け方。
・見通しのもてる学校生活（日課） ・達成感のある課題
見通しを持たせ，活動の初めと終わりや何をするかを分かるようにする。また，何らかの方法（カード，写真，言葉等）で自分の気持ちを相手に伝えることができるようになって欲しい。
見通しを自分で見通す力。他人から指摘された事を多少なりとも受け入れる力。
高等部段階では，就労に向けて得意な作業内容や興味のある内容についてたっぷりと取り組める時間を確保することも良いのではないかと思います。
今日のスケジュールや，今やることが明確に分かり，自分から活動に参加できることが学校生活の充実につながると思う。
困ったとき，いやなとき，疲れたときなど気持ちをそばにいる職員に伝えたり，助けを求めたりすることが必要になると思います。
子ども自身が活動しやすい環境を整えること。子どもが活動しやすい状況作りや支援について学校や保護者が連携をとって考え進めていくこと。
児童生徒が生活しやすい環境を整えること。
児童生徒理解をよくしてあげることが大切だと考える。自閉症の特性を理解した上で，その子の良さ，苦手さを捉えて，保護者や教員間で共通認識したい。一貫した支援とわかりやすさが必要だと考える。一貫した支援をしなければ，本人のつらさになってしまうと感じることがある。暮らしやすさ，生きやすさをベースにした支援をしていくことで学校生活の充実，実現に結びつけていけるのではと考える。
自分の気持ちを伝えられる力や，環境の変化に対応できる力を育てること。
自閉症のある生徒の実態は様々である。IQ70代後半の生徒もあり，障がいの有無に関係なく，社会生活に必要な常識的なこと（社会のマナー，ルール）を指導している。
社会で適応する力を身に付けること
受けもっている生徒の場合 ・情緒の安定 ・困ったときや分からないときなどに他者にそのことを伝えることができる力が必要と考えています。
受け入れる側の適切な支援。
周囲に動かされるのではなく，自ら気づいて動ける力。また，誰かが環境調整を行うのではなく，自ら環境調整できる力が必要だと考える。
就労の実現に向けては，実習を通して，自己理解，自分の課題を把握することが必要であると思われる。特に高機能自閉症の生徒には自分の特徴を理解して周りとうまくできるような方法を身につけるように場面を捉えて支援していきたい。
就労の実現に向けては小学部段階から，自分の身の回りのことや，あいさつ，コミュニケーション手段などを身につけていくように繰り返し支援する必要があると思う。また，中学部や高等部，進路の先生方とも情報交換をしながら共通理解して支援を行いたい。
就労の場の確保，いろいろな作業に対する経験と正しい取り組み方を伝えるスタッフの力量
集団参加に関するルールや協調性，社会的マナー，必要最低限のコミュニケーション
小学部低学年時からの丁寧な指導と，初期学習を考慮に入れた段階的な指導
情緒の安定を図り，見通しを持って生活できること。意思表示を言葉や身振りなどで伝えることができること。学習能力や作業能力の向上。
情緒面の安定と様々な状況での活動の経験
職員・職場の理解。見通しの持ちやすいスケジュール。
職員による ○自閉症の特性理解の研修 ○PEP-R・AAPEP検査の演習・実施 ○特性に応じた学習環境の見直しや，見通しの持ちやすい手だて，コミュニケーション手段の獲得と向上，家庭との連携
職員全員で児童生徒について共通理解をはかる。
職業観・勤労観を育てるために，小学部，中学部，高等部が連携して児童生徒の発達段階・障がい特性を考慮した目標・指導計画を構築する。
信頼関係の確立
身辺処理の自立。机上での学習や作業をする力。

生活に見通しを持って活動すること。社会のルールやマナー等を機械的にでも把握し、使うこと。特異な行動や考え方、対応の仕方を、周囲が理解すること。
生徒の実態によって異なるが、私の学級の場合は、適切な場面で状況や環境に応じて適切に意思などを表現すること。
生徒の実態把握や指導している事項等を、関係者間（学校、家庭、施設）での共通理解の元で進めていく必要がある。
生徒理解に努め、生徒に適した対応をすること。また、雇用者側の理解が必要だと思います。
物理的な環境を整える。
保護者との共通理解が必要不可欠だと考えます。学部間の就労に向けての連携、協力体勢が重視されると思います。児童生徒の身辺自立、健康の保持、余暇活動の充実など、将来を見据えた教育を行う必要であると考えられます。
本人ができるだけ自分の力で活動や生活ができるような、環境の整備や手立て。
問6で挙げた5点の課題＋作業能力をできるだけ学校生活の中で身につけること。

## 【小・中学校 特別支援学級】

ソーシャルスキルトレーニングの充実。
まわりの児童生徒や、対象児に関わるすべての人に対して、自閉症に対する正しい理解がされるように進めること。
挨拶ができる。与えられた仕事に最後まで取り組むことができる。適切な場面で「わかりません。」「できません。」「ごめんなさい。」と言える。
意思表示、余暇による情緒の安定、忍耐力、礼儀が特に大事になると思う。
一日のスケジュールがわかり、その一つ一つをがんばることが、褒められたりして、良いことにつながる意識をもつこと。
活動への見通し、力を発揮できる環境
現在受けている支援を、自ら環境を整えたり、周囲の人に自ら支援を求めたりする力につなげる。そのためには、自己理解と自ら取り組みやすい方法を共に検討していく支援が必要。
支援員の配置等、人的措置が必要である。
児童生徒を取り巻く人々の理解を得るための啓もう活動
時間を守ることやある程度の協調性は必要である。
自分のことをできるだけ理解し、他者にできるだけ自分のことを伝えることが必要ではないでしょうか。「何が分かって、何が分からないか。」「何ができて、何ができないか。」を自分から説明できれば理想ですが、少なくとも尋ねられたら「はい」「いいえ」「分からない」のいずれかは答えられるようにすることが大切だと思います。
自閉症においては学校生活の充実に向けて、生徒の特性に合わせて教職員で共通理解や指導を行うことができれば理想的だと思う。
社会全体の理解とサポート体制の確立、及び本人の努力。
周囲の理解と支援体制の確立と、得意な分野を伸ばしていき自信をつけていくこと。
集団の中でどう行動したらいいかを習得するだけでなく、人と本当に関わっていける力をつけることが必要である。
集団生活のルールや他人とのコミュニケーションの仕方を適切に指導し、本人が身につけるようになるのはもちろんだが、周囲の児童生徒や大人がその子のことを理解しあたたかく受け入れる環境が必要だと思う。
生徒の実態をどれだけ共通に理解できるかが第一だと思います。また、就職を進めるためには、企業の方に事前に生徒理解のための場の設定が必要と考えます。
<p>&lt;学校生活充実のために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定されている活動に見通しをもたせる（活動ができたらほめる）</li> <li>・緊張や不安を軽減する手段や本人なりのリラクゼーションの仕方を見つけ、実践させる</li> </ul> <p>&lt;就労の実現に向けて必要なこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回、特別支援学校の先生や就労支援機関の方から、就労の実態について、保護者と教師が話を聞く機会を設ける。その上で進路実現に向けた支援を、学校や家庭で考えていく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全体が、児童や保護者の立場となった共感、接し方</li> <li>・PTA 会員（地域）への研修会、講演会の毎年（隔年）開催</li> <li>○担当教員の研修機会の保障</li> <li>○教室環境の整備（予算の確保）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや返事など、社会生活を送って行く上で必要となるルールやマナーを身につけること</li> <li>・ある程度のコミュニケーション能力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルスキルの育成が必要だと考えられる</li> <li>・1つずつ指示を出すことで、明確に伝えていくことの必要性を感じる</li> </ul>
学級の児童への理解、学級（学年）を育てること
学校の様子についての保護者との共通理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童の特性を周囲に理解してもらうこと</li> <li>・児童自身が周囲と少しでも関わろうと思うこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の充実や職場見学、職場体験への参加</li> <li>・通常学級への可能な範囲での交流学习</li> <li>・先生方の理解（全職員）</li> <li>・ゆとりある人員確保</li> </ul>
児童の持てる力をのばすことはもちろん、集団の中で認められる場面があるとさらに次への意欲につながると思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間（時計）、日にち（カレンダー）の理解</li> <li>・コミュニケーション能力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を高め、満足する気持ちをもたせること</li> <li>・他者との関わりについて、どのようにすればよいのか方法[スキル]を身につけさせること</li> </ul>
自尊心をもつことができるようにすること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感情をコントロールすること</li> <li>・自分の価値観の中で重要視しない事柄との折り合いの付け方</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症のもつこだわり等の特徴を特化させない</li> <li>・可能な限り、コミュニケーション力や社会性を養う</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会性の育成</li> <li>・自己肯定感</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的なマナー等の基本的生活習慣の確立</li> <li>・各機関との共通理解の下、本人の適性を見取りながら連携していくこと</li> <li>・家庭に対し、早期に進路の見通しを持たせる啓蒙をしていくこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活に関するルールや協調性</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住みよい環境作り</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニングの充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住みよい環境作り</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニングの充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦のつながりや関係諸機関との連携</li> <li>・就労に必要な技能や態度を意識した指導</li> <li>・情緒の安定</li> <li>・コミュニケーション能力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定</li> <li>・挨拶、返事、報告などのコミュニケーション能力の育成</li> <li>・忍耐力、最後までやり遂げる力</li> <li>・基礎的な学力</li> <li>・進学、就労についての情報</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定</li> <li>・決められたことをコツコツやり抜く忍耐力</li> <li>・集団行動ができること</li> <li>・正確な作業能力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定を図る</li> <li>・基本的生活習慣の確率を図る</li> <li>・個別の指導計画を作成し、就労の実現を目指して指導していくための計画を立て適切な指導をしていく必要がある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の内定や気持ちのコントロールをどのようにさせるか、自分で出来るようにするにはどうしたらよいか分かること</li> <li>・人に不快感を与えないように礼儀作法を身につけさせる</li> <li>・学校全体で生徒に対する共通理解が必要</li> <li>・環境を整えたり、社会との積極的にふれあったりすることが必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係づくりにおいて大切なあいさつや礼が自分からできる</li> <li>・与えられた仕事に責任を持って取り組む力</li> <li>・作業を継続して行うこと。さらに長時間できる精神力や体力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面では、教室環境を整え、不必要な視覚に入るものは置かない</li> <li>・1日の予定等見通しを持った生活が出来るようにする</li> <li>・子どもができる喜びを味わえるようにできることを増やしていく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた指導の工夫</li> <li>・教師間や家庭との連携</li> <li>・外部支援機関などとの連携</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者への親しみ、挨拶・返事、自分のことは自分で</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の専門性、SCの教材・教具と時間・人員の確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の自己肯定感、心理的安定を図ること</li> <li>・家庭との連携を深めること（将来を見通す視点で）</li> <li>・職員間の共通理解と周辺児童が支え合う環境作り</li> </ul>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 周囲の人とのつながりをもつために自分の気持ちを表現する力や、相手の気持ちを読み取るためのコミュニケーション能力</li> <li>2 場面や状況の変化を認識して受け入れ、その状況に対応する能力を育てること。その都度、具体的にモデルを示すこと</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実態把握をし、方針や支援内容を計画する</li> <li>2. 学級ルール、めあてを本人と一緒に作り確認する</li> <li>3. 本人の進歩成長を確認し、視覚的に記録し、それを共に喜びながら進める</li> <li>4. 家庭に毎日の実態を連絡し、共通理解を進める</li> <li>5. 自尊感情が低い子が多いので、大きな声で叱らず、クールダウンをし、落ち着いて注意改善の声をかける</li> <li>6. 悪い行動様子を見て受け入れられる状態でないときは無視し、できたことよくなったことをほめていく</li> <li>7. 交流学級との温かなかわり</li> <li>8. 友達、先生方に認められる声をかけてもらう</li> <li>9. 自立できることに必要な学習をみきわめ学習する</li> <li>10. 本児の実態、進歩、課題、協力してほしいことを職員全体に連絡する</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>①挨拶や身だしなみ、食事のマナー等の基本的生活習慣の習得</li> <li>②他者との関わり方</li> <li>③自閉症に対する周囲の正しい理解</li> </ol>

A児は、乱暴な言葉を使わず、優しい言葉を使うことができるようになること。話しかけていい時といけない時を使い分けることができるようになること。得意な分野の力を伸ばすこと。B児は、予定の変更に対応できるようになること。さらに、自分の感情を言語表現できるようになること。得意な分野の力を伸ばすこと。
アスペルガー症候群についても、通常学級での生活で自己理解の機会をつくり、進路決定させたい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度集中して一つの作業に取り組むこと</li> <li>・情緒の安定を図り、ある程度の環境の変化に対応できること。簡単な意思表示ができること</li> </ul>
いろいろな人と触れ合いながらの体験的な活動を重視する必要がある。
コミュニケーション・場を考えての対応・状況の理解や変化への対応・自己理解・礼儀やマナー・集団参加に関するルールや協調性等々、周りとうまくやっていたいけるようなことすべてが必要と考えます。
コミュニケーション能力の向上を図るための指導を行う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション（要求を話す、自分の体験したことを伝える、会話をする）</li> <li>・活動スケジュールを使うことができる</li> <li>・余暇を充実しておく</li> </ul>
ソーシャルスキルトレーニング
ソーシャルスキルトレーニング
ソーシャルスキルなどの専門的な練習や指導、障がいについて周囲の理解
その子が得意分野とする内容を伸ばすこと
その子の持っている障がい(困難なところ)を教職員が共通理解するだけでなく、周りの児童・生徒に理解してもらうための学校としての取り組みが必要である。また、将来の方向性をどうするのか、その子の自立のためには何が必要であるかを保護者とよく話し合い、引継ぎ資料としても残しておくこと。
その児童が持つ障害の特徴や性格を十分理解し、関わる多くの人ともに情報を共有できるようにすることと考えます。また、就労に関しては受け皿を広く作っていくことが必要と思います。
できるだけさまざまな活動を経験できるようにすること。自分一人でもまとまった時間集中して活動ができる力を身につけること。
まわりの友達に理解を求め、自閉症のある児童生徒も友達の輪の中に入れていけるように支援すること。就労の実現に向けては、就労の大切さを理解させることと、作業などを続ける忍耐力を身につけさせること。
挨拶、返事、コミュニケーション
挨拶等、必要最低限のコミュニケーションができるようにすること。身の回りの衛生に気をつけること。
以前よりも理解が進んでいるとは思いますが、もっと社会全体が理解していかないと困難さを抱えることが多いだろうな・・・と関わっている生徒たちを見て思う。
意志の表出とルールや協調性
意志表出、会話、返事やあいさつ、礼儀やマナー、集団参加に関するルールや協調性
家庭環境の改善、周囲の理解と協力
学校生活では、児童の実態から興味のある題材を中心に取り組み、常に将来の自立を意識して指導支援することが必要と考えます。また、関係機関と保護者が連携していく手立てを在学中に学校が図ることも大切ではないでしょうか。
学校生活の時程にきちんと対応すること。また、学校生活の充実には支援員が必要。就労の実現のためには、作業活動を通して、クリアしなければならないことを身に付けていく必要がある。
学校生活の充実には支援員が必要。就労の実現のためには、作業活動を通して、クリアしなければならないことを身に付けていく必要がある。
学校側と就労施設の緊密な連携と情報交換が必要だと思う。生徒保護者は施設の情報が乏しく抵抗を感じている。職場体験が充実するとよい。
学校内で日常接している先生(大人)とは会話ができるが、初めて会う大人とは会話ができなくなる。2年生での職場体験でそのような場面があった。誰とでも会話ができる力が必要である。
活動を見守るための支援の手が多く必要に思う。
環境となる人々の理解と協力本人の意欲づけ
環境や事象の変化に対応していきことができるような支援や指導を根気強く行っていくことが、児童生徒の生活のステップアップにつながっていくと考える。
基本的なコミュニケーションの力とワークシステムの理解
基本的な学習も必要ではあるけれど、就労を考えたとき、学力よりもコミュニケーション能力や真面目に作業をする力が重視されると思うので、そのような力の育成をしていかななくてはならないと感じています。
基本的な生活習慣(時間感覚・整理整頓等)を身につけて活用できるようにし、学校生活に支障のないようにする。
基本的な生活習慣
基本的な生活習慣の形成と環境調整
気持ちをコントロールする力、集団の中でルールを守って行動する力、自分の気持ちを相手に適切に伝える力を育てたい。
教室が安心して過ごせる場所になるように、活動の見通しを持たせ情緒の安定を図ることが必要であると考えます。また、狭い範囲だけにとどまらず、誰とでも話せるよう、意思表示の仕方や相手の表情を読み取ること、話し方などが必要であると考えます。
教室の構造化やスケジュールの構造化を家族が理解して、家庭で実践できる支援が大事である。一度習得できた学習作業を忠実に再現できる特性を生かし、就労のイメージをもたせたスキルに生かせばよいと考える。
教室環境の整備、教師の共通理解、保護者との連携、外部機関との連携生徒のコミュニケーション能力の発達

教職員の共通理解, 個にあった指導計画の立案, 地域社会の理解
教職間共通理解, 家庭との連携, 専門機関との連携
苦手とすることに対して, その障害となっていることを取り除くことが大事であると考えます。計算機やPCなどを活用し, 「これならできるかもしれない」という見通しを持って活動することで生徒の自己肯定感を高めることが, 今後の活動に意欲を持って取り組むことにつながると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもたせること</li> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> </ul>
個々のスケジュールを作成し, 毎日の活動の内容を知り, 見通しを持って活動に取り組むことができること。また, 活動が終わった後, 楽しい活動や余暇活動を過ごすことができる見通しを持ち, 意欲的に活動に取り組むことができること。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性の伸長</li> <li>・自信をもたせること</li> <li>・保護者との連携</li> </ul>
交流学习を効果的に取り入れると同時に児童個々の障がい特性に応じた指導を行うことだと思う。そのためにはやはり, 指導者が研修を積み専門性を高めることが必要だと思う。
校内における指導・支援の共通理解。生涯にわたって支え, 相談できる場の充実。
高機能自閉症の子は, 知能によって, 高等支援学校ではなく, 普通高校へ進学しなければならないが, そのような子にも, 就労への訓練を行う場があればよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今と同じように暖かい目で見守る</li> <li>・自立できるように, きめ細かな指導</li> </ul>
今は交流学級生徒の理解があるので, お互いに生活ができています。保護者の理解と覚悟ということで, 本人ではなく親が, 自分が死んだ後, どのような生活をさせたいかをしっかり考えて進路も考えてほしい。
作業をする上で困った時に, 周りに方法を聞くなど対処の仕方を身につけることが必要だと思います。
指導者の自閉症に対する正しい理解
私の学級の生徒には, 就労の機会を多く設け, 自分らしさが発揮できる環境の職業を選択できるよう支援したいと考えています。また, 障がいへの理解のあるところであってほしいとも思います。
児童の得意なこと, 興味・関心のある分野で作業学習を考えること。作業所や施設の方に外部講師をお願いし, 指導助言いただくこと。
児童の得意分野を生かせる教育課程の工夫
児童生徒が自己肯定感を持ち, 生き生きと活動できる場の設定。
児童生徒とかがかわる人たちの, 自閉症への理解。また, その児童生徒への適切なかわり方を知ること。児童生徒の社会性の伸長を図ること。
児童生徒の性格を理解し, 得意な分野を認め励ましていくこと。
自己理解と情緒の安定
自分の気持ちを少しでもコントロールできる方法を身に付けるためのケーススタディーを多く取り入れる。
自分の気持ちを相手に伝えたり, 相手の話を聞いて簡単に受け答えしたり, 人とかがかわる力を身につけること。
自分の考えや気持ちを人に伝える。自分から人に話しかけるなど関わろうとする。
自閉症といっても個々に得意なことや苦手な事が違うので, 本人は難しいとして, 保護者, 先生など支援者がその特徴をよく理解して, 得意な分野を活かせるような仕事を見つけていくことだと思います。働くことの楽しさをみいだせるといいと思います。
自閉症に対する理解, 専門の担当者。
自閉症のある児童への支援や指導だけでなく学級や学校のルールや仕組みを, 自閉症のある児童もない児童も一緒に生活できる形にすることが必要。現在の児童たちが大人になったとき, 自閉症のある人と共に暮らすためには, 今から慣れることが必要。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症のある生徒に対する教職員の共通理解を図り, 個別の指導計画が達成できるようにする</li> <li>・就労に向けての情報収集ができるようなネットワークを構築する</li> </ul>
自閉症の児童の特性を周囲に理解してもらうこと。
自閉症児の周辺の理解が大切である。
周りの人達の理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲との共通理解を深めること</li> <li>・保護者との連携と信頼感を深めること</li> </ul>
周囲の自閉症に対する認識, 自閉症児への理解。自閉症児の気持ちを代弁できる人の存在。
周囲の者, 特に教師集団の自閉症に対する理解が必要である。理解があると児童に対する対応も適切に行うことができる。できれば, 周囲の児童にも理解のための指導があるとよい。
周囲の人との協調性や, 社会で生活するために必要な知識やマナーの獲得。
周囲の人々が自閉症や自閉症児の対応の仕方を理解すること。自閉症児自身が, 自分を知り, 対処の仕方を理解すること。
就労できる場所が居住地の中に増えるとよい。
就労に向けての作業訓練や, 集団との適応のための学びの場。
就労の可能性の提示。自己理解のための援助。就労への動機付け。
集団行動がとれることや, 協調性を身につけること。

<p>集団参加に関するルールの順守や、協調性を高めるための日常的な取り組みや指導を工夫しながら継続する。自分の意思を適切に表示し伝えることの訓練。コミュニケーションの取り方の訓練。</p>
<p>集団参加に関するルールや協調性を高めるための工夫をする。</p>
<p>将来どのような就労手段が確保されている（どこのどんな職種につけるのか）のかが示され、その職業の就労に向かって目標を持って家庭や子供が早い時期（小学校入学時）から取り組める環境がほしい。</p>
<p>小学生から、保護者に児童の実態を伝え、将来の見通しの共通理解を図ること。また挨拶や様々な人々とのコミュニケーションに欠かせない力の意図的な育成。特に善悪の判断の指導や、感情を伝え交流し合える日常生活の指導。「できないので、お願いします。」など生きていく上で児童が大切だと思う言葉を教える。また、児童の特性や長所を見つけ伸ばしていく指導。</p>
<p>情緒学級を受け持つのが初めてで、個別の指導計画の立て方すらわからない状態で今年度が始まってしまいました。記述としては示せずにいますが、生徒の様子や就学については、職員会議などの場で、全職員に報告をし、共通理解をしていますし、複数の先生方が教科を通じて関わっていただいているので、毎日の報告も知らず知らずのうちにできていると思っています。ただ、専門の知識が薄いので、支援学校とのコーディネートや学習の場は必要かと思います。本校の一人の生徒は、外部の機関を含めたチーム体制ができていましたので、何かあれば、すぐに話し合いを持ち、解決を探りながら進めてきました。よって、とても難しいことだとは思いますが、一人の担任だけではなく、学校の枠を外れたチーム体制を一人一人の生徒にもてたなら、今後にもつながるのだと感じています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の共通理解</li> <li>・学校家庭の連携</li> <li>・情報の収集</li> <li>・自閉症の或る子の特性に理解</li> </ul>
<p>身辺自立（排泄）と他害をなくすこと。</p>
<p>人とかかわり</p>
<p>早目に進路の見通しを持たせ、忍耐力が求められると考える。</p>
<p>他者からの対象児童の障がいへの理解をどう図っていくか。</p>
<p>他者との関わりがうまくできるようになること</p>
<p>対人関係の成立、コミュニケーション能力</p>
<p>地域での受け入れ先の確保。</p>
<p>中学生の時期は、青年への移行期ですから、座学による知識の詰め込みに終始することなく、むしろ、活動を通して、実際に生活できる力、働ける力にアプローチする経験が必要と思われます。実際の活動で、成功経験が増え、自己有用感が高まると、人との関わりかたや、スケジュールの変更がどうのこうのといった、特有の困難さにも、ピリピリしなくなってくる生徒もいます。社会の中で働いて生活できる将来のためにも、この時期に、実際の生活の中での経験を増やすことが大切と思われます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意なことを評価し、自信をもたせる</li> <li>・多くの作業を体験させる</li> <li>・集中する時間を少しずつ増やしていく</li> </ul>
<p>必要なことについて、周囲の人々とコミュニケーションができること</p>
<p>問題行動と位置づけると指導の対象となってしまうが、個性と考えるといろいろな可能性がでてくる。指導側の多角的な視点が必要である。</p>
<p>友だちや教職員とのコミュニケーションの取り方が重要な指導内容と考える。それを重点的に扱い、就労において、職場の中での人間関係を良好にするような支援が必要だと考えられる。また、発達段階に応じて、スケジュールや仕事のノルマ、挨拶や会話の仕方などのスキルの指導も重要である。</p>
<p>様々な体験を通して生活経験を増やすこと。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親や本人の希望</li> <li>・情報収集</li> <li>・適切な指導法</li> </ul>
<p>良好な対人関係の構築</p>



【小・中学校 通級指導教室】

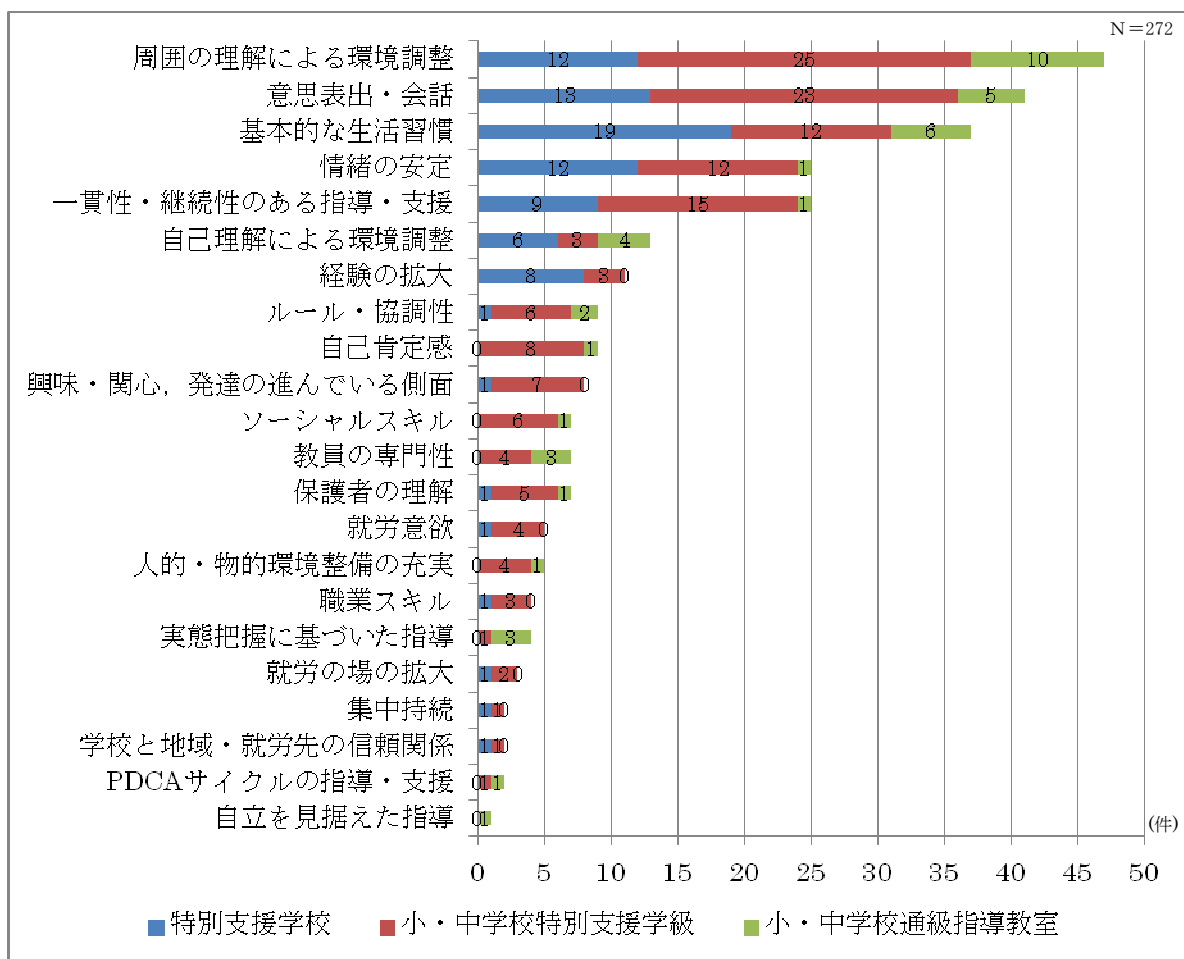
<p>児童自身が基本的な生活習慣や生活に必要な様々な技術を身につけ、ソーシャルスキルを磨くことができるような周囲の支援。通級や支援員がつくなどのシステムだけでなく、周囲の児童生徒がその子を理解して共生していけるような教育。就労については、企業の理解と周囲の社員教育。</p>
<p>自閉症について理解し受け入れられる環境が必要。特に、高校受験や高校生活で自閉症のある生徒も自己理解しつつ達成感のある生活を送るために相談や支援を受けられる場が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態や認知特性を正確に把握すること</li> <li>・支援内容や方法の吟味</li> <li>・校内での共通理解</li> <li>・周囲の児童へ理解を促すこと</li> <li>・関係機関との連携</li> <li>・社会性スキルの習得 等</li> </ul>
<p>いかに社会で自立できるかを考えた指導・支援が必要である。そのために、地域と協力した指導計画が重要と考える。・個に応じたキャリア教育の充実を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活での集団行動に対して、見通しをもたせながら指導・支援を行っていく必要があると考える。</li> <li>・就労も含めた長期的な見通しをもてるような支援の在り方が必要であると考えられる。</li> </ul>
<p>個別の支援に必要な場所、支援者が複数必要。学校の中での一斉指導では対応しきれない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造化された生活環境</li> <li>・家庭や学校、地域との温かい人間関係</li> <li>・興味や楽しみを持ち、自分で選択できること</li> <li>・担当する教諭や施設職員が変わっても今までの支援の方法を引き継いでいくこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感の育成</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の障がいについて理解していくこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握をできるだけ詳しく行い、到達目標を設定して支援を進める</li> <li>・保護者や医療、福祉等の関係機関との連携を図り、話し合える関係を作っておく</li> <li>・地域に、どのような受け入れ先があるかを知っておくこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの児童の理解</li> <li>・社会的認知力の向上</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の子どもたち、先生方、地域の方々の「自閉症」への理解</li> <li>・子どもたちの特性を生かした活動計画</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定</li> <li>・整理された環境</li> <li>・意欲的に取り組める課題の設定</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・自閉症をもつ児童一人一人の正しい理解と支援</li> <li>・共通理解及び連携</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立がほぼ年齢相応で自立してできる</li> <li>・他の人の話を聞いてわかり、自分の考えを伝える事ができる</li> <li>・ワーキングメモリーを生かして最後まで作業を続ける事ができる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な目標や見通し</li> <li>・情報の提供 等</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の児童に対する障がい受容</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期からの適切な支援</li> <li>・周囲の人々の自閉症の特性への理解</li> <li>・学習や作業に一定時間取り組むことができる気力と体力</li> </ul>
<p>①活動等のスケジュールの構造化 ②段階的な指導内容や学習活動</p>
<p>アスペルガーの児童については、集団参加に関するルールや協調性、他者の意図や感情の読み取りについて、場面一つ一つ取りあげて指導する必要性を感じています。成人アスペルガーと思われる方の言動を見ていると、児童期における指導の重要性を強く感じます。</p> <p>就労した場合、本人評価と他者評価のずれが大きく、職場での人間関係のこじれにつながる事が予測されます。</p>
<p>ジョブコーチの活用</p>
<p>その子供にあったルールを作ること。周りの人がそのルールをきちんと理解して、お互いにルールを大切に守ること。</p>
<p>まずは、自己理解が必要である。自分の得意・不得意を知り、その上で得意な面を生かしたキャリア教育をする。目標となる人や、憧れの職種があると、イメージしやすい。</p>
<p>挨拶をすること。みんなの中の一員としての役割を持ち、その活動をすること。周りに合わせて我慢したり、一緒に行動したりすること。</p>
<p>基本的な生活習慣を身につけ、集団の中で協調性を持ち活動できる力をつけることが必要だと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での居心地のよい居場所づくり</li> </ul>

・個々の状況に合わせた自立活動を展開させ、児童一人一人の課題を解決し、能力を高めること
在籍学級での学級経営（人と違うことを認めることができる人間関係作り）
児童生徒それぞれの特徴をわかり、個人に合った支援を計画したり、工夫したりするなどできる人が周りにいること。そして、周りの人もその特徴を理解して接することができるような環境がないと厳しいと思う。
児童生徒の生活圏内におけるできる限りの共通理解と、環境づくり
自閉症についての理解を深めること。どのような関わり方をすると本人が納得して行動できるか組織全体で検討し実施していくこと。就労に必要な集団や他者との関わり方を早い時期から意識させつつ指導に当たること。
自閉症のある児童についての理解と、その子の能力と、それを最大限生かせることは何かという、適切な見取り
周囲が本人の障がい特性を理解し、必要な配慮を行うこと。本人の障がい理解。
集団生活におけるルールやマナーを知り、理解して、使っていくことができるようにすること。自己肯定感をもちながら、他の人とおりあいをつけて楽しく生活できるようにしていくスキルをもつこと。
場の状況を把握する力、周りの人の気持ちを知る力が必要になると思う。
生活力を高め、社会の一員として生活できるように、その子が住む地域の人たちの理解と協力が小さい時から必要
他の人とのコミュニケーションの取り方やソーシャルスキルの指導。自分の長所や短所など、自分の障がいについて理解すること。また、その子の周りの児童や大人の共通理解を図り、支援の仕方を知らせていくこと。
他者との関わりを円滑にできるよう、コミュニケーションのスキル
他者の意図や感情の読み取り（コミュニケーション能力）と周囲の理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性に合わせ学習環境を選ぶことができること</li> <li>・少人数での安心した学習環境</li> <li>・感情がある程度コントロールできること</li> <li>・身の回りのことが自分でできること</li> <li>・自立に必要な訓練を行うこと</li> <li>・生涯を通じて相談できる人・場</li> </ul>
特別支援学級在籍の児童は、細やかな指導が期待できるが、通常学級在籍の児童は、通級指導や学級での指導となり、児童のニーズに応じた支援となりにくい。特に、休み時間の過ごし方への支援が難しいと感じる。
返事や挨拶、意思表示、会話、礼儀やマナー、コミュニケーション能力等を身につけさせるための指導。

【表】学校生活の充実や就労の実現に向けて必要となること（カテゴリー分類）

	特別支援学校	小・中学校 特別支援学級	小・中学校 通級指導教室	合計
周囲の理解による環境調整	15	23	7	45
意思表示・会話	13	23	5	41
基本的な生活習慣	19	12	6	37
情緒の安定	12	12	1	25
一貫性・継続性のある指導・支援	9	15	1	25
自己理解による環境調整	6	3	4	13
経験の拡大	8	3	0	11
ルール・協調性	1	6	2	9
自己肯定感	0	8	1	9
興味・関心、発達の進んでいる側面	1	7	0	8
ソーシャルスキル	0	6	1	7
教員の専門性	0	4	3	7
保護者の理解	1	5	1	7
就労意欲	1	4	0	5
人的・物的環境整備の充実	0	4	1	5
職業スキル	1	3	0	4
実態把握に基づいた指導	0	1	3	4
就労の場の拡大	1	2	0	3
集中持続	1	1	0	2
学校と地域・就労先の信頼関係	1	1	0	2
PDCA サイクルの指導・支援	0	1	1	2
自立を見据えた指導	0	0	1	1

※網掛け枠は、教師側の取組に関する内容



【図】学校生活の充実や就労の実現に向けて必要となること（カテゴリー分類）

【分析と考察】

「周囲の理解による環境調整」の回答数が最も多かった。これは、教師側の取組に関する内容である。次いで「一貫性・継続性のある指導・支援」の回答数が多い。

児童生徒に必要な内容については、「意思表示・会話」の回答数が最も多かった。次いで「基本的な生活習慣」、「情緒の安定」の回答数が多い。

これらのことから、意思表示・会話や基本的な生活習慣、情緒の安定への指導について、自閉症のある児童生徒の理解をもとにした環境調整と、指導・支援に当たる教師や学部間の共通理解をもとにしながら進めていくことが必要であると考えているものと思われる。

また、特別支援学校においては「基本的な生活習慣」の回答数が最も多く、特別支援学校に在籍している児童生徒の基本的な生活習慣の実態が反映されているものと思われる。小・中学校特別支援学級においては、特別支援学校とほぼ同様の結果となっているものの、「自己肯定感」の回答数が比較的多い。これは、小・中学校特別支援学級に在籍している児童生徒が、何らかの要因により自己肯定感が低下しがちであったり、低下した後在籍することになったりすることが要因であるものと思われる。小・中学校通級指導教室においては、「自己理解による環境調整」の回答数が比較的多い。これは、通級による指導の対象となる児童生徒の主な学習の場が通常の学級であり、多くの場合、通級指導教室の担当者の支援が少ない中で学校生活を送ることが多いことが要因になっているものと思われる。

質問 自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや、解決すべき点について、自由にお書きください。

【特別支援学校】

自立して生活できるよう、繰り返しの指導や実態の理解や支援を工夫していかなければならない。
今もっている能力を将来の生活に生かすにはどうすればよいのか、今できていることでどのような社会参加が可能なのかといった考え方で指導・支援を充実させていきたいと考えます。できない部分をできるようにすることも必要だとは思いますが、その場合でもチャンスを与えて「必ずできるようになる」と信じて支援していくことが必要ではないかと考えます。
色々あるが・・・。 一例として特定の物音や声をひどく嫌がる生徒がおり、パニック状態に陥ることがある。人間関係を含めた周囲の環境と折り合いをつけながら、できるだけ集団の中で仲間と一緒に過ごせる時間を増やしていきたい。
生徒の実態に合った環境の整備（学級編成、教室配置、人的配置）
適切な指導内容・方法、工夫された教材、構造化された学習環境、多層的な支援体制などいろいろあるが、担任が「〇〇をやりたい!」と感じた時に〇〇に取り組むことができる環境が必要である。学校によっては、職員の配置、人間関係によって担任の意志が指導に反映されないところもあるだろう。
こだわりの強い児童生徒の、こだわりを授業や生活の中でどのように和らげ活かしていくか指導の充実を図りたい。
コミュニケーション能力向上のための指導を行う。自発的には難しいので、絵カード等を用いた方法を行っていく。
コミュニケーション方法
ただでさえ教室数が足りない状態なのでカムダウンするためのスペースも確保できないのが現状。それがあればもう少し落ち着くまでの時間が短くなるように思うことが多い。場所の確保を。
・家庭・舎・学園および進路先との連携 ・支援方法の共通理解
学校でしかできない、やらないというのではなく、家庭と連携をとりながら、家庭でも学校でもできることを増やしていきたい。
・環境の変化への対応
・混乱しないスケジュール提示・構造化 ・自立活動の充実 ・コミュニケーション力 ・表現力の向上
指導者間の支援方法の共通理解
自主的に行動できるような活動内容や配置を吟味しつつも、家庭生活や地域生活とあまりにかけ離れた環境設定にならないようにすること。
専門性の向上
専門性の向上 ・専門性の向上 ・教材教具の作成と工夫
即時評価のやり方など、シール評価や〇付け以外のバリエーションを考えていきたい。やがては活動そのものが本人の意欲になるような評価のあり方を考えたい。
・他者との適切な関わり方（特に異性との関わり方）や意思表示の方法を、模範を見せながら指導していきたい ・生徒が見通しを持って活動できる授業作りをしていきたい
・発語能力等に関する知識 ・対象児に対する職員の意識対応統一
・保護者との連携 ・保護者が障がいを理解するための支援
・目の前の問題行動にのみ目を向けるのではなく、根本の原因となっていることをさぐり指導・支援を考えていく。 ・自閉症の物の見方、物事のとらえ方について理解し、支援を押しつけるのではなく、一人一人を尊重していく姿勢をもっていくこと。
①自発的に行動するための支援について ②食事の際、「囁む」ことをどのように指導すべきか ③PECS等のカードを使いながらも、人と直接関わる指導の在り方（自分は、人と人との関わりを大切にしたいので）
コミュニケーションをうまく取れるように、その子の趣味や特技を通じてクラスメイトと関わりをとらせることを意識してはいる。
とりあえず前沢明峰を適正人数にしてほしいです。
より具体的なスケジュールを立てて、視覚支援で示していきたい。また、前担任からの引き継ぎや家庭との連携も大切なことだと感じている。
わかりやすい指示や活動内容の工夫。
安心して活動できる環境調整、活動等のスケジュールの構造化、教材教具の工夫、見通しの持てる支援の工夫
一貫した支援、わかりやすさを重視した支援を行っていきたい。

一人一人に応じたコミュニケーション方法を見出していくこと（見直す）が課題です。音声言語での発信がある児童に対し、言葉の理解度、表現方法としての活用段階を考慮し、視覚支援を取り入れながら音声言語でのやりとりで不足している部分を補えるように、まずは教師間で共有したいと思います（個人的な関心でした）。
音声言語での表出にとらわれるのではなく、児童生徒の行動を正しくみとる力を職員一人ひとりが身につけること。伝える、伝わるということが、どういう事なのか職員間でわかり合えることが必要。一人ひとりの「分かる」「できる」を正しく見とれる力と、それを説明できる力を付けたい。
学園との連携。友達とのやりとり多くし、教師から離れて行動できる時間を更に増やし楽しませたい。学習の中で、初めての活動を増やし集中する力を更に伸ばしたい。発作への対処も素早く行いたい。職員にも良さアピールして褒めてもらえるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事のシンプル化</li> <li>・学習環境（場や人）やグループなどをわかりやすくする。</li> <li>・目標や支援方法の共通理解</li> </ul>
学習スペースの整備
環境の工夫、構造化、教材・教具の工夫
環境の設定、医療関係との連携
気持ちを伝える手段、気持ちを静める場所や手段を増やす支援を充実させていきたい。
見通しを持たせた活動をすると共に、体験や経験を積み重ね少しずつ慣れさせる。安心できるものや場所を作っておく。失敗したと思わないような肯定的な声掛けをする。
構造化等、環境を整えるだけではなく、できるだけありのままの社会の生活に適応できるよう支援していくことも必要である。
高等部段階になってしまうと生活スタイルが固まってしまう、修正が難しい。基本的な生活習慣（排泄、食事、着脱、睡眠等）は小・中学部のうちに確立することが重要である。最近、教師も保護者も「自閉症だから」と言って、できないことを諦めたり、障害のせいにして、結局譲ってしまう傾向がないだろうか？障害特性には配慮しながらも、自閉症でもそうでなくても良いことは大いに褒め、ダメな時はとことん話し合ったりして良いのではないかと思う。
思春期を迎えている児童生徒への指導・支援の在り方
指導者の共通理解。
指導方針の共通理解。授業、ティームティーチングの機能の充実。
児童生徒同士の関わりの場面を設定しながら、日常の場面で他者に要求をしたり助けを求めたりするスキルを身につけさせること。
自閉症のための視覚支援ツールは誰にでもわかりやすいのでユニバーサルデザインのようなものだと思う。自閉症だから、そうではないからというくりで見るとは、その子にどのような支援が必要であるかということが重要であると思われる。
自閉症児の理解と関わり方の全体的な底上げ。
周りの思い込みによって、可能性を狭めないようにしていきたいと思います
順序だてて話すことなど。
小学部低学年から基本的な生活習慣を身につける。学校内での指導方法の統一。卒業後に向けての保護者への啓蒙
障がいの特性や子どもの気持ちを十分に考慮せずに指導してしまうことが少なからずあると考えられる。TTのメリットを生かしてチームで指導に当たること、専門家の意見等を現場に取り入れていくこと、保護者や地域と一緒に子ども一人一人にあった将来設計をしていくことが大事だと思う。
情緒面の安定と様々な状況での活動。
職員の専門性の向上。
職員の努力では限界もありカバーしきれない、ハード面の充実。
身に付いてしまった誤学習の改善とそれに向けた組織的な取り組み。家庭の理解と連携。
進路実現に向け、話し方を直していきたい。
生徒主体の行事や時間割の設定
専門性の向上
提示の仕方や指示の出し方を簡潔にわかりやすくしていきたい。また、たくさんの人と関わっていけるように、言葉遣いやあいさつなどの定着を図っていきたい。
適切な実態把握をもとにした校内の指導と支援に対する般化への適切な移行
得意、不得意なことを明確にし、適切な目標の設定と支援方法を探っていきたい。
特徴・特質に合わせた指導支援をすることも確かに大切だが、自閉症児だけをピンポイントで取り上げたり集めたりして指導するのではなく、いろいろな友達と関わりながらいろいろな集団の中での活動に慣れていくことも重要だと感じる。
必要以上の配慮は、学校教育段階（中学部）までは取り除いていくべき。生徒の取り組みやすい環境を作ることも大事だが、その環境ではなくても、納得しながら（我慢しながら）取り組む経験を積まないと、学校外に出ても狭い範囲での生活になると思う。生徒にとっては幸せな生活かもしれないが、学校教育段階ではまだ範囲を決める段階ではないと思う。
保護者との共通の生徒理解
様々な実態やニーズのある生徒がいるクラスの中では個別に支援できる余裕、指導人数、場所が必要であると考えているが、実情は難しい。

【小・中学校 特別支援学級】

きめ細かな指導を一層充実させるために8人という定数を少なくしてほしい。
こだわりを児童の個性としてとらえて、伸ばしていったいいものは伸ばしていく発想が大切かと思います。
サポートする人たちの増員と研修の強化
ひとりひとりの生徒の個性の理解に努め、生徒の好きなことや得意なこと、興味があることを見つけて自己肯定感を育て、支援していくことが大切だと思います。その中から進路、就労につながる目標を設定できたらと考えています。
継続力・持続力をつけるための練習が必要だと思います。また、本人が集中できるものを見つけていくことも重要だと思います。将来の生活を考えると、余暇の過ごし方、大人になって付き合える地域の仲間などをつくる気配りが必要に思う。
自分の気持ちを素直に伝えることが難しいので、児童が複数いる場合、学級担任のほかにもサポートの先生がついたほうがよいと思う。
自閉症といっても多様ですので、個々の実態をきちんと把握し、時々、把握が適切か見直し、実態を常にとらえて指導にあたるというあたりまえのことにいつも意識を向けたいものだと思います。
自閉症に限らず、生活しにくさを感じている様々な人がいることを知り、自分が、その人の身になって考える習慣をつけること。
自閉症の児童が、何で困っているかを周囲が理解してわかり合う。交流学习で周囲が自然に支援の方法を身につけていく。
自閉症の生徒への指導、支援の充実に向けての改善は中心になる教職員も必要であるが、他の教職員の協力や助言が大きいと思われる。改善すべき点についての共通理解があり、常日頃生徒について話し合いがなされていけば、さらなる充実につながっていくと思われる。
自閉症児の発達に伴う指導、支援の方法を探り、実施すること。良さに気づき、それを伸ばせる教師になること。
集団の中でどう行動したらいいかを習得することはできるが、人と本当に関わっていける力をつけることがとても難しい。
進学・就労後の生活も見越した自立の力につなげるため、現在実施すべき支援を検討する。
担任する教職員ばかりでなく、関わる人のできるだけ多くが、適切な指導・支援の在り方について学ぶことが大切。本人の困り感を理解した上で、自立に向けた指導を目指したい。
仲良しの友だち以外でも、あいさつや「ありがとう」などの基本的な言葉のやりとりができるようにすること。自分の気持ちや希望を相手がだれでも話せるようになること。
特別支援教育の担当者のみが抱え込まず、教職員間で児童生徒の情報を共有し全体で指導していく体制作りに努めていくことが必要であると感じます。
「始めて会った人に道を聞く」などの場面を設定してのソーシャルスキルの実施。そのようなことをいろいろな場面を設定して行う。
<外部機関との連携> 検査した結果は、家庭だけでなく学校の方にも必ず連絡（分かる）するシステムに変えてほしい。この情報も参考にしながら支援体制を考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の研修だけでなく、教職員全員の自閉症のある児童生徒の理解</li> <li>・現在、最大9名となっている在籍数の見直し。きめ細かい指導を計画実施するためには多すぎる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携体制</li> </ul>
関連する機関が、該当する児童の学齢期、（思春期）、青年期等における課題や本人のよさを共通理解し、適切な支援をしていくこと。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の定着を目指していきたい</li> <li>・物事への取り組み方や物事への興味の持ち方を改善していきたい</li> <li>・興味のあるものを見つけたり、「やってみようかな」という気持ちを持たせたりしたい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室環境を整備する</li> <li>・学習の仕方をパターン化する</li> <li>・「こだわり」を生かし、長所となるように指導・支援する</li> </ul>
研修の機会を増やし、担任間での指導の差や自閉症への理解の差をなくすようにしていく
個に応じた細やかな指導の在り方を具体化すること。
個別の指導計画の充実・保護者にも個別の指導計画の作成に加わってもらい保護者と学校とで共通の目標を持っていきたい。
子ども同士の関わりの中で、友達の言動に対して傷つき心を閉ざす傾向が見られる。また、自分の言動が場にそぐわないものであったり、他者に対して失礼なものであったりする時が見られる。その時々に応じて支援が必要であるし、理解できる環境が必要だと思う。
指示された内容を理解し、その内容を継続してやること。
児童が意欲的に学習できるような教材教具の工夫・児童の情緒の安定を第一に考えた指導内容の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症といっても、それぞれ個性が違うので、個々の実態に合わせた指導、支援を充実させていきたい</li> <li>・周囲の理解が不可欠だが、適切に対応してもらっていると思う。今後も継続していきたい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症について、特別支援の担当だけでなく、学校全体で学習をし、理解をしていく</li> <li>・保護者等にも啓蒙していく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症の特性の理解</li> <li>・ソーシャルスキルの充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症の特性の理解</li> <li>・ソーシャルスキルの充実</li> </ul>

自閉症児への適切な指導・支援の仕方の研修を深める
社会生活に必要な生活習慣や技能を身に付けさせるための指導の充実
障がいの特徴に合わせた教材の工夫
障害に対する教職員の理解・実働的な校内体制
進学や就労についての保護者への情報提供の在り方
・先生方の理解向上 ・父母への啓もう
適切な指導方法について理解を深めること
・偏見をなくすこと ・積極的に検査を受け、診断をしてもらうことにより、早い時期から子どもに適した指導を受けられるようにすることが望ましい ・幼稚園や小学校から学校内（職員間）や保護者への理解と啓発が必要であると思う
保護者との更なる連携
将来に向けての話し合いや情報収集
ソーシャルスキルトレーニングの方法・評価チェックシートなどの資料が学校に備えてあるといい。
その子に入る支援の方法を見つけること。その子が、自分の世界から抜け出し、現実の世界に素早く適応できるようになる方法をみつけること。周りの子どもたちがその子に合った付き合い方ができるようになること。家や学校を良い言語環境にすること。
・どの児童にも言えることだが、活動の見通しを持てるようにスケジュールを作成したり、約束や、皆の動きを知らせたりする教材・教具を作成する時間を確保すること ・児童が困っていることを知ることができるよう支援の時間を確保すること。複数の児童の様子を参観したり、支援したりできるように支援員の数が適度に確保されること
ペアレント支援の場合あれば、家族の対応が変わり、自立への良い習慣が身につくと考える。下校後の生活のスキルについても、両親の理解のもと専門的指導がほしい。
やはり、早い時点（3歳までに）での親の障害に対する認知と、支援の体制づくりが必要。教師の指導スキルを高めることも大切だと思う。
ゆとりのある見通しをもった個別の支援計画の策定が必要。ある程度見通しを持った継続した教科指導が必要。
意志表出、会話、返事やあいさつ、礼儀やマナー、集団参加に関するルールや協調性、他者の意図や感情の読み取り
一層の職員間の理解と協力、周囲の認識とその対応
家庭との連絡を密にして、連絡漏れのないようにしたい。
課題となることの原因が家庭でのくらしに大きくかかわっていても、障がいのせいであるかのように捉えられ、改善策を見つけにくいことがある。入学前の支援や家庭生活における支援、放課後施設での支援など、共通理解のもとに一貫した支援をしていくことが大切であると思われる。
各学校に専門的知識のある職員の配置を望みます。
学級では、自分の思いを何でも話そうとするが、交流学級や他学年の中に行くと言さなくなってしまう。休み時間など他の学年と交流の機会をもち関わりを増やしていきたい。
学級内の設備の充実
学校体制の確立、校内・担当者の研修、保護者の連携、担当者支援・学級連携(担任連携)
学校内の職員間の理解と連携
学習・生活面や対人関係を支援する人的確保。
学年が上がるにつれ、交流学級の児童との交流が難しくなりそうなので、全校で理解が必要となる。
環境整備、周りの理解（教師、児童、保護者）
環境整備や教材・教具の充実。
居住地での交流を図る。
教室環境 自閉症児への対応の共通理解
具体的な目標の設定とエビデンスに基づく評価
計画的に指導を進めるためにも、特別支援学級としての指導計画を見直し、改善していかなければならない。
現在の課題に対する指導は重要であるが、それだけでなく、将来を見据えた今後の過ごし方、進路について考える機会を小学校のうちから持てるように担任は関わってきたい。 家の人が、子どもの将来をイメージできるような働きかけをしたり、また、将来の選択を広げられるような指導を取り入れたりすることが大事であるとする。
現在は支援学級に自閉症の生徒は在籍していませんが、以前は柔軟に対応するというより、生徒を教育課程に合わせようとする傾向が強かったです。個別の支援計画をもとに、個に応じた指導を心がけています。
言語理解、基本的な生活習慣、ルールの理解、自己理解、ソーシャルスキルの習得
個としての指導の場と、それをもとにした集団の場での実践。
個々により対応が変わってくるので、私自身がもっと勉強していかなければならないと感じる。その時間作りの努力をしたい。

個々の障がいの程度を的確に把握し、その支援方法を早期にみつけ、その子に適した支援をする為の学習をもっと深めていきたい。
交流の充実
交流学級の指導者の共通理解を図ること
交流学級等大きい集団での過ごし方や、友達との関わり方。
構造化を実現できる教室・教材教具の充実を図るようにしていきたい。通常学級の児童生徒、また、保護者の方たちにも自閉症児の特性や配慮すべき点等伝えていく必要があると思う。
高機能自閉症の疑いがある生徒の余暇活動支援が必要。中学校における医療的ケアの充実。
在籍学年の児童との交流を増やしていきたい支援に頼り切ってしまう様子が見られるので自分で考えたり、周りの様子を見たりしながら、行動できるよう指導をしていきたい。
指導・支援の充実に向けて、自分の言葉で自分の意思表示ができるよう、話し方の手本を示している。また、自分のすべきことがおろそかになる傾向があるので、友達の動きや周りの様子が見えないようにする等、集中させる環境を整える必要がある。
指導者及び職員間での自閉症の障がい特性の理解
指導法、長期的にみた個別の支援計画の考え方
児童にあった指導過程の見直し。スモールステップで育てる面と、どんどん伸ばしてあげる面との指導の見極め方。命の尊さや言葉の意味を知る体験を多く取り入れること。様々な体験活動や作業活動が誰かのためになるという意味ある活動につなげて児童が達成感や喜びを感じられるようにすること。
児童の実態の共通理解
児童の特徴的な障がいについて共通理解をし、将来の見通しを持って計画的に支援すること。
児童一人に指導者（支援者）一名の割り当て環境の実現。
児童同士の環境調整
児童理解のための資料収集
自分からは集団に入れないので、集団で活動する場合は小グループでの活動にするなど、その生徒が参加しやすい環境を作ることこれから考えていかなくてはならないと思います。徐々に支援を減らして、自分でできるように支援をしていこうと思います。
自分自身の担当教科もあり、対象生徒への支援の準備時間が確保できない。
自閉症（自閉的傾向の者も含む）についての保護者の理解を得ること、適切な就学をすすめること。
自閉症スペクトラムの児童の理解、支援内容を進学先、就労先に確実に引き継ぐこと
自閉症といってもいろいろなタイプがあり、参考図書を見てもわからないことがある。実践の中から、できるだけ多くのQ&A形式の指導・支援方法が載っている資料がほしい。
自閉症といっても児童個々で大きな違いがある。対応が難しい児童（会話が成立しないなど）の場合には、複数の教師で対応できるとよい。
自閉症に対する理解を深めること
自閉症に対する理解を深めること
自閉症のある児童とそうでない児童とが共に過ごす時間や場を確保し、充実させる。一緒に取り組んだり、学習できたりするシステムや内容を確立する。
自閉症のある児童生徒に対する周囲の理解を深めること。
自閉症のある児童生徒の教育課程
自閉症のある児童生徒への指導の在り方は、その子の個性によって異なることに気付いた。一人ひとりが生活の自立を高めていくために多方面から指導や支援の方法を学んでいかなければならないと日々、心に強く感じている。
自閉症の症状に関する学習が必要
自閉症を正しく理解し、そのことを踏まえて個のニーズに応じた支援をさらに深く考えていく必要がある。
自閉症を理解するための研修を教員全てが受講し、理解していくことが必要だと思う。
周りの人達が理解するための方法を考え実践すること。
周囲と保護者との共通理解がうまく図られること。
周囲の児童・大人の正しい理解
周囲の児童や保護者、時には教職員の理解を深めるために、コーディネーターが機会あるごとに働きかけを行うことが必要だと思う。また、実態に応じた個別指導をスムーズに進めるために、通級指導教室の設置を推進すべきだと思う。
周囲の理解と、地域、社会全体の支援体制の確立。
集団の中で自分の良さを発揮できるような支援
将来的な社会生活を見すえ、個別指導だけに偏らない、集団適応の機会を増やしていく教育が、特に高機能の自閉症の生徒達に必要だと感じます。
小学校段階から就労までを見通した指導
障がいによるトラブルが起きた時、そばについていて少し励ませば乗り越えられそうな場面での人手不足。支援する人材の確保が難しい。
場の設定のための時間確保。
情緒の安定を図るための医師との連携



<p>色々な場面で細かい指導が必要であることを考えると、学級の定員が8名は多すぎると思います。現在の学級は支援員さんが4～5時間入ってくれているので、とても助かっています。大人が複数で対応することによって、望ましいコミュニケーションの仕方などを実際にやってみせて学ばせることができるのも有効であると感じています。</p>
<p>進路決定の際の適切な指導・支援。地域で理解し支えるシステムの構築。</p>
<p>成功体験を増やしていきたい。そのためには、支援者の言動も個々に応じて感情で話さないことが必要だと思います。でも悪いことは悪いとはっきり言える指導。</p>
<p>生徒個々の個性や能力に合わせた指導や支援の工夫</p>
<p>専門性の高い教員の配置</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門知識の習得のため、研修と修養に努めること</li> <li>・教育相談の拡充教材・教具の充実のための費用の確保</li> </ul>
<p>誰もがこだわりがあるとすると、誰もが自閉症とも言える。それが診断された段階で既に障がいという壁を作ってしまう現場の不理解もあると思われる。よき支援者となるよう障がいについて教師間、保護者間で共通理解し、できることをたくさん発見し、得意な部分に目を向けた支援方法を考えるべきである。保護者承諾の元、生徒の特性を理解してもらい、学級だけでなく学校全体が共に学べる環境にしていきたい。</p>
<p>知的障がい児の教育課程から、自閉症へ特化した教育課程も考える必要がある。</p>
<p>知的遅れを伴わない場合において、協力学級における教科授業に参加する教育課程を編成する流れにあるが、社会性を考えると、児童生徒を一人で参加させるには難しいものがある。支援にあたる教員が不足している。</p>
<p>中学卒業後の受け入れ先がない。高等支援学校の定員を増やしていただくとか、学校を増やしていただくとかしてほしい。また、県立高校でのフォローもほしい。初めて自閉症児の担任をして、いきなり「生活」の時間をやれといわれても、やはり難しいものがある。何をどうしたらよいかわからず、困ってしまいます。個に応じた指導が必要なのはわかりますが、テキストのようなものがあると助かります。</p>
<p>通常の学級に在籍の児童にも自閉の症状を抱える子がいるが、そのような児童に対する支援体制が充実することを願っている。</p>
<p>特性に応じたカリキュラムの作成。実践と評価による見直し。</p>
<p>特別支援学校での経験がある教員を特別支援学級に配置してほしい。</p>
<p>日常的に指導に当たる担任や教職員の研修や周りの児童生徒・保護者・地域の方がたの理解を得ていくことも支援していく者の大切な役割だと考える。</p>
<p>必死で指導・支援している最中なので、今は思いつきません。</p>
<p>保護者が拒否し、病院にもいかず診断も受けていない自閉症と思われる児童がいます。この先の事が予想されるだけにとても歯がゆいのですが、拒否されればなすすべがない。診断を受けることで、児童が生きやすい環境を整えることができると説得する信頼関係を育む事が一番難しい。</p>
<p>保護者との教育相談の実施。医療機関との連携。</p>

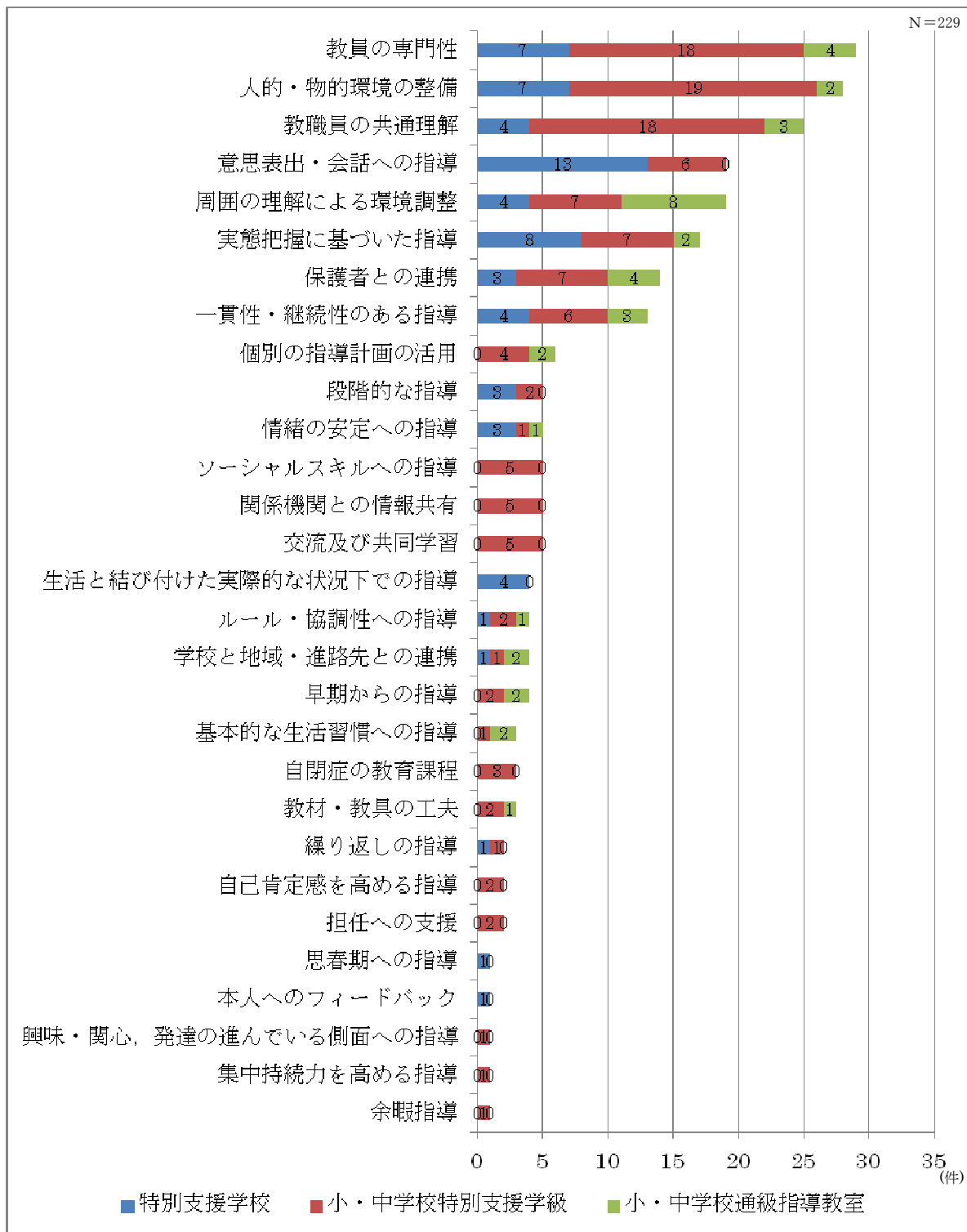
## 【小・中学校 通級指導教室】

LD教室を増やし、個々に合った学習の場の保障をしてあげたいと思う。
現在、直接指導してはいないが、周囲の環境の一員として協力していきたい。
在籍学級を育て、自閉症のある児童も安心して暮らせる環境を作ること。効果的な指導の事例を重ね職員や保護者など関係者が共有すること。
通常学級に在籍しているので、高学年になると学習についていくのが大変になると考えられる。児童へ支援をするとともに保護者と共通理解を図りながら、今後について進路について相談する必要があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤となる学級経営の充実</li> <li>・児童の実態を正しく把握し、特性に応じた支援を行っていくこと</li> <li>・周囲の人が同じ視点で関わっていくこと</li> <li>・得意なことを認め自己評価を高めていくこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材教具の工夫</li> <li>・職員間の情報交換と情報共有</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、通常学級に在籍している児童へ支援の在り方や特別支援学級に在籍した場合の指導について考えていく必要があると思われる</li> <li>・外部機関との連携や保護者への理解と協力を図っていくことの大切さが感じられる</li> </ul>
現在の学校ではないが、急なスケジュールの変更を言いきかせても自閉症児は理解できない・・・など障害の特性を全職員で学習する機会がなかった。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の充実(到達点がある程度明確にしたい)</li> <li>・指導しながらの弾力的な修正・変更</li> <li>・指導状況の共有化</li> <li>・複数の対象児がいる場あ指導内容の構造化</li> <li>・校内の支援態勢の充実(サポート人員の充実)</li> <li>・指導者の研修の充実</li> </ul>
自分に合ったペースで学習すること
自閉症に限らず、場に応じた行動を、その児童にできる内容で教えていく必要があると考える
就学前に専門機関受診や障がい告知がうまく進められなかったケースで、保護者が本児の状況を理解して専門機関を受診できるようにするための保護者支援はどのように進めればよいか。また、自閉症や発達障がいなどの診断を受けた児童の多くが、家庭での困り感がとても大きい。このようなケースの保護者支援はどのように進めていけばよいかなど保護者支援の進め方が課題である。
障がい理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定</li> <li>・整理された環境</li> <li>・意欲的に取り組める課題の設定</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見できるような気づき</li> <li>・二次的障害を防ぐための集団への働きかけ</li> <li>・児童理解できるための自閉症についての理解</li> <li>・教師間の共通理解</li> <li>・家庭と連携を取りながらの児童への働きかけ</li> </ul>
◎何よりも、その児童本人の理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者が「自閉症」に対する理解を深める(知識、対応の仕方等)</li> <li>・自閉症児のみならず、周囲の児童への対応</li> </ul>
地域との連携を広げ、深めていくこと。
<ol style="list-style-type: none"> <li>①指導できる教員の確保</li> <li>②研修の機会の確保</li> <li>③校内における共通理解</li> </ol>
その生徒が安心できる場所をきちんと作ること。
一関地区は、他地区に比べて発達障がい子どもたちへの支援について学習を深め、実践をしている。情報交換はもちろん、指導内容についても話し合う場を持ち、常に新しい取り組みをしている。小学校において、きめ細やかな支援を受けた子どもたちが中学校でも支援を継続でき、希望する高校に進学できるようなシステム(LD等通級指導教室の中学校への設置など)がほしい。
改善していきたいこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導法、支援内容(特に、生活指導的な内容について)</li> <li>・教材、教具の工夫</li> </ul>
解決すべき点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師等本人をとりまく周囲の人たちの理解が必要</li> <li>・保護者の困り感、心配等に対応できる体制</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室環境の充実</li> <li>・クールダウンできる教室の確保</li> <li>・専門的な研修の充実</li> </ul>
教職員の理解のための研修の機会が増えることが必要だと思われる。
個別の指導計画の作成
校内において、気になる児童を特別支援の体制で支援することができるようにすること
校内支援体制の充実、校内環境の整備
今年度からの担当なので、さらに研修を重ねていきたい。
指導・支援を充実させるためには、学校職員との連携（実態把握・支援体制についての共通理解と協力）だけでは十分とはいえない。保護者が児童の実態を知り、受け入れながら、学校と家庭が両方で先を見通した支援ができることが必須であると考え。児童に関わる人々が、児童の成長を認めながら、継続した支援を丁寧に行っていくことが必要であると考え。
自閉症と診断されていない児童が、通級した場合、ことばの教室でも日常生活等に関わる支援や指導を行ってきたい。
社会生活（自立）を目指すには、学校教育には限りがある。地域との協働・支援や指導を考えることが必要である。
集団の中での居場所づくり、他児童の理解とかかわり、地域の中での暮らし
集団行動や仲間との関係づくりの力を高めていくために、周囲の子どもたちへの指導をどう進めていけばよいか考え実施していくこと。
障がいの有無にかかわらず、相手の立場になって考えることのできる児童を育む心の教育が大切である。
知的能力が平均以上で適応型の場合、学校生活では過剰適応が心配されます。指導に当たる全職員がこうした児童の理解をすることで、学校不適応予防につながると考えます。
通級による指導は時間が限られているため、効果的な指導となりにくい。計画的な指導を行っていかねばならない。
通級指導を受けるにあたって、指導法に工夫する必要がある。自閉症といっても個人によって、特徴が様々あるので、その人の特徴をつかむまでに時間がかかる。できるだけ幼児期や小学校低学年のうちに適切な支援をしておかないと、高学年から成人になって就労につながらない状態になってしまうと思う。
通常学級内での指示内容の視覚化など、児童の特性に合わせた支援や教具の作成の充実

【表】指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや解決すべき点（カテゴリー分類）

	特別支援学校	小・中学校 特別支援学級	小・中学校 通級指導教室	合計
教員の専門性	7	18	4	29
人的・物的環境の整備	7	19	0	26
教職員の共通理解	4	18	3	25
意思表示・会話への指導	13	6	0	19
周囲の理解による環境調整	4	7	8	19
実態把握に基づいた指導	8	7	2	17
保護者との連携	3	7	4	14
一貫性・継続性のある指導	4	6	3	13
個別の指導計画の活用	0	4	2	6
段階的な指導	3	2	0	5
情緒の安定への指導	3	1	1	5
ソーシャルスキルへの指導	0	5	0	5
関係機関との情報共有	0	5	0	5
交流及び共同学習	0	5	0	5
生活と結び付けた実際的な状況下での指導	4	0	0	4
ルール・協調性への指導	1	2	1	4
学校と地域・進路先との連携	1	1	2	4
早期からの指導	0	2	2	4
基本的な生活習慣への指導	0	1	2	3
自閉症の教育課程	0	3	0	3
教材・教具の工夫	0	2	1	3
繰り返しの指導	1	1	0	2
自己肯定感を高める指導	0	2	0	2
担任への支援	0	2	0	2
思春期への指導	1	0	0	1
本人へのフィードバック	1	0	0	1
興味・関心、発達の進んでいる側面への指導	0	1	0	1
集中持続力を高める指導	0	1	0	1
余暇指導	0	1	0	1



【図】 指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや解決すべき点 (カテゴリー分類)

#### 【分析と考察】

特別支援学校においては「意思表出・会話」の回答数が最も多い。具体的な指導内容を設定するなどの取組の充実が必要であると思われる。

小・中学校特別支援学級では、「教員の専門性」の回答数が最も多い。次いで「人的・物的環境の整備」、「教職員の共通理解」の回答数が多い。これらのことから、小・中学校特別支援学級における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けては、まずは推進面に関するさらなる取組が必要であるものと思われる。

小・中学校通級指導教室においては、「周囲の理解による環境調整」の回答数が最も多い。通級による指導を受けている児童生徒は、多くの時間を通級指導教室以外の場所で学校生活をおくっている。したがって、通級指導教室担当者が、児童生徒にかかわる担任等とさらなる連携を図るなどして、通級指導教室以外の場所での環境調整につなげていくことが必要であるものと思われる。

# 【質 問 紙】

岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒への  
指導・支援状況に関する調査実施要項

岩手県立総合教育センター  
教育支援相談担当

1 調査目的

この調査は、岩手県内の国立・県立特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室を対象に、自閉症（アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害を含む）のある児童生徒の実態や教育課程、指導・支援状況等を明らかにするためのものです。

2 調査対象

国立・県立特別支援学校（知的障害）学級担任  
小学校特別支援学級（知的障害，自閉症・情緒障害）学級担任  
小学校通級指導教室（言語，難聴，LD等）担当者  
中学校特別支援学級（知的障害，自閉症・情緒障害）学級担任  
中学校通級指導教室（言語，難聴，LD等）担当者

3 調査校

国立・県立特別支援学校（知的障害）11校  
特別支援学級（知的障害，自閉症・情緒障害），通級指導教室（言語，難聴，LD等）設置校  
小学校：207校  
中学校：117校

4 調査実施の方法と期間

(1) 方法

調査用紙の配布は、小・中学校へは総合教育センターより当該教育事務所，当該市町村教育委員会を通して行います。国立・県立特別支援学校へは総合教育センターより直接配布します。

回収については、各校から当センター教育支援相談担当への直接返送（メール）により行います。

(2) 期間

ア 配布及び調査

- ・平成23年 9月21日（水） 当該教育事務所，国立・県立特別支援学校に送付
- ・平成23年 9月21日（水）～平成23年 10月14日（金） 当該調査校で調査実施

イ 回収

- ・平成23年 10月14日（金）までに当センター教育支援相談担当宛へ直接メールにて返送

# 岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒への指導・支援状況に関する調査

岩手県立総合教育センター  
教育支援相談担当

## ■調査について

この調査は、国立・県立特別支援学校（知的障がいのある児童生徒が在籍している学級）・特別支援学級（知的障がい、自閉症・情緒障がい）・通級指導教室（言語、難聴、LD等）を対象に、自閉症（アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がいを含む）のある児童生徒の実態や教育課程、指導・支援状況等を明らかにするためのものです。

## ■回答について

- ・回答は、各校から当センター教育支援相談担当への直接返送（メール）してください。
- ・ファイルには、【校名・学年学級名】を記入し、各校で取りまとめ ZIP 形式で返送してください。

## ■「自閉症」とは

この調査においては、「自閉症」について、次のように規定します。

- ・小児自閉症、非定型自閉症を含む自閉症
- ・アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がいを含む

※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害に分類されるものである。（文部科学省 Web ページより引用）

## ■「自閉症のある児童生徒」とは

この調査においては、「自閉症のある児童生徒」について、次のように規定します。

- ・診断のある児童生徒
- ・診断はないが疑いのある児童生徒



質問紙（特別支援学校・特別支援学級用）

質問 1

平成 23 年 4 月 1 日現在、あなたは、特別支援教育に携わって何年目（講師経験含む）ですか。該当する番号を入力してください。

- 1 1～5年
- 2 6～10年
- 3 11～15年
- 4 16～20年
- 5 21～25年
- 6 26～30年
- 7 31年～

質問 2

あなたは、特別支援学校教諭免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

質問 3

あなたは、自立活動免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

質問 4

あなたの学級のすべての児童生徒の様子について、以下の表に当てはまる番号を入力してください。

	自閉症の診断 1 診断あり 2 疑いあり（診断なし） 3 診断なし	【左欄において、「1 診断あり」、「2 疑いあり（診断なし）」 とした児童生徒のみ記入ください】 知的発達 1 ～ I Q 49 ※測定不能も含む 2 I Q 50～69 3 I Q 70～89 4 I Q 90～ 5 未測定	【左欄において、「1 診断あり」、「2 疑いあり（診断なし）」 とした児童生徒のみ記入ください】 学校生活における集団活動への適応状況 1 常に支援が必要 2 多くの場面で支援が必要 3 ほほ一人で活動できる 4 一人で活動できる
Aさん			
Bさん			
Cさん			
Dさん			
Eさん			
Fさん			
Gさん			
Hさん			
Iさん			
Jさん			
Kさん			
Lさん			
Mさん			
Nさん			
Oさん			
Pさん			
Qさん			
Rさん			
Sさん			
Tさん			

※ 学級に自閉症のある児童生徒が一人も在籍していない方は（質問 4 において、全員が「3 診断なし」の場合）、以下の「質問 5」、「質問 7」、「質問 8」、「質問 11」、「質問 12」、「質問 13」をお答えください。

※ 学級に自閉症のある児童生徒が在籍している方は、そのまま「質問 5」にお進みください。

## 質問 5

あなたの学級の児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

- 1 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- 2 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- 3 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- 4 適切な遊び・余暇
- 5 認知発達又は教科の力
- 6 体力・運動能力
- 7 作業能力
- 8 返事や挨拶
- 9 意思表示・会話
- 10 情緒の安定
- 11 活動への見通し
- 12 状況の理解や変化への対応
- 13 主体的な取組や意欲
- 14 忍耐力
- 15 他者への信頼感
- 16 自己理解
- 17 他者の意図や感情の読み取り
- 18 礼儀やマナー
- 19 集団参加に関するルールや協調性
- 20 その他

→ 5 - 20

質問 5 で、「20 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 6

あなたの学級の自閉症のある児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

- 1 基本的生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- 2 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容
- 3 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- 4 適切な遊び・余暇
- 5 認知発達又は教科の力
- 6 体力・運動能力
- 7 作業能力
- 8 返事や挨拶
- 9 意思表示・会話
- 10 情緒の安定
- 11 活動への見通し
- 12 状況の理解や変化への対応
- 13 主体的な取組や意欲
- 14 忍耐力
- 15 他者への信頼感
- 16 自己理解
- 17 他者の意図や感情の読み取り
- 18 礼儀やマナー
- 19 集団参加に関するルールや協調性
- 20 その他

→ 6 - 20

質問6で、「20 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 7

あなたの学級の教育課程について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 重視している 2 どちらかといえば重視している 3 どちらかといえば重視していない 4 重視していない ≫

- ① 領域・教科を合わせた指導を中心とした編成
- ② 教科別の指導を適切に位置付けた編成
- ③ 児童生徒の様子に合わせたグルーピングを可能とする編成
- ④ 児童生徒の様子に合わせた複数の教育課程を可能とする編成
- ⑤ 準ずる教育課程を基本とした編成
- ⑥ 見通しをもった日課を実現できるための編成
- ⑦ 道徳教育を適切に位置付けた編成
- ⑧ 体育・健康に関する指導を適切に位置付けた編成
- ⑨ 個々の児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を把握し、改善・克服する場面を位置付けた編成
- ⑩ 校内の施設設備等を考慮に入れた編成

## 質問 8

自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いませんか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

## 質問 9

あなたの学級では、自閉症のある児童生徒に対して、どのような指導形態において、自立活動を取り入れた指導・支援を行っていますか。当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている
- 2 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている
- 3 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている
- 4 取り入れていない

→ 9 - 1

質問 9 で「1 領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要と思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要と思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表出・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

→ 9 - 1 - ⑳

9 - 1 で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## → 9 - 2

質問9で「2 教科別・領域別の指導において、自立活動を取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表示・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

## → 9 - 2 - ⑳

9 - 2で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## → 9 - 3

質問9で「3 特設した自立活動の時間における指導として取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表示・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

## → 9 - 3 - ⑳

9 - 3で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→ 9 - 4

質問 9 で「4 取り入れていない」を選択した方へ  
取り入れていない理由を書いてください。



※**質問 12**にお進みください。

### 質問 10

自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して、取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 教室等の物理的構造化
- 2 活動等のスケジュールの構造化
- 3 安心して活動できる環境調整
- 4 教材・教具の工夫
- 5 段階的な指導内容や学習活動
- 6 トークンシステムの利用
- 7 児童生徒の自己評価
- 8 学校生活や地域生活と結び付けた指導内容
- 9 学校生活や地域生活等の実際の場面における学習活動
- 10 発達の進んでいる側面のさらなる促進
- 11 自ら環境を整えたり、周囲の人に支援を求めたりする場面の設定
- 12 実態把握を基にした優先する自立活動の目標の設定
- 13 優先する自立活動の目標に基づいた、学習活動や活動場面の選択
- 14 優先する自立活動の目標に基づいた、学習活動や活動場面の設定
- 15 具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標の設定
- 16 自立活動の基本的な考え方に関する教師間の共通理解
- 17 共に授業を行う教師間による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 18 対象となる児童生徒の在籍する学年内による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 19 学校内による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 20 進学先等との、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 21 その他

→ 10 - 21

10 で、「21 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 11

自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付いていますか。当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 はい 2 いいえ ≫

※「2 いいえ」を選択した場合、質問 12にお進みください。

→11-1-①

質問 11 で「1 はい」を選択した方へ

自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 自立活動の欄に、自立活動の目標や指導内容を記述
- 2 個別の指導計画のはじめ、あるいは、最後に位置付いている全体の目標の欄に、自立活動の目標や指導内容を記述
- 3 領域・教科を合わせた指導の欄に、自立活動の目標や指導内容を記述
- 4 特設した自立活動の時間以外の教科別・領域別の指導の欄に、自立活動の目標や指導内容を記述
- 5 自立活動の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述
- 6 特設した自立活動の時間の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述
- 7 個別の指導計画のはじめ、あるいは、最後に位置付いている全体の目標の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述
- 8 領域・教科を合わせた指導の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述
- 9 特設した自立活動の時間以外の教科別・領域別の指導の欄に、自立活動の目標や指導内容に対する支援方法を記述
- 10 その他

→11-1-①-10

11-1-①で、「10 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→11-1-②

質問 11 で「1 はい」を選択した方へ

個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。

当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の共通理解資料として活用
- 2 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての保護者や関係機関との共通理解資料として活用
- 3 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての引継資料として活用
- 4 領域・教科を合わせた指導の単元計画のための資料として活用
- 5 教科別・領域別の指導の単元計画のための資料として活用
- 6 特設した自立活動の時間の単元計画のための資料として活用
- 7 PDCA サイクルのもと、一貫性のある継続した指導・支援の実現のための資料として活用
- 8 個別の教育支援計画作成のための資料として活用
- 9 個別の指導計画そのものは活用しないが、共通理解や単元計画の際の基礎資料として活用
- 10 その他

→11-1-②-10

11-1-②で、「10 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 12

自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や、就労の実現に向けて必要となることは、どのようなことが考えられるでしょうか。自由にお書きください。

## 質問 13

自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや、解決すべき点について、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。



質問紙（通級指導教室用）

質問 1

平成 23 年 4 月 1 日現在、あなたは、特別支援教育に携わって何年目（講師経験含む）ですか。該当する番号を入力してください。

- 1 1～5年
- 2 6～10年
- 3 11～15年
- 4 16～20年
- 5 21～25年
- 6 26～30年
- 7 31年～

質問 2

あなたは、特別支援学校教諭免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

質問 3

あなたは、自立活動免許状をお持ちですか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

質問 4

あなたの教室の児童生徒の様子について、以下の表に当てはまる番号を入力してください。

	自閉症の診断 1 診断あり 2 疑いあり（診断なし） 3 診断なし	【左欄において、「1 診断あり」、「2 疑いあり（診断なし）」 とした児童生徒のみ記入ください】 知的発達 1 ～IQ49 ※測定不能も含む 2 IQ50～69 3 IQ70～89 4 IQ90～ 5 未測定	【左欄において、「1 診断あり」、「2 疑いあり（診断なし）」 とした児童生徒のみ記入ください】 学校生活における集団活動への適応状況 1 常に支援が必要 2 多くの場面で支援が必要 3 はほぼ一人で活動できる 4 一人で活動できる
Aさん			
Bさん			
Cさん			
Dさん			
Eさん			
Fさん			
Gさん			
Hさん			
Iさん			
Jさん			
Kさん			
Lさん			
Mさん			
Nさん			
Oさん			
Pさん			
Qさん			
Rさん			
Sさん			
Tさん			

※ 教室に自閉症のある児童生徒が一人も在籍していない方は（質問 4 において、全員が「3 診断なし」の場合）、以下の「質問 5」、「質問 7」、「質問 10」、「質問 11」、「質問 12」をお答えください。

※ 教室に自閉症のある児童生徒が在籍している方は、そのまま「質問 5」にお進みください。

## 質問 5

あなたの教室の児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

- 1 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- 2 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- 3 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- 4 適切な遊び・余暇
- 5 認知発達又は教科の力
- 6 体力・運動能力
- 7 作業能力
- 8 返事や挨拶
- 9 意思表示・会話
- 10 情緒の安定
- 11 活動への見通し
- 12 状況の理解や変化への対応
- 13 主体的な取組や意欲
- 14 忍耐力
- 15 他者への信頼感
- 16 自己理解
- 17 他者の意図や感情の読み取り
- 18 礼儀やマナー
- 19 集団参加に関するルールや協調性
- 20 その他

→ 5 - 20

質問 5 で、「20 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 6

あなたの教室の自閉症のある児童生徒への指導内容として優先度の高い課題を順に、以下の番号から5つ入力してください。

- 1 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- 2 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- 3 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- 4 適切な遊び・余暇
- 5 認知発達又は教科の力
- 6 体力・運動能力
- 7 作業能力
- 8 返事や挨拶
- 9 意思表示・会話
- 10 情緒の安定
- 11 活動への見通し
- 12 状況の理解や変化への対応
- 13 主体的な取組や意欲
- 14 忍耐力
- 15 他者への信頼感
- 16 自己理解
- 17 他者の意図や感情の読み取り
- 18 礼儀やマナー
- 19 集団参加に関するルールや協調性
- 20 その他

→ 6 - 20

質問 6 で、「20 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 7

自閉症のある児童生徒に対して、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が必要だと思いませんか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

## 質問 8

あなたの教室では、自閉症のある児童生徒に対して、どのような指導形態において、自立活動を取り入れた指導・支援を行っていますか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている
- 2 通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている。
- 3 在籍学級での学習や生活場面において、自立活動の内容を取り入れている
- 4 取り入れていない

→ 8 - 1

質問 8 で「1 通級による指導において、自立活動の時間として取り入れている」を選択した方へ取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表出・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

→ 8 - 1 - ⑳

8 - 1 で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→ 8 - 2

質問 8 で「2 通級による指導において、各教科の補充指導の中で、自立活動の内容を取り入れている」を選択した方へ

取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表示・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

→ 8 - 1 - ⑳

8 - 1 で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→ 8 - 3

質問 8 で「3 在籍学級での学習や生活場面において、自立活動の内容を取り入れている」を選択した方へ  
取り入れている指導内容について、当てはまる番号を入力してください。

≪ 1 取り入れている 2 どちらかといえば取り入れている 3 どちらかといえば取り入れていない 4 取り入れていない ≫

- ① 基本的な生活習慣（着替えや食事等の身辺自立に関する内容）
- ② 家庭生活に必要なと思われる調理や洗濯等に関する内容
- ③ 地域生活に必要なと思われる買い物や交通機関の利用等に関する内容
- ④ 適切な遊び・余暇
- ⑤ 認知発達又は教科の力
- ⑥ 体力・運動能力
- ⑦ 作業能力
- ⑧ 返事や挨拶
- ⑨ 意思表示・会話
- ⑩ 情緒の安定
- ⑪ 活動への見通し
- ⑫ 状況の理解や変化への対応
- ⑬ 主体的な取組や意欲
- ⑭ 忍耐力
- ⑮ 他者への信頼感
- ⑯ 自己理解
- ⑰ 他者の意図や感情の読み取り
- ⑱ 礼儀やマナー
- ⑲ 集団参加に関するルールや協調性
- ⑳ その他

→ 8 - 3 - ⑳

8 - 2 で、「⑳ その他」において「1 取り入れている」あるいは「2 どちらかといえば取り入れている」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→ 8 - 4

質問 8 で「4 取り入れていない」を選択した方へ  
取り入れていない理由を書いてください。

※質問 11 にお進みください。

## 質問 9

自閉症のある児童生徒に対する自立活動を取り入れた指導・支援を行うに際して、取り組んでいることとして、当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 教室等の物理的構造化
- 2 活動等のスケジュールの構造化
- 3 安心して活動できる環境調整
- 4 教材・教具の工夫
- 5 段階的な指導内容や学習活動
- 6 トークンシステムの利用
- 7 児童生徒の自己評価
- 8 学校生活や地域生活と結び付けた指導内容
- 9 学校生活や地域生活等の実際の場面における学習活動
- 10 発達の進んでいる側面のさらなる促進
- 11 自ら環境を整えたり、周囲の人に支援を求めたりする場面の設定
- 12 実態把握を基にした優先する自立活動の目標の設定
- 13 優先する自立活動の目標に基づいた、学習活動や活動場面の選択
- 14 優先する自立活動の目標に基づいた、学習活動や活動場面の設定
- 15 具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標の設定
- 16 自立活動の基本的な考え方に関する教師間の共通理解
- 17 共に授業を行う教師間による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 18 対象となる児童生徒の在籍する学年内による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 19 学校内による、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 20 学校間での、対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての共通理解
- 21 その他

→ 9-21

9で、「21 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

## 質問 10

自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画に位置付いていますか。当てはまる番号を入力してください。

《 1 はい 2 いいえ 》

※「2 いいえ」を選択した場合、質問 11にお進みください。

→ 10-1-①

質問 10 で「1 はい」を選択した方へ

自立活動の目標や指導内容等は、個別の指導計画へどのように位置付けていますか。当てはまる番号を入力してください。

- 1 児童生徒の障がいの改善・克服に関する優先目標として個別の指導計画のはじめに記述
- 2 ことばの教室や、きこえの教室でこれまで用いられてきている「構音指導、習熟指導、言語発達促進指導等」の中に位置付けて記述
- 3 自立活動の区分や項目を参考にした項を設定して記述
- 4 在籍学級での学習や生活場面を視野に入れた項を設定して記述
- 5 その他

→10-1-①-5

10-1-①で、「5 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

→10-1-②

質問 10 で「1 はい」を選択した方へ

個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等は、どのように活用していますか。

当てはまる番号を入力してください。（複数選択可）

- 1 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての教師間の共通理解資料として活用
- 2 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての保護者や関係機関との共通理解資料として活用
- 3 対象となる児童生徒への指導内容や支援方法についての引継資料として活用
- 4 在籍学級での生活場面における指導・支援のための資料として活用
- 5 在籍学級での学習場面における指導・支援のための資料として活用
- 6 通級による指導における指導計画のための資料として活用
- 7 PDCA サイクルのもと、一貫性のある継続した指導・支援の実現のための資料として活用
- 8 個別の教育支援計画作成のための資料として活用
- 9 個別の指導計画そのものは活用しないが、共通理解や指導計画の際の基礎資料として活用
- 10 その他

→10-1-②-10

10-1-②で、「10 その他」を入力した場合、具体的な内容を書いてください。

#### 質問 11

自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や、就労の実現に向けて必要となることは、どのようなことが考えられるでしょうか。自由にお書きください。

#### 質問 12

自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に向けて改善していきたいことや、解決すべき点について、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。